

Ⅰ. 景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着きをみせていたこともあって、県をまたぐ旅行の予約、問合せが著しく増加する傾向にあった。都市部への旅行に関しては大型レジャー施設を除けば低調だが、地方への旅行が需要全体を押し上げている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・ウィズコロナの考えが浸透していることで街の出入が増えている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・売上は前年比で303.6%、前々年比で403.2%、新型コロナウイルス発生前の2019年比で60.7%となっている。2019年との比較では初めて60%を超えることができた。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・月を追うごとに売上が増加している。7月の売上は新型コロナウイルス発生前の2019年との比較で70%台まで回復しており、回復の兆しがみられる。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・夏休みに入り、旅行者が目に見えて増えている。新型コロナウイルス新規感染者数は増加しているが、来客数は以前の水準に戻りつつある。
		百貨店（営業販売促進担当）	単価の動き	・衣料品が好調に推移していることから、客単価が上昇している。ただ、直近の新型コロナウイルスの感染拡大が悪影響を及ぼし始めている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の第6波が落ち着いたことで、ゴールデンウィーク以降の動きが好調であった。ただ、ここに来て第7波による新規感染者数が急増していることで7月中旬から客の動きが鈍くなり始めている。また、円安やウクライナ情勢の影響による物価高の影響も出始めている。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の第7波の急拡大により、外食を控えて自宅で食事する傾向が再びみられるようになっている。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・前年と比べると、観光客も含めて客の動きが活発であり、それが売上にも反映されている。新型コロナウイルスの新規感染者数が急増しているが、経済を回すために国の政策を十分理解した上で自社でできることを着実に実行することが求められている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・市況は余り変わらないが、天候や気温に左右される飲料、ビール、アイスなどの販売量の動きがプラスとなっており、前年並みの売上をどうにか維持できている。ただ、7月前半の天候は良かったが、後半の天候が崩れたため、後半の売上が落ちている。
		自動車備品販売店（店長）	お客様の様子	・来客数が増えている。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・マスクこそしているが、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限に対して、もう良いだろうという考えがあふれている。各地の人も悪くない。当店の売上もようやく前年実績を超えそうだ。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えているものの、行動制限が掛かっていないこともあって、来客数が増加している。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・7月の3連休は新型コロナウイルス感染症発生前と遜色ない来客数であった。時間によっては待ち時間が発生するなど、にぎわいが戻ってきている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・自治体が進める県民割などの恩恵が大きい。徐々に勢いはなくなっているものの、現在も当施設の稼働に大きく寄与している。
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・5月以降、新型コロナウイルスの感染対策を講じた上で経済を回していく方向にかじが切られたとみられる。6～7月の航空機利用は、ビジネス需要や生活需要がいち早く回復しており、観光需要もインバウンド以外は回復基調にある。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・4～5月は新型コロナウイルス感染拡大の影響でどん底であった。現在は新規感染者数こそ増えているものの、行動制限が少ないことから、経済活動を再開する動きが強まっている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・人の動きが活発になっており、そのことが営業収入に結び付いている。ただ、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、夜間の客足が鈍っている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・人の動きが少し良くなっている。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・3か月前には1日平均1000人以下だった利用客が、7月は3000人を超える日が多くなっている。国内観光客の入込は、間違いなく新型コロナウイルス発生前の水準に近づいている。あとはインバウンドが回復すればというところまで来ている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・観光シーズンであることから輸送量が増加している。ただ、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が始めており、一時期と比べると期待値が下がっている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の日々の反応は変わっていない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・7月上旬には来街者数が回復する兆しがみえ始めたが、中旬以降は新型コロナウイルスの感染拡大に伴って来街者が激減した。観光客は元より地域住民の来街も少なくなっており、月全体としては悪い状態が続いている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・出歩く人は動いており、景気は余り変わっていない。
		百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・来客数の前年比の推移をみると、4月が93%、5月が96%、6月が90%、7月が26日時点で94%となっており、余り変動がみられない一方で、買上客数の前年比は、4月が109%、5月が116%、6月が107%、7月が26日時点で107%と順調に推移している。ただ、7月中旬からの新型コロナウイルス新規感染者数の急増に伴い、来客数、買上者数のいずれも約10%落ち込んでおり、どちらの方向に進むか不透明になっている。
		スーパー（企画担当）	お客様の様子	・これまで自粛気味だった客の生活が活動的になっている。インフレ傾向や新型コロナウイルス感染症の第7波の拡大傾向などもみられるものの、行楽や外食が盛んになっている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数自体は減少しているが、1人当たりの購入金額や買上点数が増えていることで、どうにか売上を維持できている。ただ、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えてきたため、今後の見通しについては厳しいものがある。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格の高止まりに加えて、新型コロナウイルス新規感染者数が急増していることもあって、販売量が芳しくない。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・7月半ばまでは緩やかながらも回復傾向にあったが、新型コロナウイルスの感染状況が悪化していることもあって、4～5日前から客の入込が落ち込み始めている。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・前月までは回復傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の第7波による感染拡大がみられることで、旅行取消しの間合せが増えている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が増加傾向にあることで、キャンセルが発生している。ただ、来客数全体としての変化は余りみられない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・一時期は客の動きが良くなっていたが、ここに来て新型コロナウイルスの感染が拡大していることで、急な落ち込みがみられる。今後の状況を注視することが求められている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者が再び増加しているが、第6波の時のような大幅な来客数の減少はみられない。売上も若干の減少で推移している。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・この3か月、売上に多少の変動はみられるが、来客数はほとんど変わっていない。
		美容室（経営者）	単価の動き	・繁忙期に突入したが、全体的な景気は変わっていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・今のところ、分譲マンションのモデルルームへの来訪客の様子に大きな変化はみられない。商談も順調に行われている。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・イベントなども多少は開催できたことから、通行量が順調に増えており、商店主にも安どの表情がみられたが、新型コロナウイルス新規感染者数が急激に増えていることをメディアが連日のように報道していることから、自粛の悪夢がよみがえるのではないかと心配している。実際に、酒を提供する店舗では団体予約のキャンセルが急増しており、経営者も肩を落としている。この雰囲気では各店の景気回復が遅れることになり、企業存続が本格的に危ぶまれる状況となることが懸念される。
		商店街(代表者)	販売量の動き	・現在は9月の農作物収穫時期までの空白期間であり、景気はやや悪い。
		百貨店(売場主任)	来客数の動き	・来客数の推移は頭打ち又はややマイナスでの動きとなっている。動き始めていたリベンジ需要にも陰りがみえ始めているなど、新型コロナウイルス感染症の第7波の影響が出始めている。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・3月以降、新型コロナウイルス感染症発生前に近い水準の売上を確保できていたが、新型コロナウイルス感染症の第7波がみられるようになってから、週末を中心に来客数が減少している。売上も前年並みにとどまる日が続いている。
		衣料品専門店(店長)	お客様の様子	・夏のビジネスアイテムがようやく稼働したことで、7月の売上は2019年並みの水準まであと一歩となったが、新型コロナウイルス感染症に関する報道が連日盛んに行われていることから、客足がどんどん遠ざかっている。月後半は閑散としていた。
		家電量販店(店員)	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が増えるのに伴って、来客数の動きが鈍くなり始めている。ただ、夏物家電の全体の売行きは、前年並みにとどまった。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・新車登録台数が前年の80%以下になるなど、出荷予定も見通せない状況が続いている。平常時の出荷状況に戻るまで、自動車業界の景気は横ばい又は下がることになる。
		その他専門店 [造花](店長)	お客様の様子	・商材の値上がり傾向が続いているため、買い控えがみられる。今後も不安定な状況が考えられるため、景気が一層悪くなることも懸念される。
		高級レストラン(スタッフ)	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症発生前を基準とすると、7月の売上は5割を超える程度の水準にとどまるなど、経営的にぎりぎりな状況は変わらない。7月前半は良かったが、新規感染者数の急増もあって、第4週以降は責任のある立場のような年配の男性客が少なくなった。知人のSNSにおいても外食の記事投稿が少なくなっている。また、当店は観光客の利用は少なく、地元客が中心であるが、自主対策の緩い客もみられ、接客に力が入らないことも生じている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・7月の会社全体での売上は前年比プラス20%であったが、新型コロナウイルス感染症発生前の2019年と比べるとマイナス30%であった。タクシー1台当たりの売上は、ほぼ新型コロナウイルス感染症発生前の水準に戻っているが、乗務員不足の影響で会社全体の売上は大きなマイナスとなっている。また、ここ最近の新型コロナウイルス新規感染者数の急増に伴って、夜の人出が減っており、タクシーの売上も少しずつ落ち込み始めている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の第6波の後は売上が回復基調にあったが、第7波に入った途端、行動制限が掛かっていないにもかかわらず繁華街の人出が激減した。
		通信会社(企画担当)	単価の動き	・円安の影響で人気の通信機器が7月下旬から大幅値上げとなり、それに伴い販売量が激減している。一方、格安機種については競合他社に流れる傾向がみられ、客の流出が増えている。
		住宅販売会社(経営者)	単価の動き	・ウッドショックの影響に加えて、その他の資材なども円安の影響で価格が上昇している。原価高に伴ってコストアップになっていることで、住宅も非住宅建築も計画の見直しや様子見の動きが出始めている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	スーパー（従業員）	来客数の動き	・来客数の減少が継続している。食料品の値上がりやエネルギー価格の上昇によって、買い控え傾向も顕著になっている。
	x	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・期待していた全国旅行支援が実施されなかったこともあり、道外からの予約客が増加しなかった。また、新規感染者数の急増により出控えが発生していることで、夏のシーズンの利用客も低調に推移している。コスト上昇やインフレ進行による影響もあり、景気は確実に悪くなっている。
企業 動向 関連 (北海道)		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・7月の販売量は前年比プラス6%であったが、3か月前の4月の販売量は前年比マイナス17%であったことから、景気は良くなっている。
		建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・技術員の現場配置はフル稼働状態が続き、天候も安定していることから、各工事の進捗が順調であり、計画を上回る出来高が計上できている。新型コロナウイルス感染症の第7波が始まっているが、経済活動の正常化へ向けた動きは変わっておらず、民間建築の見積り、引き合いが増えている。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症に対する一定の警戒感には消えていないが、これまでの流行期と違い、経済活動を継続する動きが強まっていることから、企業活動を巡る需要の堅調さと投資意欲の継続がみられる。
		司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増大しているが、国などによる直接的な行動制限もないことから、建築や不動産関連の営業を通常どおりに行うことができている。季節要因もあって、今のところ景気は緩やかに上向いている。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・当管内においては、民間工事や整備新幹線延伸工事、駅周辺の再開発関連など、工事量が豊富である。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・5～6月の受注量は前年並みの傾向が続いていたが、7月に入り微増傾向となっている。地方の公共工事、首都圏の民間工事が活発になっているためとみられる。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量にはほとんど変化がみられない状況である。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響が懸念される。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・現在は新型コロナウイルス感染症の第7波の初期段階とみられ、当社周辺の景気についても、今のところ変化はみられない。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・個人消費は人の動きが活発化し、サービス消費を中心に持ち直しの動きがみられる一方で、物価上昇の影響で食料品などでは節約志向が強まっている。住宅投資は資材価格が上昇していることで減少しており、公共投資も弱含みである。このため、道内景気は持ち直しの動きが一服し、3か月前と変わらない状況にある。
		司法書士	取引先の様子	・3年ぶりの行動規制のない夏ということもあって、観光客の姿を多く目にするようになったが、物価が上昇しているため、一般の人にとって景気が良くなっているとの感覚はない。建物の新築は関連する業種が多いことから、建築数が増加すると経済も回るようになるが、今のところそうした動きもみられない。景気は横ばいで推移している。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・案件の受注などで実績を積み上げることができており、大きく下向くことはないと思われる。ただ、ベース商材である消耗品関連の動きが例年と比べて3割ほど少ないため、安心できない状況にある。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・案件数が減っている。民間、官庁のいずれも半減している。価格高騰のため、案件の見送りが増えており、景気が良くなる雰囲気を感じられない。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・供給不足やコスト高などによって、厳しい状況が続いている。現況に耐え切れず、破綻するのではないかと懸念される取引先が増えていることもマイナスである。
	雇用	x	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
関連 (北海道)		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・建築土木、農畜産関連の一次産業とそれに関わる二次加工業の求人数は増加傾向にある。ただ、飲食関連が苦戦していることもあって、全体の求人数に伸びがみられない。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・6月の新規求職者数が前年から10.4%減少した一方で、新規求人数は前年と同数を維持している。今後への懸念材料はあるものの、業況が堅調とする企業を中心に求人が堅調に推移している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における6月の有効求人倍率は0.90倍であり、3か月前との比較では0.01ポイント下回った。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・企業がコロナ禍に慣れたこともあって、採用活動も2019年までの状況に戻っている。2021年は業種によって新卒採用意欲に大きな開きが見られたが、現在はおおむね回復するなど、景気は回復している。未内定の学生の動きも活発なままである。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は新型コロナウイルス感染症や物価上昇の影響を受けず、堅調に推移している。特に営業職の求人数が増えている。増員の求人も堅調であり、欠員の求人も増えてきている。景気が良くなっていることで、転職する動きもみられる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・季節要因による業種の動きを除けば、全体的な求人の動きは春と大きく変わっていない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・当地の基幹産業の1つである建設業界からの掲載申込みが前年の85%にとどまっている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・バスやタクシーなどの旅客運送に加えて、飲食、宿泊、小売などの観光関連業種が前年を上回って好調に推移している。ただ、新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で様子見ムードが出ており、少しブレーキが掛かっている。また、首都圏での人材採用が厳しくなっているせいか、北海道に拠点を移したり、北海道での採用を拡大する企業が増えている。
		職業安定所（職員）	それ以外	・求人数は増加傾向にあるものの、人手不足の産業に偏りがあり、充足は厳しい状況にある。また、宿泊業などは新型コロナウイルス発生前の状況に戻っていない。燃料費高騰などの影響がどの程度出てくるのかも不透明である。
	x	-	-	-

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東北)		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・お盆が近いせいもあるかもしれないが、仏具の買換えや新調が多くなっている。コロナ禍にもかかわらず来客数が増えており、売上も増加している。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・7月前半は3か月前よりもずっと良くなっていたが、中旬から月末にかけて新型コロナウイルスの感染が拡大したため、月末の1週間は深夜の客が減ってしまっている状況である。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・売上は前年比105%である。新型コロナウイルス感染症の関連商品が良く出ていることもあるが、この暑さにより滋養強壮剤や水などの売上も良くなっている。
		百貨店（催事担当）	来客数の動き	・前半は夏物セールやお中元ギフト中心に売上が好調に推移した。中旬以降、新型コロナウイルス感染症の第7波に伴い入店数が落ちてきているものの、トータルでは前年を上回っている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が悪くなり、スーパーの需要が若干増えている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・土日の販売量の動きが良くなってきている。また、相変わらず買上点数や単価は堅調に推移している。新型コロナウイルス感染症の影響も少し薄くなり、入出が増加している。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の規制緩和により、夕夜間の来客数が増えている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・少しずつではあるが、人が動き出し売上も前年と比べて上がっている。ただし、来月大きな祭りが開催されるが、新型コロナウイルスの新規感染者数が増え続けているなかで様々な制限が付くと、経営状態が更に悪化するおそれがある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・来客数は前年割れしているが、単価が高推移のため、結果として売上の増加につながっている。人流も以前より活発であり、月ごとに来客数も回復しつつある。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・夏になり暑い日が続いているため、客の動きが良くなってきている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が連日増加しているが、危機感がマンネリ化しているためか、人混みの場面が多く見受けられる。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・販売量は伸びているが、このところまた新型コロナウイルス感染症の影響で来店客に偏りが出ている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数がまた増加しつつあるが、経済活動を止めるほどではないため、出張や就職活動、インターンシップといった機会のためにスーツを準備する人がおり、当業界としては潤っている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量は増えている。
		乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・車両生産が数か月前と比較して回復基調にあり、徐々に売上に結び付いてきている。それに伴い新車収益はほぼ前年並みまで回復してきた。しかし、中古車部門は依然として在庫不足が深刻で、結果受注も芳しくない。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・県民割などが使いやすいため、来客数が増えている。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・5～6月は良い傾向になってきていたが、新規感染者数が爆発的に増えてきたためか、ややブレーキが掛かってきているようである。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・県民割が延長されたことと、新型コロナウイルスの感染拡大傾向でも行動制限がないことから、販売量が拡大傾向にある。
		タクシー運転手	販売量の動き	・ゴールデンウィーク以降、一般利用客及び観光客の増加が顕著で、乗車回数も3か月前と比べ3割増加となっている。
		観光名所（職員）	単価の動き	・景気は大変上向いている。来客数、販売量、客単価、客の様子のいずれにおいても良くなっている。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響で、必要な消費物資ではない出版物や楽器が優先順位から外れている。特に本はベストセラーなど売行き良好書がないことが要因とみている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・前半は新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いていたことと気温の上昇があいまって、販売量も客先全般で増加傾向にあった。しかし、中旬からは新型コロナウイルス新規感染者数が急増したことを受け、地区単位のイベントは軒並み中止が決定し、ピヤガーデンのキャンセルが相次いでいる。また、市主催のイベントでも、飲食に関してはテイクアウトのみにするなどの対応に追われており、それに伴い生ビール等の発注数に大きな影響が出ている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・売上が4月の後半から急激に悪化していたが、今月はやや持ち直している。しかし、急激な悪化の反動ともとれ、不安定な状況である。客の様子も購入にかなり慎重な姿勢がみられる。
		百貨店（経営者）	販売量の動き	・来客数が微増していることに加え、客単価の向上により、全体としてはプラスの動きが続いている。月の後半に新規感染者数が爆発的に増え、一時的に来客数も減少したが、ウィズコロナでの消費行動が浸透しているのか、大きな落ち込みにはなっていない。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・前月のプレセールが盛り上がりなかった反動か、クリアランスセールが好調だった。にぎわった印象はなかったが買上客が多く、購買意欲が高まっているようである。後半、新型コロナウイルスの新規感染者数が過去最高を記録する日が続くと、比例するように来客数も減ったが、月末にはまた盛り返す等、好不調の波が大きい月となっている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・単価は上がっているが来客数の伸びがみられない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ(店長)	来客数の動き	・客が最近、商品の値上げに対して慣れてきたという印象を受ける。しかし、年金生活者やアルバイト生活者といった弱い人々に対するしわ寄せが大きいと感じている。そういった層、あるいは建築関係の仕事が減っているせいか、来客数が減ったという印象を受ける。
		衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルス新規感染者数が急増したが、祭りや行事を予定どおり実行するとのことで、特に祭り用品の動きが活発である。
		衣料品専門店(経営者)	来客数の動き	・新規感染者数が増大している状況で全体の来客数は減少しているが、F1層・M1層といわれる20~34歳男女の来客数と購買数は増加している。
		衣料品専門店(店長)	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されてから良くなりつつあると思えば、新規感染者数の増加に伴って買物をする消費者が少なくなったりと、行ったり来たりしており、結局3か月前とさほど変わらない状態である。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・前年のコロナ禍において購入しなかったビジネスマンが、夏になってシャツ、スラックスを中心に購入に戻ってきている。
		家電量販店(店長)	販売量の動き	・エアコンなどの季節商材は猛暑もあり前年よりも売れているが、冷蔵庫、洗濯機など白物家電は販売量、単価共に下がっている。前年実績の95%ほどである。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・新型車の軽自動車が発売になったが、個人客の消費がなかなか伸びない。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・メーカーの生産状況に変化はなく、新車納期に大きな変化がない。
		住関連専門店(経営者)	販売量の動き	・オーダーメイドなので受注数量は変動するが、全体としては大きな変化はない。
		その他専門店[白衣・ユニフォーム](経営者)	販売量の動き	・最近の新規感染者数の増加でいろいろなところへ影響が出てきている。回復傾向だった観光客のキャンセルが相次ぎ、宴会のキャンセルも増えている。当然のように制服の購買が消極的になっている。新規感染者数の発表が影響しているとみられる。
		観光型ホテル(スタッフ)	来客数の動き	・県民割などで多少来客が上向いていたが、新型コロナウイルスの感染の急拡大でキャンセルも出始めている。
		通信会社(経営者)	お客様の様子	・地域でも経済を回そうとの掛け声は大きくなっているものの、テレビ、動画視聴サービス等、有料コンテンツの契約は一気にブレーキが掛かっている。生活に直接結びつくものの物価高の影響で、娯楽への投資が敬遠される傾向にある。インターネット等の通信サービスは、家でのWi-Fiサービス利用者の申込みが減り、携帯電話で兼用する人が増え、節約志向が高まっている。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・客の設備投資意欲に変化がみられない。
		競艇場(職員)	単価の動き	・来場者は増えていたが売上は伸びていない。客単価が落ちているのが原因とみている。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・固定客が決まっており、新規客が来ない限り変わらない。
		その他サービス[自動車整備業](経営者)	お客様の様子	・夏になって気温が上がり、人出や消費が回復してきたところだったが、急激な感染拡大により鈍化した。かつてほど急激なマイナスではないが停滞している。
		住宅販売会社(経営者)	お客様の様子	・注文住宅に比べ価格が確定できるため、一時止まっていた建売戸建て住宅が好調である。
		その他住宅[リフォーム](従業員)	販売量の動き	・住宅設備機器は給湯器の交換工事とエアコン工事が増えている。リフォームは納品が遅れていた資材や商品が入荷したことにより、塗装工事が増えている。
		その他住宅[住宅展示場運営会社](従業員)	来客数の動き	・天候の影響は受けていないが、新型コロナウイルスの感染拡大が来場者数の減少につながっている。新規感染者数が高止まりすると、特に新規客の動きが鈍くなる。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響を受け商店街の来街者が減少している。イベント等が行われる夏場の繁忙期に売上減少の要因となっている。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症への不安感から、高齢者が引き籠もりがちになっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（経営者）	単価の動き	・7月の平均1品単価は、仕入単価上昇に対して価格転嫁も進み、前年比3.5%も上昇している。反比例するように来客数はほぼ同率で減少し、買上点数の前年比はそれ以上に減少している。原材料価格上昇分の仕入価格への転嫁が続き浸透しており、また、行動規制はないものの、急激な新型コロナウイルスの感染拡大もあり、消費の動向は極めて良くない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・7月の第2週目辺りから来客数が減少している。梅雨明け宣言以降の天候の崩れが大きく影響している。
		スーパー（営業担当）	来客数の動き	・7月は気温上昇に伴いアイス、飲料などが好調で全体をけん引しているが、来客数は99.1%と前年には届いていない。新型コロナウイルス新規感染者数は増加傾向にあるが、客は外食や行楽など感染に気を付けながら家庭内から外へと動き出しており、結果的にスーパーの食品の需要は鈍くなっている。
		スーパー（営業担当）	お客様の様子	・前半は、高温で夏物需要が高まり、新型コロナウイルス新規感染者数が減少し、客単価も高まったことにより好調だった。後半からは、天候の悪化や気温の低下、新型コロナウイルスの感染拡大が顕著となり、内食需要が高まるのではないかと期待したが来客数は増えていない。まとめ買いの傾向がみられ、保存食やお買い得品のニーズも高まっており、支出に敏感になっているようである。
		衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波の拡大により、週を追うごとに来客数が減少している。買上点数、客単価の変動は少ないが、来客数の減少により売上が未達で推移している。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が増えているため、来店を控えているようである。
		家電量販店（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大もあり、急激な来客数の減少がみられる。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・来客数もあり、受注も微増している。良い傾向にみえるが、依然として長納期は変わらず、現在の収益の押し上げになっていない。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が激増しており、来客数が大幅に減少している。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・販売価格の高値が続き、節約志向の強まりにより販売量が前年割れを起こしている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	お客様の様子	・夏休みに入り人の動きは徐々にみられるものの、新型コロナウイルスの感染拡大により、消費マインドがかなり下回ってきているようである。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数の増加に伴い、予約のキャンセルが増えてきている。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大により予約の勢いが鈍化している。しかし、第6波のときのような急激な停滞ではない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・客の財布のひもは固いようで、タクシー乗車の際もメーターが上がる前に降りて目的地まで歩く傾向にある。売上が今一つである。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が毎日最多更新され、行動範囲が厳しくなり経済に影響がまた出ている。物価も高騰しており、生活困窮の声も多くなっているようである。飲食業も原材料の価格高騰により赤字先が続いており、2か月後倒産件数が増える可能性が出てきている。よって景気がやや悪くなっている。
		通信会社（営業担当）	単価の動き	・インフレが加速しあらゆる物が値上がりしている。今後も値上げが予定されており、消費者にとって痛手となっている。支出がかさみ既にマイナス経済となっている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・物価高に加え、新型コロナウイルスの感染が拡大している。
		通信会社（営業担当）	単価の動き	・日常の生活必需品に関しても値上げ傾向にある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		遊園地（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波により、中旬以降マインドが変わり、夏休みらしい人出になっていない。前年は4連休があったこともあり、下回る見込みである。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・新規客がなかなか増えない状況が続いており、再来店の客も前年比90%である。美容業界については売上が持ち直していないということである。来店に対して新型コロナウイルスの感染への警戒感があるため、総来客数が減り、来店サイクルが長くなっているのではないかと。
		設計事務所（経営者）	競争相手の様子	・官公庁案件においては、最低制限価格がない自治体は低価格での落札が、最低制限価格がある自治体では制限価格同額程度での応札が増加傾向にある。利益幅が縮小し、運営が厳しい状況に入ってきていると判断している。
	×	スーパー（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響が地元でも出ている。また、物価高も収まっておらず、客が買い回りをしている。
	×	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・今月は新型コロナウイルス感染症の影響が大きくなっている。新規感染者数がかかり増えているため、行動は制限されていないが夏休みに入っても動きが悪い。
	×	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク以降は人の動きも活発化していて売上増加を見込んでいたが、7月後半に新型コロナウイルスの感染状況が過去最多になり、人の動きが鈍化している。
	×	その他専門店 〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波による新規感染者数急増で、上向きかかっていた状況が一転して悪い方向に変わってしまった。飲食店や売場の現場は様々な営業努力や工夫をしているが、今まで以上に危機感が漂っている。これに関する国や自治体の対応や救済がほばないということも拍車を掛けている。
	×	その他専門店 〔食品〕（経営者）	販売量の動き	・物価高などのあおりで、必要最低限の数量しか購買に至らないようになってきている。4月以降日用品の値上げが相次いでいるが、7月はそれが最も激しいようである。
	×	高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が再び拡大している。また、暗殺事件などもあり、景気が上向きような状況にはない。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・今考えれば4～5月辺りはまだ客が来ていた。7月になると一気にブレーキが掛かった状況になっている。物価高と新型コロナウイルス感染症の影響がダブルできているのではないかと。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が過去最多を更新し、来客数にかなり影響が出ている。また、サラダオイル一斗缶で2800円が7000円近くなるなど物価の上昇が激しくなっているため、その影響がかなり出ている。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・月の前半は順調に売上が伸びていたが、新型コロナウイルス感染症の第7波が来た途端に急に客が来なくなった。
	×	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・田舎特有の家族構成である高齢者や小さな子供と一緒に暮らしている家庭では、新型コロナウイルス感染症の行動制限があるうがなかるうが外食には抵抗があるようである。昼は仕事に出ている人がそれなりに外食はしているが、感染することを気にしてか絶対数は減少している。また、物価上昇の影響もあり、景気は後退している。
	×	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響により、6月まで上向き回復傾向にあった国内個人・団体の先行予約は鈍化傾向に陥っている。また、先行予約済み案件についてもキャンセルがはじめており、旅行業界は再び悪化している。
企業		*	*	*

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
動向 関連 (東北)		食料品製造業 (製造担当)	受注量や販売量の動き	・旅行やイベント開催等により入流が増え、特に駅周辺の店舗で売上が好調である。ただし、資材高騰や派遣による人材確保等、経費バランスを注視しなくてはならない。また、新型コロナウイルス新規感染者数の増加に伴い平日の人流は3連休後減り始め、予約のキャンセルも発生している。大きな商戦を迎える8月の動向が気になるところである。
		金属製品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・受注の状況は好調である。しかし、急激な円安やウクライナ問題などで先行きは不透明である。
		一般機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・見積りの件数が増加している。
		輸送用機械器具製造業 (経営者)	取引先の様子	・現在状況としては良くなっている。一部の客先ではあるが、引き合い数の増加や受注増加などの動きが出てきている。
		建設業(従業員)	受注量や販売量の動き	・受注量は増えているが、資材価格の上昇と人繰りに懸念がある。
		建設業(従業員)	受注量や販売量の動き	・大型の民間受注があった点では上向きといえる。しかし、着工までの期間が長い工事は資機材高騰の影響を受けやすい状況下であり、逆ザヤのリスクも出てきている。
		金融業(広報担当)	受注量や販売量の動き	・3年ぶりの大型夏祭り開催に向け、新型コロナウイルスの感染拡大を気にしながらも、多くの業種で相応に活気が戻っている印象を受ける。
		公認会計士	取引先の様子	・客の月次、決算状況から判断している。サービス、小売、飲食関係は新型コロナウイルス感染症の行動規制が解除されてから徐々に回復している。建設業等は一定程度の売上、利益を確保しており、全体としては3か月前より良くなっているとみている。
		その他非製造業 [飲食料品卸売業] (経営者)	受注量や販売量の動き	・コロナ禍のなかでも経済政策を重視している政府が支持されていることと、夏らしく非常に暑くなっていることが、景気が上向きになっていることにつながっているようである。
		出版・印刷・同 関連産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・特に飲食業が厳しく、広告につながらない。
		出版・印刷・同 関連産業(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・原材料価格の値上げ分等を販売単価へ転嫁できているのは10～20%程度である。原価値上がりのスピードに対し、取引先との交渉が難航し販売価格の引上げ交渉は思うようには進んでいない。
		電気機械器具製造業 (営業担当)	取引先の様子	・取引先が競争発注への取組を推進しており、調達価格低減に取り組んでいる。
		輸送業(経営者)	受注量や販売量の動き	・運送業の景況感のよしあしは、もちろん物の動きが活発であるかどうかにもよるが、経営全体からみれば、とにかく利益を確保できるかどうかである。現在のように燃料価格が高騰している状況では、利益が消されてしまう。これでは決して景気が良いとはいえない。
		通信業(営業担当)	取引先の様子	・少しずつであるが回復を思わせる反応がみえてきている。
		広告業協会(役員)	受注量や販売量の動き	・夏休みに向けて旅行会社からの広告出稿は増えている。しかし、新型コロナウイルスの新規感染者数が過去最多を更新している状況がようやく戻り始めた消費モードに水を差している。企業の販促費も棚上げされる傾向が強く、広告業界は停滞ムードが継続している。
		経営コンサルタント	それ以外	・地域イベント等への人出はそれなりに回復しているが、本格的な消費回復につながっているかは微妙なところである。
	コピーサービス業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・受注量に変化はなく、悪いなりに最低限の売上の確保はできている。そういった意味では余り変化はなく推移している。	
	農林水産業(従業者)	受注価格や販売価格の動き	・生産資材の購入価格が平均して2割程度値上がりしており、大変である。	
	農林水産業(従業者)	それ以外	・燃料や農業資材の価格高騰、品不足が続いており、農作業の円滑な遂行に支障が出ている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・お中元商戦は前年を大きく下回りそうである。来客数は落ちていないが客単価が落ちている。1人当たりの発送件数が下がっている。土産需要も新型コロナウイルス新規感染者数が急増した影響で、3連休は良かったがその後急降下している。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・販売量が3か月前と比べて5%以上減少している。
		電気機械器具製造業（企画担当）	取引先の様子	・世界的なインフレに伴い、スマートフォンやパソコン等の需要減少がみられる。それに呼応する形で取引先では生産量を制限しているようである。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大が消費者心理に影響を与えている。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	それ以外	・当地の観光産業においては、新型コロナウイルス感染症の第7波により夏休み前にあった予約がピタッと止まっている。また、日帰り客の数も期待したほどではない。
	x	窯業・土石製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・出荷が前年比で下がり続けている。特需もなく厳しい状況が続いている。地域間格差がより顕著になっている。
雇用関連		-	-	-
(東北)		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・客からのオーダー数が前年を上回る推移になっている。
		アウトソーシング企業（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染がかなり拡大しているが、会議自体は中止にならなくなっており仕事がある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・医療・福祉、卸・小売業、製造業に加え、宿泊業・飲食サービス業からの求人も前月より増えている。ほぼ全ての業種が前年同月より求人数を増やしている。また、人手不足の事業所からの早期紹介要請も減る気配がない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・半導体関連の製造が好調である。また、コロナ禍ではあるが人々の外出の機会が増えたことにより、生活関連娯楽サービス業の求人数が増加し、求人数が前年同月を上回っている。
		学校〔専門学校〕	周辺企業の様子	・自粛されていたイベント等が再開され活性化している。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・新型コロナウイルス感染症による商況の変化は余りなくなってきた。新規感染者数の変化に関係なく、1年間や数年先を見た際に必要な人員確保に向けた採用が活発である。
		新聞社〔求人広告〕（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染状況により広告出稿が変動してきたが、コロナ慣れもあるのか、今回の急激な感染拡大に対して政府が大きな行動制限をしないことも影響しているのか、今のところキャンセルの動きなどは余り目立っていない。物価高などがなければもう少し改善したのかもしれない。
		その他雇用の動向を把握できる者	周辺企業の様子	・引き続き人手不足は続いており、企業の採用意欲は旺盛である。
		人材派遣会社（経営者）	周辺企業の様子	・サービス業を中心とした企業に新型コロナウイルス感染症の影響が出てきている。従業員が陽性になり、生産活動ができない状態になっている企業が多数見受けられる。
		新聞社〔求人広告〕（経営者）	周辺企業の様子	・祭りが3年ぶりに復活するものの、周辺企業の話を見ると、どこからも厳しいという声しか聞かない。さらに、ここに来て新型コロナウイルスの感染が拡大しており、先行きが全くみえない状況になっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・急速な感染拡大もあり、引き続き新聞広告の売上は回復していない。
		職業安定所（職員）	それ以外	・物価高や新型コロナウイルス新規感染者数の急拡大により、消費者心理にブレーキが掛かっている。今のところ行動制限はないが、ある程度の消費の落ち込みは避けられない。
		民間職業紹介機関（職員）	周辺企業の様子	・生産量の見直し等を実施している企業も出てきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	-	-	-

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北関東)		都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの第7波による急速な感染拡大が懸念されるが、確実に売上は回復している。宿泊はキャンセルと予約の出入りが激しいが、トータルでは伸びている。料飲部門は少人数の宴会が動き出している。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・3か月前と比べれば販売量は多くなっている。コロナ禍で迎える7月も3回目となり、2020年度と比べれば良い状況だが、新型コロナウイルス発生前と比べると6割程度の売上である。
		旅行代理店（所長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の第7波が懸念されているものの、現段階では教育旅行を中心ににぎわっている。新規予約は若干鈍化がみられるが、キャンセルの発生は最低限に抑えられている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・教育現場への販売は厳しい一方で、公務関係が増えてきている。
		タクシー（経営者）	お客様の様子	・全体的に動きが良くなってきたので、新型コロナウイルス発生前の同月と比べて、9%の増収である。
		通信会社（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染対策の行動制限が緩和されてきているため、飲食店を含めて来客数は増加傾向にある。ただし、現在の新規感染者数の拡大や物価上昇等の影響からか出費を抑える傾向もあるため、完全な消費回復とまではいかない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症による行動制限や要請は出ていないが、自らの命を守る行動が一層慎重になってきているようである。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・毎日、暑さが厳しく人の動きは悪い。新型コロナウイルスの新規感染者数が減ってきていたが、ここに来て、当地でも他県と同様に、急に新規感染者数が増加してきている。皆、外出を控えており、人寄せのイベントも難しくなっている。ちょっと考えどころである。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が日々過去最多を更新するなか、来客数は減少傾向にある。行動制限はないものの、かつてないほどの新規感染者の増大により、自粛ムードが醸成されつつある。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・今年は梅雨が6月に明け猛暑になったが、今月は天候の悪い日がやや多く、季節商材のエアコンの伸びが鈍化し、前年比100%となっている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・6月と同様、新車は受注残の増加と販売台数の減少がある。それらを補うために整備部門の売上向上に努力している。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・今月は、新型コロナウイルスの感染対策による行動制限の緩和や、新規感染者も少なくなってきて、景気が多少良くなって、さあこれから車がたくさん売れるぞと期待していた。実際は、輸入車、国産車を問わず、新車の受注が入っても、納車は半年とか10か月先になってしまっており、売れてはいるが、絵に描いた餅で、納車ができない。そのため、中古車の販売で何とかやっている一方、修理部門は順調に入っている。せつかく2～3か月前より良くなると思っていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響でこのような状態になってしまっている。
		自動車備品販売店（経営者）	単価の動き	・人の動きが余り活発ではない。車を使う機会が少ないせいも、車の修理やその他購入も余り活況ではないように感じている。
		その他専門店〔靴小売業〕（経営者）	来客数の動き	・今月はテナント店舗が押し上げ、来客数がわずかに増加しているが、客単価は少し下がっている。今月もメーカーの値上げがあり、この数が月間値上げが続いている。商材の入荷は少しずつ改善されてきているが、主力商材の入荷が遅れており、9月下旬くらいになりそうである。また、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加と猛暑の影響で、急ブレーキが掛かり始めている感じがする。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大による行動制限は政府から出されていないものの、直近でのキャンセルがかなり多くなってきている。旅行の自粛ムードが醸成されつつあるように感じている。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染拡大第7波の影響が大きく、地方経済は停滞したままである。
		通信会社（社員）	単価の動き	・身近でも生活用品を始め、軒並み価格上昇を実感している。一方で、企業努力で値下げをしている商材やサービスもあるので、個人的には価格上昇だけに注目してはいけないと思っている。
		通信会社（局長）	来客数の動き	・来客数は横ばいで推移している。身近なところでの新型コロナウイルス新規感染者が目立つようになり、濃厚接触者も増えている。価格高騰や半導体不足等の外部要因は変わらない。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大が不安要素である。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・人の動きが良くなり景気も戻りつつあったが、ここへきて、新型コロナウイルス変異株の流行により、自粛ムードが戻りつつある。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大第7波の影響が多少ある。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・仕入も売上も伸びていない。流通の異変で通常取引ができなくなっている。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・最近、また新型コロナウイルスの新規感染者数が増えてきたせいか、契約しようと思っていた客が、足止めを食って、ちゅうちょしている様子がみられる。また、今まで長い間、新型コロナウイルス感染症の影響があったせいか、売上が上がらなかった分なのか、家賃の値下げ交渉が始まっている。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	お客様の様子	・客にとって低額で急を要する内容の工事は、比較的順調に受注がある。それ以外の工事内容では慎重な姿勢が続いている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大第7波の影響で、過去最多の新規感染者数が出ていることから、客の来店機会を逸している。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大の影響と思われるが、週末の来客数が減少気味で、滞留時間も短いように感じている。
		スーパー（商品部担当）	お客様の様子	・値上げラッシュで買上単価や個数に大きく影響が出ている。特売品や目玉商材の引きはあるものの、客単価上昇までにはいかない。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前年比で、売上は98.8%、来客数92%、客単価108%と、5～7月前半にかけては前年実績を超えていたところ、15日以降は新型コロナウイルス新規感染者数の増加とともに、前年割れの売上となっている。天候不順の影響もあるとみている。
		衣料品専門店（販売担当）	来客数の動き	・幾分、人の流れが出てきたかなというときに、新型コロナウイルスの感染拡大第7波がきてしまって、また外出を自粛した客が相当増えてしまっている。一段と、どん底が深くなっていくような状況で、何とも先が読めない。
		家電量販店（営業担当）	販売量の動き	・家電販売は前年比85%と苦戦している。特に、エアコン販売は同60%で推移している。冷蔵庫や洗濯機は同102%で推移できている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・受注状況はいまだ低調である。納車遅延も続いている。
		住関連専門店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加により、感染リスクを避けるためか客足が遠のき、来客数が低下している。
		住関連専門店（仕入担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に合わせて、来客数の減少がみられる。ほとんどの商材の値上げもいまだ止まらず、同じ商材の2度目、3度目の値上げもある。必要以上の購入を抑えているためか、買上点数の減少もあいまって、厳しい状況となっている。
		一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・今月は20日以降、急激に来客数が減っている。新型コロナウイルス感染拡大第7波の報道によるところが大きい。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・再び新型コロナウイルスの新規感染者数が増え出して、客足が鈍りつつある。物価高騰も影響している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般レストラン 〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大による影響が多 大で、団体予約はほぼキャンセルとなっている。
		一般レストラン （経営者）	お客様の様子	・土産品やドリンクが以前より出なくなっている。 様々な物の値上がりで、客が出費を控えているよう である。
		その他飲食〔給 食・レストラ ン〕（総務）	単価の動き	・当社の主要業務である事業所給食の売上は、新年 度から新規受注先を加えて、増加している。ただし、 食材費、関連経費等が軒並み上昇しており、献立等 の工夫だけでは追いつけない状況になっている。委 託費や食単価の引上げ依頼を続けているが、コス トアップに見合う引上げには時間が掛かるため、 収益が圧迫されている。
		都市型ホテル （支配人）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の第7波の影響 で、企業の出張控えが進んでおり、予約数が減少 している。また、既に入っている予約のキャンセル も増えている。
		通信会社（総務 担当）	販売量の動き	・スマートフォンの価格改定による販売減少や、 高齢者を中心に、新型コロナウイルス感染拡大 第7波による外出自粛の影響で、来店予約の キャンセルが出ている。
		テーマパーク （職員）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数の増加に伴 い、個人客が減少し始めている。
		ゴルフ練習場 （経営者）	来客数の動き	・暑い日が続いており、平日の入客が少ない。
		競輪場（職員）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者の急増により、 来客数が減っている。
		美容室（経営 者）	来客数の動き	・政府は日銀に国債を買わせて、300兆円の パラマキ型の財政支出をしている。消費を促し、 お金が移動すれば税収も増えるともくろんだ結 果、個人貯蓄や企業の内部留保として積み上 がったに過ぎない。お金は高嶺で貯溜し、 低地には流れてこない。
		その他サービス 〔自動車整備 業〕（経営者）	お客様の様子	・来店客の注文は、最低限の見積りの選 択が過半数を占めている。安全や快適性は 二の次の傾向で、前年同期とは大違 いである。諸般の情勢からも、この傾 向は収まらないとみている。
	×	一般小売店〔家 電〕（経営者）	単価の動き	・いろいろなところで物価高になっ ているが、給料が上がらないのに物 価だけが上がるというところもな い状況である。客は必要以外の物 は買えないと思う。
	×	一般小売店〔青 果〕（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が これだけ増えてくると、夜の居酒 屋や飲食店等への来客数が激減し、 その分、売上が減っている。
	×	百貨店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大第7波 の影響で、7月中旬以降、来客数 が前年実績を大幅に下回り、売上 も低迷している。感染状況の今後 の見通しが立たないため、来客数 や売上の減少がこの先も継続する と思われる。
	×	都市型ホテル （経営者）	来客数の動き	・当県の新型コロナウイルス感染症の 警戒ステージが悪化したため、飲 食業界の利用者数が減っている。
	×	都市型ホテル （支配人）	来客数の動き	・今月22日に当県独自の新型コロナ ウイルス感染症の警戒レベルが引 き上げとなり、会合利用等のキャ ンセルや延期が相次ぎ、今月、 来月と厳しい状況になっている。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・6月末頃から少しずつ利用客が 増え始めていたものの、新冠 ウイルス感染拡大第7波の影響 で、利用客が減少し、電車に乗 っている人も少ない。平日は夜 9時過ぎには人が減り、深夜に かけては歩いている人がいなくな ってしまっている。深夜2時 までの営業で1～2回しか客を 乗せることができない状況が続 いている。
	×	通信会社（経営 者）	単価の動き	・円安、原油高で仕入れコストの 高騰が継続している。原油高は 仕方がないにせよ、今の時期に 円安維持の方針は、大きなマイ ナスである。
企業 動向 関連		-	-	-
		金属製品製造業 （経営者）	受注量や販売 量の動き	・例年の受注動向と変わりなく、 夏季は受注が増加している。 新型コロナウイルスの感染状況 は改善した水準ではないものの、 受注は若干改善している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
(北関東)		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・8～9月までの注文が天体入ってきているが、8月は稼働日が少ないのでそれほどでもないが、9月の受注がかなり増えてきている。他のところも大体9月頃はかなり増えてくるようである。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上、粗利共に増加し、収益が改善している。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・原材料の値上がりにより、収益性が大幅に低下している状態である。
		金属製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・どの仕入れ先からも、価格変更するという手紙をもらっている。つまり、全ての仕入れ価格が上がるということである。切替えがとて難しく困っている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・今のところ、受注量や取引先の様子は、低調なままで余り変わらない。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・依然として、半導体不足が改善されていない。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・暑い日が続き、エアコン、扇風機、サーキュレーター等の家電用品の物量は前年並みを確保している。しかし、依然として燃料高で、新型コロナウイルスの感染再拡大により、感染したり濃厚接触者になるドライバーも増え、協力会社の車両確保などが大変厳しくなっている。
		広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・飲食店の客足の戻りは遅い。材料費の高騰や人手不足と、いまだ厳しい状態が続いている。
		司法書士	受注量や販売量の動き	・過疎の街なので、良くなるということは余りなく、やや落ちながら平行線というような感じでずっときている。
		社会保険労務士	取引先の様子	・人の動きは良くなってきている一方で、宴会が中止になりだしている。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・相変わらず、自動車メーカーの生産ラインストップが頻発しており、計画どおりに部品を納入できない状況が続いている。
		一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・当社の取引先は30社ほどあるが、ほぼ全てで受注量が減ってきているので、今後やや悪くなるのではないが。
		経営コンサルタント	それ以外	・月初めは、お中元需要などで消費も順調に滑り出したようにみえたが、新型コロナウイルス変異株の派生型の急激な流行のためか、警戒ムードが広がって経済活動が収縮している感がある。梅雨明け宣言後も天候が一定せず、観光地、観光スポット等への外出動機が盛り上がっていない。
		×	建設業（開発担当）	受注量や販売量の動き
	×	不動産業（管理担当）	受注価格や販売価格の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が急拡大して、常駐先の社員が陽性になることが増えており、欠員補充の手配が追い付かなくなってきている。仕入れ資機材の納入遅れや値上がり分を価格転嫁できるよう交渉中であるが、既に値上がりして当社の利益を削った分は、利益減のままである。
雇用 関連 (北関東)		-	-	-
		人材派遣会社（社員）	それ以外	・当社への仕事依頼は、特に、宿泊施設関係から幾つか来ているが、依頼されたといっても、現在利用している業者では対応ができないので何とかできないかといった問合せが多い。基本的には新規案件が増えているのではない。
		人材派遣会社（管理担当）	求人数の動き	・若干ではあるが、派遣求人数が増えている。特に、サービス業で顕著である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		学校〔専門学 校〕（副校長）	求人数の動き	・求人数が例年の1.5倍に増えている。コロナ禍で求人控えていた企業が、今年は求人数を増やしている。また、前年まで求人を出していなかった企業も、今年は募集をしている。
		人材派遣会社 （経営者）	求人数の動き	・電気やガス等の値上がり予測について、周辺の企業や一般住宅でも、使用控えや節約が見受けられる。通常の購買は、生鮮品や食料品の副材料等は、やむを得ず購入するという感じで購買意欲は上がってきている。一時的に増えた建物の外装や屋根工事等は落ち着いたようで、動きがやや鈍っている。製造関係でも人手不足が生産調整で動きは鈍い。
		人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・製造業からの派遣依頼は増えているものの、人材不足の状況が続いている。
		職業安定所（職 員）	求職者数の動き	・求人、求職者共に増えつつある。新型コロナウイルス感染防止の行動制限が解除されたので増えているともいえる。ただし、新型コロナウイルス感染症はずっと継続していくと思うので、今後の状況は不透明である。
		職業安定所（職 員）	求人数の動き	・4月と比べ、新規求人は飲食、サービス、宿泊業、医療、福祉等で増加がみられる。全体では、ここ3か月同水準で推移している。前年同月比では9か月連続で増加しており、雇用面では持ち直しの動きがみられる。
		-	-	-
	x	*	*	*

4．南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (南関東)		百貨店（販売促 進担当）	単価の動き	・宝飾品など高額商材の売上が好調である。日傘、帽子、サングラス等の暑さ対策アイテムなど日用品の動きも大きい（東京都）。
		百貨店（店長）	来客数の動き	・3～4月は新型コロナウイルス感染症の影響を強く受け、2019年比でも来客数は6掛け程度であった。3年ぶりの制限のないゴールデンウィークで人流が一定程度回復し、7月になってようやく7掛けまで戻ってきたところで、また新型コロナウイルスの感染拡大の報道等が出始めた途端、自主規制の影響なのか、来客数が明らかに落ち始めている（東京都）。
		乗用車販売店 （総務担当）	来客数の動き	・新型車効果で未納先ユーザーが増えている。中古車の市況が好調であり、サービス需要も順調に推移している。
		商店街（代表 者）	それ以外	・クレジットカードの取扱高は、確実に増えている。来街者数も週末を中心にとっても増えている。ただし、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えていることで、少し出足が鈍ってきている。イベントに関して、若者、ヤングファミリー層の参加率は堅調である（東京都）。
		一般小売店〔家 電〕（経理担 当）	販売量の動き	・6月は天候も良く暑かったので、エアコンの売上が好調だったが、今月に入って落ちてきている。商材も少しずつ潤沢に入ってくるようになったが、売上には結び付いていない。
		百貨店（総務担 当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染状況は日が進むにつれ悪化しているが、客の消費行動が極端に停滞しているわけではない。コロナ禍当初の食料品を中心とした日用品に売上が偏ることもなく、紳士、婦人共にファッション関連商材が動いている。ブランド価値が高いと思われる商材は引き続き好調である（東京都）。
		百貨店（営業担 当）	販売量の動き	・外出機会の増加や月後半からの気温上昇に伴い、夏物衣料や服飾雑貨も実需購買が伸長している。一方、帰省など行動制限がないことにより、お中元ギフトは前年を下回っている（東京都）。
		百貨店（営業担 当）	販売量の動き	・来客数が増えつつあり、比例して販売量も増えてきている（東京都）。
		百貨店（営業担 当）	来客数の動き	・引き続き来客数は前年実績を上回るペースだが、新型コロナウイルス感染症発生前の状況には完全には戻り切っていない（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（経営者）	単価の動き	・やや良くなっていると答えたが、景気が良くなっているわけではない。まず、中旬は降雨があったが、それ以外は天候が良い。また、土用の丑の日や、県独自のキャッシュレス決済キャンペーンで買上金額の最大20%がポイント還元されることから、客単価が上がっている。来客数は増えていないが、そうしたいろいろな条件が重なり、やや良くなっている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・今年の夏は気温が高く、ソフトドリンク、アイスなどがよく売れている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・近隣のイベントが3年ぶりに開催されているので、以前のようにはいかないが、前年比110%と好調である。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数はかなり増えているが、行動制限はされていないので、来客数は前年より伸びていると感じている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・7月中旬の戻り梅雨で客足が落ちていたが、直近では戻ってきている印象である。新型コロナウイルスの感染第7波の状況下であるが、行動制限が行われていないため、前年よりも来客数の動きが良い（東京都）。
		コンビニ（従業員）	来客数の動き	・世間は夏休みの時期になっており、ふだん購入しないような客の購入が増えている。例えば、小学生の昼食などは通常は給食であるが、夏季はコンビニで購入したりもする。夏休みを過ごしている学生などは、明らかにふだんと違う動きをしている。これは短期的な影響でしかないと思うが、行動制限が緩和されていることで来客数が伸びてきているとも言えるのではないかと。
		家電量販店（従業員）	来客数の動き	・地域によると思うが、来客数が伸びていない。しかし、高単価商材の動きは良い。
		乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の影響による半導体不足で新車の納期が遅れている状況のなか、それほど大きな値引きをしなくても車が売れている。中古車は逆に価格が上がっており、粗利も相当大きく改善をしているので、これから景気が良くなるのではないかと（東京都）。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（団体役員）	来客数の動き	・梅雨明けが早く、3か月前からは売上が増加しているものの、長期的には減少傾向は変わらず、新型コロナウイルス感染症発生前と比べると減少している（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・少人数から、徐々に5～15人くらいまでの宴会が入るようになり、単価も以前と同じくらいになってきている。フリー客も以前よりは入るようになっている（東京都）。
		その他飲食[カフェ]（経営者）	お客様の様子	・以前に比べて楽しくお茶をする客が増えてきているので、ほのぼのするような風景ではあるが、少し良くなってきた矢先に、新型コロナウイルスの感染第7波が来て、今後どうなるのか分からず、とても不安である（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・県民割が寄与し、3連休までは稼働率も高く、高単価で推移していた。連休明けから月末までは、新型コロナウイルス感染者数の急増に伴いじり貧となったが、全体を通して3か月前よりは数値としては微増になっている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・夏休みになり、販売数は伸びているものの、新型コロナウイルス感染症が第7波でまん延しつつあり、外出自粛が懸念される（東京都）。
		タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えているが、昼間の利用は今まで同様良い。週末の夜は深夜まで車でタクシーを待っている客を見る。ロングの客も増えている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・利用客が増えている。景気の回復というより猛暑によるものと思われる（東京都）。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・他社の通信障害の影響により、サブ回線としてeSIMの申込みが好調である（東京都）。
		パチンコ店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染第7波がいまだにピークアウトを迎えていない状況だが、政府の行動制限を行わない方針が人々の消費の下支えをしている感がある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・当社の5月期決算で、利益が出ている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今月の販売量は目標数字の約64%と悪いものの、3か月前と比べると約16%増えているため、景気はやや良くなっている。今月も3か月前も悪かったが、今月は土日祝日の日数が多かったことや、3連休で大掛かりなキャンペーンを行ったため、3か月前よりはやや良くなっている。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	販売量の動き	・前から決まっていた大きな工事をしているので忙しさはあるが、品不足もあり受注はそこそこである。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	来客数の動き	・あえて言うのであれば今の気候が原因だと思われる。日中だけでなく夕方也非常に暑く、人が歩いていないので、路面店の当店としては厳しい。
		一般小売店〔傘〕（店長）	それ以外	・来客数が増え、購買意欲も増してはいるものの、仕入価格の上昇を急激に売価には反映できない。
		一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	販売量の動き	・店舗の来客数は伸びている。新型コロナウイルスの感染拡大で皆余り外出しないため、自宅用に文房具を買う人が結構多いようである。ただし、その分、外商の案件等が徐々に滞ってきている。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	販売量の動き	・相変わらず販売量が伸びない。世の中ではボーナスが出たなどという話もちらほら聞かすが、当社ではそれもなくて我慢のままである。皆が「潰れないだけでもまし」という気持ちで仕事をしている。景気はここ数年だけでなくずっと悪いままなのではないか（東京都）。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が爆発的に増えているが、行動制限が掛かっていないため、来客数の減少はみられず横ばいである。学生は夏休みが始まり、週末は家族連れも多く来店している（東京都）。
		百貨店（広報担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症に対する行動制限がなくなった4月頃から景気は緩やかな回復基調にあり、消費者の消費マインドは上向きに推移していた。しかし、足元の7月半ば以降は再び急激な感染者数の増加が連日報道されていることで、景気に一定のブレーキが掛かっている。特に、中高年以上の客層の動きに影響がある。大きな基調は変わらないという意味で、横ばいと判断している（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大により続いていた自粛生活の反動で、来客数、売上共に回復傾向が続いている（東京都）。
		百貨店（企画宣伝担当）	お客様の様子	・売上は前年を上回っているものの、前年同時期はまん延防止等重点措置が適用されていた時期であり、楽観視はできない。
		スーパー（販売担当）	お客様の様子	・客の様子を見ていると、広告初日の目玉商品やタイムサービス、あるいはポイント何倍の日など、同じ商材なら少しでも安く、お得に買い回れる時間帯や店をうまく探しながらいり物をしている様子が多く見受けられる（東京都）。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・今のところ一番の要因は来客数であり、前年と比べて95.1%となっている。来店客の買上点数、単価も前年を下回っている。したがって、3か月前の悪い状態のまま、現在に至っている（東京都）。
		スーパー（店長）	それ以外	・猛暑の影響により、アイスクリームや飲料等の売上が前年を大きく超えているが、値上げの影響もあり、調味料等の基礎食品類の販売数は伸び悩んでいる。
		スーパー（営業担当）	来客数の動き	・客単価については、それぞれの値上げの影響もあり若干上回っているが、それ以上に来客数並びに販売量の落ち込みが目立っている（東京都）。
		スーパー（仕入担当）	お客様の様子	・今年に入り1万点以上の食料品の値上げがあるが、客はより安価な物にシフトしているようで、1品単価は変わっていない。買物頻度が落ちて客単価は上がっている。
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているものの、前年の緊急事態宣言発出時のような行動制限は行われていないため、旅行やお盆の帰省を計画している人が増えているが、直近の新規感染者数の爆発的増加により計画を見直す人も増えてくと想定されるため、先行きは不透明である。それでも3年ぶりの帰省のため、二極化が進むことも予想される。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・上旬は良かったが、中旬以降は来客数が伸びていない。新型コロナウイルスの新規感染者数が急速に拡大し、また来客数が落ち着いてきている。
		家電量販店(店 長)	お客様の様子	・現状の夏商戦は季節商材の動きが伸びずに苦戦している。3か月前も現在も、状況としては商品価格が大きく上昇していることがどのように影響していくのかを見極める必要がある(東京都)。
		家電量販店(経 営企画担当)	販売量の動き	・7月に入り、新型コロナウイルス感染症が本格的に第7波に入った感がある。また、前月後半の猛暑から一転し、降雨が長く続いた影響と考えているが、売上が前年を下回り、気温と相関性のある商材の動きが悪い。インフレを実感する景況となり、消費者は生活防衛に走っている(東京都)。
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・自動車の整備は順調に入っているが、販売は余り芳しくない。前年度に比べて5割減少している。
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・新車の受注量は前年並みだが、メーカーからの新車の納期遅れがまだ続いている。
		乗用車販売店 (経営者)	それ以外	・新型コロナウイルスが感染拡大している。
		乗用車販売店 (営業担当)	販売量の動き	・想像以上に販売量が落ち込み、納車も遅れているために現金化できない状況である。
		その他専門店 [貴金属](統 括)	来客数の動き	・人の流れの増加に伴い来客数は増加しているが、売上はほぼ変わらない(東京都)。
		その他小売 [ショッピング センター](統 括)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加が行動自粛につながり、盛り上がり欠ける(東京都)。
		その他小売 [ショッピング センター](統 括)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が激増しており、影響が出始めている。
		高級レストラン (役員)	それ以外	・新型コロナウイルスの新規感染者数が急増しているが、一般ニーズは以前と比べて慣れもあるのか控える傾向は弱く、レストラン予約、利用数は上向き傾向にある。一方、法人需要は周囲からの見え方もあり、急ぎキャンセルする傾向と今後の企画がステイ状態になってしまい、総体的にはプラスマイナスで横ばいである(東京都)。
		一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・3か月前と比べると、初旬は新型コロナウイルスの新規感染者数もなくなりはないまでも少なかったもので、客も多少来ていた。ケータリングも少しずつではあるが入っていたので良くなると思っていたのだが、ここにきて新規感染者数が急増し、ほとんど全てキャンセルになってしまって、やや悪くなっている。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・一部同業店でみられた行列も一時的なもので、継続性がみられない。回遊客の絶対数減少は否めない(東京都)。
		一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・3か月前と比べると、やはり今の東京都の新型コロナウイルスの新規感染者数が4万人前後になっているので、多少は客が減っている。これからどこまで客が減るかは分からないが、今のところは3か月前と変わらない。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除された後でも、常識のある人は、やはり夜に大人数で飲食店に来てくれることはもうなくなってきている。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・回復傾向にあったが、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えてきて、来客数に影響が出てきている。なかなか上向きにならない現状が続く限り、世間一般の不安感は拭えず、景気回復には向かわない(東京都)。
		旅行代理店(経 営者)	お客様の様子	・客を訪問しても、まだまだ新型コロナウイルス感染症の影響があり、なかなかその気になれないし、全国旅行支援も延期されてしまい、家族皆で旅行に行く時間もそんなに取れないと言われている。やはり客も二の足を踏んでいるようである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（販売促進担当）	お客様の様子	・今月半ばから予定されていた全国旅行支援事業が延期になり、県民割、ブロック割が延長となった関係で、夏休みを中心に、国内個人旅行がキャンセルになるケースが散見され、マイナス材料になっている。ただし、行動制限がないので、旅行に行く客はそのまま行ってくれている。また、教育旅行についても、行動制限がないので、民間などの利用についても予定どおり実施されている（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・夏の旅行シーズンを迎えて増収に期待していたが、7月上旬から新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に拡大し、旅行の取消しが急増している。前年同時期と比較しても、売上に顕著な伸びはみられない。
		タクシー運転手	それ以外	・今月半ば以降、新型コロナウイルスの新規感染者数が急拡大し始めたが、経済を止める政策が出ていないので、今のところタクシー利用客は激減していない。猛暑日、ゲリラ豪雨など、例年と違う天候なので思わぬ客がある（東京都）。
		タクシー（団体役員）	来客数の動き	・7月上旬までは新型コロナウイルス感染症は収まっていたが、急激に感染者数が増え、感染第7波と言われ始めてから、人出が急減している。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・イベント再開の兆しが多少あり、司会の依頼などが復活してきている。反面、新型コロナウイルスの新規感染者数の急増で足踏み状態である。行動制限を行わない方針が出されているが、自制している様子が見受けられる（東京都）。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新規加入、コース変更共に、物価高騰を背景に、より安価なサービスを求める傾向が強くなってきている。
		通信会社（管理担当）	販売量の動き	・物価上昇の影響で買い控えが見受けられる。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の急増もあり、契約数が伸び悩んでいる。
		通信会社（局長）	それ以外	・当社も他社もサービスは向上している一方で、契約と解約の推移が平行線をたどっている（東京都）。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新規加入、コース変更共に、必要最低限の内容を選択する意識が相変わらず強い。
		通信会社（管理担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の別系統の急速な広がりにより、来客数に影響が生じている（東京都）。
		観光名所（職員）	お客様の様子	・旅客の増減については変化を感じない。むしろ減少傾向にあるとすら考える（東京都）。
		その他サービス [福祉輸送]（経営者）	来客数の動き	・長引く新型コロナウイルス感染症の影響はまだ残っており、さらに、物価の値上がり甚だしいので、車の購入については手控えている様子が見える（東京都）。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・相談等はあるが、規模が小さく、新規受注できても景気回復とはいかない。しばらく大きな変化はないとみている。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・ここに来て、また計画中の物件の動きが鈍くなり、このまま様子見の状態が続くのではないかと感じる。また、暑さも響いているようである（東京都）。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・当社は不動産ディベロッパー業と総合建設業である。当社が都内と関東近郊の保養地に所有しているホテルの運営状態が非常に悪く、規定の賃料を受け取れない状態がずっと続いている。8月以降に、観光業界の回復につながる対策を期待している。また、住宅の売行きも良くなく、工事の請負業も少ないため、良くない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・3か月前と比べて全く変化はない。土地の仕入れは高値で動き、販売もちょこちょこ売れている程度である。金融機関の査定が厳しくなっているとの情報があり、今まで買っていた客でも自己資金や共同担保を求められるようになってきている。
		その他住宅 [住宅管理・リフォーム]（経営者）	競争相手の様子	・前月同様に、相談は多少来ているものの、決定するまでにはやはり時間が掛かっている。
		その他住宅 [住宅資材]（営業）	販売量の動き	・建築需要としては一定の動きはあるが、上向いているとはいえない。資材高騰が落ち着くまでは、このままで推移する可能性がある（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数がまた急激に増えていることから、商店街の通行量も少し減っているように感じる。また、来客数が減少気味であり、それに伴い前月よりも商材の動きがやや良くなっている。
		一般小売店〔祭用品〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大でイベント等が中止、延期となり、需要が停滞している。
		一般小売店〔米穀〕（経営者）	販売量の動き	・社会的に新型コロナウイルスの感染拡大への不安が広がり、落ち着かない日々が予想される（東京都）。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	来客数の動き	・5月頃からインパウンド客も少し見受けられ、6月は前年より売上が増加したが、7月に入り再び新型コロナウイルスの新規感染者数が急増し、来客数、売上共に大きくブレーキが掛かってしまっている。新規感染者数から見ても第7波に入った模様で、週末を中心に各種イベントが軒並み中止となり、来街者数が減少することは痛手であり、売上の増加は見込めそうにない（東京都）。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・来客数が減少し、販売量も減っている。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	来客数の動き	・6月後半から新型コロナウイルスの新規感染者数が増えてきており、この頃から来客数が減少したように感じる。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	販売量の動き	・夏のギフト時期が早まっているのか、今月はギフト需要が減っており、売上も減少している。
		一般小売店〔書店〕（営業担当）	販売量の動き	・円安の影響が大きく、輸入商材の販売量が抑えられている（東京都）。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大のなか、客の消費に陰りがみられる。食料品を中心としたイベント等は順調に推移しているものの、食料品、婦人衣料、生活雑貨等の元売場の落ち込みが激しい。
		百貨店（総務担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の急激な拡大もあり、客が外出に慎重になっている（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	それ以外	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に伴い、来客数が減少している。特に、東京都の新規感染者数が1日当たり2万人を超えた辺りから顕著であり、売上にも影響している。
		百貨店（財務担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の急拡大により、販売量等が悪化基調である（東京都）。
		百貨店（管理担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数がまた増加し始め、購買意欲の低下がみられる（東京都）。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症による自粛傾向はなく、降雨日が多いなか、来客数に大きな影響は出ていないが、物価高の影響から販売点数は減っており、日用品や食料品の購買に当たっては、厳選して無駄のないように選んでいる傾向がみられる。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・客単価は前年並みを維持しているものの、来客数、買上点数は共に微減である。値上げせざるを得ない商材が多くなってきているので、客がある程度売価に慣れるまでは、回復の見込みは薄い（東京都）。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・7月は行動制限がないなかで、ステイホームが少なくなってきたので、食料品、特に生鮮産品、肉、魚、野菜を中心とした素材の商材を購入する客が大きく減っている。食料品全体としても来客数が3～4%落ちている。代わりに外に出る医療品、化粧品などの売上は伸びているものの、店全体としての売上は前年を下回っている。単価のアップでカバーできないほど来客数が落ちているということである。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・物価が上がったため、客は今までと同じ銘柄ではなく、安価な物を探している様子である。
		スーパー（ネット宅配担当）	販売量の動き	・天候不順で売上が悪い日が多く、全体を押し下げている。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・天候と新型コロナウイルス感染症に影響され、猛暑の日中は来客数が極端に減っている。夜間も、特に深夜の客が戻らず、売上が減少したままで推移している。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・本当に必要な食品以外の、少々ぜいたくになるようなスイーツなどは全く売れなくなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・客単価は上昇しているが、販売量の増加はみられない。商品の値上げにより、トータルの販売額は前年比で多少増加しているものの、客の購買数量は増加していないため、景気はやや悪くなっている。
		コンビニ（商品開発担当）	来客数の動き	・天候不順、新型コロナウイルスの感染急拡大とともに、来客数も徐々に減ってきている（東京都）。
		衣料品専門店（店長）	単価の動き	・売上面では、新型コロナウイルスの感染第7波が急拡大し、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言再発出の懸念がある。利益面については、コストプッシュによる物価上昇の継続や、円安の進行で取引先から値上げ要請がある。事業継続上、一定額の値上げに応じざるを得ない状況から、利益率の悪化が見込まれる（東京都）。
		家電量販店（店員）	お客様の様子	・全体的な物価高騰の影響で、買い控えが目立っている。
		乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・半導体不足の問題が全く解消されず、納期遅れによりキャンセルが出てしまっている（東京都）。
		住関連専門店（統括）	来客数の動き	・コロナ禍のなかで来客数が減少しており、販売量も減少している。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	競争相手の様子	・物価が上がり、当社の仕入価格も上がっているが、競合他社に値上げの意向が余りないので売価を上げられず、利益が取れない。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	販売量の動き	・来客数が減っていることと、欲しい物だけしか買わずに余計な物は買わないという傾向がある。
		その他小売 [生鮮魚介卸売]（営業）	お客様の様子	・ロシアのウクライナ侵攻や新型コロナウイルス感染症、そして円安など、いろいろな出来事が社会不安をおおっているように感じる。これでは生活や消費に対して守りに向かってしまうのも無理はない（東京都）。
		高級レストラン（営業担当）	来客数の動き	・7月は、2019年比で売上55.8%、来客数46.9%となっており、直近の新型コロナウイルスの新規感染者数の拡大により、前月比で10～20%落ち込んでいる（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・3か月前の4月1日から27日までの前年比は、売上85.1%、来客数89.8%である。今月7月1日から25日までの前年比は、売上92.5%、来客数78.1%である。今月は1店舗が新型コロナウイルス感染症の関係で7日間休業している（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・円安や仕入価格の高騰による値上げの影響がある。世界情勢不安もある。
		その他飲食 [居酒屋]（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大により、来客数が少なく、キャンセルも増えている。それにしても、ほぼ風邪症状の人が大半なのに、ここまでである意味が分からない。重症者数も死亡者数も少なくなっている。今、感染症法の5類相当に引き下げても良いのではないかと（東京都）。
		その他飲食 [給食・レストラン]（役員）	単価の動き	・食材の値上げの影響を受け、利益が圧縮されている。廉価な食材への移行を行っているが、光熱費等も値上がりしており、簡単には対応できない。給食事業は取引先の協力がなく完全に元には戻らない状況にある（東京都）。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染第7波の襲来により、再び新規感染者数が爆発的に増加している。それに伴ってキャンセルが出始め、その上、光熱費の高騰、原価の上昇によって収益性が著しく低下しており、非常に厳しい。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・3月後半に行動制限が解除されてからは、ゲストの利用も比較的戻りつつあり、それに伴い販売量も徐々に増えていたが、新型コロナウイルスの感染再拡大と同時に延期やキャンセルが相次ぎ、今月中旬以降は売上がかなり厳しい状況になっている。県民割などでの利用は急激に落ち込んではいないが、販売量は減少傾向が続いている。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・7月は、3連休までは新型コロナウイルスの新規感染者数も落ち着いていて売上が向上したが、連休以降は新規感染者数が増え、連動して稼働率が落ちている（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・昨今の新型コロナウイルスの感染拡大で、9～10月の案件が立ち消えになってしまうケースが頻出している。今後は決定済み案件まで延期等の措置が執られてしまわないか、戦々恐々としている。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えたため、取消しが多い（東京都）。
		タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が急速に増えてきているため、すぐに客の動きに影響が出ている。今月初旬はさほどでもなく、新型コロナウイルス感染症の発生前に戻りそうな勢いで人の動きがあったのだが、このところの新型コロナウイルスオミクロン株B.A.5の感染者数増加によって、如実に人の動きがなくなっている（東京都）。
		タクシー（経営者）	来客数の動き	・6月末くらいまでは良かったが、7月中旬からの新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に伴い、利用者数が減少している。ただし、下手に経済を止められるよりはよほど良い。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・半導体不足の影響により機器の納品が減少しているため、工事及び保守等で補っているが、売上は増加していない（東京都）。
		通信会社（経営企画担当）	販売量の動き	・案件数が減っており、新型コロナウイルスの新規感染者数増加に伴って、少し景気が悪くなっている（東京都）。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・生活費の見直しをしている客がどんどん増えており、当社のサービスプランのうち、ライフライン以外のサービスで解約が増加してきている（東京都）。
		通信会社（経理担当）	単価の動き	・テレビ番組配信サービスは、単価が2000円未満でないと売れなくなっている。
		ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・猛暑の影響もあるかもしれないが、7月は全般的に来客数が落ちている。
		ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・行動制限がないことで、旅行など他のレジャーに客が流れているように感じている。また、梅雨明け前後から急激に暑くなったため、屋外施設は敬遠されているようにも感じる。
		競輪場（職員）	単価の動き	・イベントやゲスト等により視聴者数等は増えてきているものの、肝心の売上は微増にとどまっている。むしろ、コストを掛けている分、マイナスに転じている。
		その他レジャー施設 [映画]（営業担当）	来客数の動き	・客は本当に欲しい物以外は購入しなくなっている気がする（東京都）。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響か、中高年の客の来店頻度がいまだに戻らない。
		その他サービス [保険代理店]（経営者）	単価の動き	・仕入単価が改定され上昇したため、買い控え等により購買量が減少している。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染状況が少し落ち着いてきたと思ったら、また新規感染者数が急激に増えてきている。その影響で、営業面においても、客への訪問ができなくなっている。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの異常なほどの感染状況により、仕事が先延ばしになっているのが現状である。景気はやや悪くなるというか、更に悪くなるのではないが。
		設計事務所（職員）	お客様の様子	・民間の動きが停滞しているように感じる（東京都）。
		住宅販売会社（総務担当）	来客数の動き	・資材等の高騰による原価上昇が利益を圧迫し始めている。
	×	一般小売店 [和菓子]（経営者）	来客数の動き	・連日の猛暑と新型コロナウイルスの感染第7波の影響で、来客数が減っている。
	×	一般小売店 [家具]（経営者）	販売量の動き	・とにかく売上が悪い。客が来ても契約に結び付かない（東京都）。
	×	一般小売店 [食料雑貨]（経営者）	それ以外	・光熱費、人件費及び原材料が高騰している。
	×	百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・物価高により、今後の消費を見通すことができない（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	百貨店（経営企画担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染状況の悪化により、来客数が落ちている。合わせて電気料金、ガソリン、食料品などの値上げが相次いでいる状況下で、客の購買意欲が低下している。7月上旬は衣料品等の動きが良かったものの、中旬以降は厳しくなっている。食料品もサマーギフトを含め、売上が伸びていない（東京都）。
	x	衣料品専門店（役員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加、物価高騰の影響が出てきている。旅行を延期したとか食事を中止したという話をよく聞く。
	x	家電量販店（店長）	来客数の動き	・家電の買換えサイクルが、肌感覚では、以前にも増して故障してから買い換える流れが強くなっている。来客数の減少もあるが、購入するまで複数回来店する客が増えており、買物に対してより一層慎重になっている。
	x	家電量販店（店長）	販売量の動き	・緊急事態宣言等がなくとも、心理的に後ろ向きになってしまい、7月中旬以降、明らかに景気は後退している（東京都）。
	x	乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・部品調達の影響で生産遅延や受注停止などが発生しているため、納期が大幅に遅れ、客も購入に踏み切れないことが増えている。
	x	乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に伴い、新車の納期遅れ、来客数の減少が続いている（東京都）。
	x	高級レストラン（仕入担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の急増で、国からの利用制限は設けられていないものの、客に自粛マインドが働き、キャンセルが多く、悪化している（東京都）。
	x	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数増加により宴会のキャンセルが続いている。まとまった宴会がほとんどキャンセルになっているので、良くない状況である（東京都）。
	x	通信会社（管理担当）	販売量の動き	・加入獲得状況が前年比で悪化傾向にある。7月に関しては前月と比較しても顕著である（東京都）。
	x	ゴルフ場（経営者）	単価の動き	・物価上昇の影響が徐々に顕在化してきている。
	x	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・猛暑かつ新型コロナウイルスの感染第7波の影響で、来場者数が減っており、前年を下回っている。
	x	ゴルフ場（経理担当）	来客数の動き	・6月下旬に1か月ほど早い梅雨明けを迎え、夏季の閑散期が前倒しとなったが、梅雨明け後の酷暑に加え、集中豪雨などの天候不順により、7月の稼働率は低迷している。新型コロナウイルスの感染第7波による集客への影響は、当初においては限定的であったが、天候不順により、高齢者ほどプレーを忌避する傾向がみられ始めている。
	x	その他レジャー施設 [複合文化施設]（財務担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染第7波で公演中止が発生している（東京都）。
企業 動向 関連 (南関東)		通信業（広報担当）	受注量や販売量の動き	・5月以降は増加傾向にあり、今月は更に加速する勢いである（東京都）。
		一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・具体的な理由は明かされていないが、ここ1～2か月、急激に仕事量が増加している取引先がある。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・直近では新型コロナウイルスの新規感染者数が増えているが、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言等を再発しないため、3～4月よりは良くなっている。今後の見通しは何とも言えない（東京都）。
		通信業（経営者）	受注量や販売量の動き	・販売価格は上昇しているが、仕入価格はそこまで変わらない（東京都）。
		広告代理店（経営者）	取引先の様子	・飲食店の取引先が多く、まん延防止等重点措置を実施していた約3か月前と比べると、お金の動きは感じる。ただし、仕入れ、印刷代などの経費は上がっており、景気の悪化を感じている（東京都）。
		広告代理店（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・イベントや販促施策も多くなり、宣伝売上も新型コロナウイルス感染症の発生前の水準には達しないものの、増加している（東京都）。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・中小金属加工業で、このところ受注量が増加している会社が目立っている。エネルギーや5G通信関連と想定される（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	それ以外	・円安や物価高が続く一方で、株価がやや上向いている。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・コロナ禍でも社会は回っている（東京都）。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	それ以外	・少しずつ受注率が良くなってきたように思えたが、新型コロナウイルスの感染第7波が猛威を振るっている。いつになったら安定という2文字が定着するのだろうか。心配でならない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・やや動きが悪くなっているように感じる。
		金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・受注が少なく、営業活動をしているが、客も大口計画がまだ止まっている状態で、仕事がない。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染第7波が発生し、新規感染者数が急増している。当社でも社員の何人かがり患して仕事を休んでいる。このような状況では安心して仕事ができない（東京都）。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・仕入価格は3か月前に比べ10～20%値上がりしているが、取引先と交渉し、販売価格に60%程度反映することをのんでもらい、改善がみられ始めている。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・自動車メーカーは、海外での部品調達がまだ安定しておらず、当初計画に比し減産を余儀なくされている。下請である当社も工場の稼働停止や減産等の影響を受けている。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	取引先の様子	・当店の得意先は、かなり頑張っていて販売しているということで、今のところ数字が極端に落ち込まずに推移していて助かっているが、他の業者は相変わらず悪いようである。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ウッドショックが続いている限り、しばらくは変わらない。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・取引先の様子、受注量共に変化がない（東京都）。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・現在は閑散期のため、物量は増えていない。燃料費の高騰により収益が伸びない。
		不動産業（従業員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数増加の影響が懸念される（東京都）。
		税理士	それ以外	・夜に近隣駅周辺の飲食店2軒をガラス越しにのぞいてみると、1軒は15人ほど座れるコの字型カウンターに2人しか客がいない。もう1軒も同様で、2～3人いる店員の方が多く入りの入り方である。新型コロナウイルス感染症の影響である（東京都）。
		社会保険労務士	取引先の様子	・雇用調整助成金等の助成金を活用したい会社がまだまだ見受けられる（東京都）。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の発生前に戻りつつある取引先もあるが、その反面、伸び悩んでいるところもある。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	取引先の様子	・現状、大きな動きはなく、売上也安定している。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・6月末からの猛暑の影響で来客数が減ってきたところに、新型コロナウイルスの感染第7波が来て、高齢客が来店しなくなっている。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・印鑑、ゴム印、名刺印刷などを行っている。店舗を持っているが、古くから納入している得意先の会社もある。店頭に来客数は週ごとに減ってきている。理由としては、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えつつあることと、今月は天候不順で、戻り梅雨で降雨が続いたと思ったらまた暑くなったりということがある（東京都）。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症対策の行動制限が緩和され、人流が戻ってきたが、当社の売上に関係の深い販売促進グッズ関連では、回復に勢いがいない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年に新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ医療品容器の受注に回復傾向がみられるが、化粧品容器、その他の製品に関しては、下げ止まったまま上昇する気配がない。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・計画は高いが未達になっていることが多く、思っているほどには景気が良くなっているとは感じられない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・材料の高騰や単価の上昇により価格が上がり、取引先が発注を控えている。設備投資案件も様子見の状況である。
		輸送業（経営者）	それ以外	・街中の人出が増えてきて、活気を感じるが、自社の状況に変化はなく、燃料価格の高止まりや資材の高騰など、負担の増加を強く感じている（東京都）。
		輸送業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向にあり、輸送コストの高騰も続き、不安材料が多い。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向のときは景気回復が見込まれていたが、新規感染者数のけた違いな増加に伴い、経済状況が悪化してきている。
		金融業（従業員）	受注量や販売量の動き	・建築資材や半導体等の不足により製品等の完成が遅れ、販売の回転が遅くなっているように感じる。
		金融業（総務担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数増加に比例して売上が減少、経費が高騰し、景気が悪くなっている。運送業では燃料価格の高騰が響き、飲食業は予約のキャンセルが多くなっている。また、食品を筆頭に、原材料の値上げによる価格高騰で利幅が減っている。建設業では住宅機器の輸入価格高騰、半導体不足から仕入れが難しくなっている。人手不足も深刻で、賃金上昇も利益を圧迫している（東京都）。
		不動産業（経営者）	競争相手の様子	・新型コロナウイルス感染症の発生から3年目の夏を迎え、3連休後の今、新規感染者数が急増している。週末も日曜日は天候が良く、駅前の複数の商業施設でも人出が大幅に増えていた。クレーンゲームやカプセルトイの専門店の子供連れの客で大盛況であり、これに加えて話題の回転寿司店も営業中である。消毒は完璧だと思うが、新型コロナウイルスの感染者が発生しないことを念ずるのみである（東京都）。
		不動産業（総務担当）	取引先の様子	・飲食系テナントから、来客数が増えてきたと喜ぶ声が出てきたのもつかの間、新型コロナウイルスの感染第7波の到来で、ため息に変わっている。しばらくは厳しい状況に置かれる（東京都）。
		広告代理店（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・円安になっている（東京都）。
		広告代理店（従業員）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染第6波からの緩やかな回復基調から、新規感染者数が再び増加し始め、第7波といわれる爆発的な感染拡大に転じたことから、再び停滞あるいは慎重な判断に後戻りしつつある（東京都）。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大が影響し、来客数が減少してきている。
		税理士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染第7波の勢いがすさまじく、感染者と濃厚接触者の発生で、各企業は業務を通常化させるのが困難なのではないか。夏休みに入り、政府や行政からの要請がなくても、自主的に行動を制限する向きがある。
		その他サービス業 [ビルメンテナンス]（経営者）	受注量や販売量の動き	・年間作業で定期的に行っている特別清掃の受注が減っている（東京都）。
		その他サービス業 [ソフト開発]（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量及び案件数が減っている（東京都）。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年7～8月は受注量が減少する（東京都）。
	×	出版・印刷・同関連産業（所長）	それ以外	・全ての資材値上げの影響により、提出していた見積りの価格変更を伝えると、競合先と比較され失注する流れが非常に多く発生している。
	×	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・当地域では東京からの移住者が増えており、一時は良かったのだが、土地や住宅が不足している。
	×	建設業（経営者）	取引先の様子	・設備投資を考えている企業が少な過ぎる。
雇用関連		-	-	-
		人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・同業他社が採用を強化し、10%程度の高い伸びを見せている（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
(南関東)		人材派遣会社 (支店長)	それ以外	・新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢の影響を見通して、新規採用に対して様子を見ていた企業からの依頼が徐々に動き出しており、派遣、紹介依頼数共に新型コロナウイルス感染症発生前の水準を超えてきている(東京都)。	
		人材派遣会社 (経理担当)	それ以外	・新型コロナウイルス感染症の影響はまだ続いているが、求人数、求職者数共に微増傾向となっている。また、派遣総稼働者数も増加傾向にあり、全体的には少しずつ良くなっている(東京都)。	
		求人情報誌製作会社(広報担当)	求人数の動き	・前年同様に、転職サイト等に求人掲載しても、なかなか応募がなく、応募者の質が余り良くないという話を、周辺企業からよく聞く。景気が良くなり、以前よりも条件を良くしないと人が集まらない状況になってきている(東京都)。	
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数は前年同期比で約23%増加で推移している。特に、新型コロナウイルス感染症の影響で求人数減少が長期化していた飲食、旅行業で大幅に増加している(東京都)。	
		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・3か月前と変わらず、求人数は堅調に推移している。	
		人材派遣会社 (社員)	それ以外	・会社の業績は、景気の影響による変化はない。個人としては、周囲を含め、新型コロナウイルス感染症対策による行動制限が緩和されても、消費動向などに変化はみられない(東京都)。	
		人材派遣会社 (営業担当)	周辺企業の様子	・自動車業界では相変わらずエンジニアが不足しており、派遣の引き合いは多い(東京都)。	
		人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況次第だと考えている。人流が停滞すれば、求人数の拡大にも至らないので、先を読みにくい。	
		求人情報誌製作会社(営業)	求人数の動き	・特別悪いわけではないが、良くもなく好景気とはいえない。求人数は例年に比べれば増えているものの、上向きと感ずるほどではなく、3か月前と比べても変わっていない。新型コロナウイルスの感染再拡大や円安の影響もあるかもしれない。サービス、飲食の求人数がここにきて増えているが、材料費の高騰で値上げが起こり、消費マインドが下がってしまっていることも、好調を素直に実感できない要因ではないか。	
		職業安定所(職員)	採用者数の動き	・新規求人数は前年度に比べ増加しているが、求職者数は減っており、活動が鈍化しているのか、紹介、就職数共に低下している。	
		民間職業紹介機関(経営者)	採用者数の動き	・オンライン就活の活用でセミナーへの参加率は高く推移しており、内定率は既に80%を超えているといわれている。しかし、大学間格差があり、秋の就活は学生にとって厳しいかもしれない(東京都)。	
		民間職業紹介機関(経営者)	求人数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が高水準で推移するなか、中長期的に改善が見込みにくく、しばらくは採用も控えめとなっている(東京都)。	
		学校[大学] (就職担当)	求人数の動き	・今年度は観光事業等の求人も活発である(東京都)。	
		人材派遣会社 (社員)	雇用形態の様子	・飲食部門を中心に人材依頼が増えているが、賃金が派遣予定者と一致せず、派遣まで至っていない(東京都)。	
		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数は3か月前比で100%を割っている。前年同月比では100%を超えているものの、鈍化傾向が顕著となっている(東京都)。	
		求人情報誌製作会社(経営者)	求人数の動き	・再び増加傾向にある新型コロナウイルス感染症の影響が採用予定人員の変更や停滞につながってきている。特に、中小零細企業において影響を感じる(東京都)。	
		×	求人情報誌製作会社(所長)	求人数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増え、企業に募集を控える傾向が出てきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・取引先から連絡があって行ってみると、倒産や廃業の話で、いつにするか、どういう形にするかということばかりで、求人への依頼であることはほとんどない。

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (甲信越)		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大第7波であっても、行動制限が解除されているため、宴会や会食は、少人数ではあるものの、予約や当日の来客が始めている。ただし、大人数の会食や宴会ではキャンセルが出ており、懸念材料となっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・7月第4週の初めくらいまでの結果だが、一般宴会の需要が新型コロナウイルス感染症の発生前と同じくらいになっている。
		遊園地（職員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加するなかで、徹底した感染症対策を行いながら、新規施設の開業やイベント等の集客施策を実施したため、3か月前と比べて、来客数が大幅に伸びている。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	お客様の様子	・今月は葬儀の相談が多い。また、孤独死も多く、市の福祉課からの依頼も増えている。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・猛暑が続き、夏物家電、エアコン、冷蔵庫等の動きが非常に良い。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・物価は上がっているものの、来客数や買上点数は減少してはいない。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・3か月前と比較して、来客数は前年比100%以上と好調である。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・半導体不足の影響による新車供給遅延の状況は変わらないが、徐々に生産と納車台数が増えてきている。新型車イベントの効果もあり、長納期にもかかわらず、新車受注は伸びている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・5～6月はコロナ禍になってから、一番良かった。このまま元のようになってくれば良いと思っていたが、ここに来て再び新型コロナウイルスの新規感染者数が増え、人出はかなり減っている。ただし、以前の感染爆発のときほどは減っていない。冷静に対応している人が増えたように思う。
		観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響で、いまだに団体客やインバウンドはないものの、家族や夫婦など個人客の宿泊により、例年の9割まで売上が戻ってきている。現在、新型コロナウイルスの感染拡大の第7波で新規感染者数は急増しているが、客の動きには活気がある。キャンセルもちらほら発生しているが、それを上回るペースで予約が動いているので、全体としては予約は増える方向である。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・前月に引き続き、フリー客や予約は好調に推移して来客数は増加傾向にあり、3か月前と比べて良くなってきている。しかし、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加や第7波、過去最高の感染者数等という報道と共に、月の後半は利用者数が減少傾向に変わっている。前半までは好調に推移していたので、月全体で見れば、まだ良い方ではある。
		旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少と増加が繰り返されるなか、3か月前と比べ客の動きは活発化してきている。増減の繰り返して、感染拡大時には一時的に客の動向が鈍くなり、減少してきたときは活発になっている。旅行需要そのものや旅行願望の意識が高まっている。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・ツアー客が増えてきており、個人や一般客も堅調である。新型コロナウイルス感染症の発生前には及ばないが、来客数は着実に増加している。
		設計事務所（職員）	来客数の動き	・物件の依頼数は増えてきている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・祭りの人出は久しぶりの開催だったこともあり、まずまずだったが、例年同様、売上には結び付いていない。祭り以降は新型コロナウイルスの感染再拡大もあり、街の人出は全くない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	販売量の動き	・今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、学生の登山行事もなかったし、クラブ活動も思ったほど活動していない。ようやく良くなると思ったら、また新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に増えて、先行きがどうなるか分からないときに、学校も夏休みに入ってしまったので、当店の商売も一休みというところである。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・7月に入り観光客も徐々に増えて、今年の夏休みに期待を持ち始めていたが、海の日を境にムードは一変してしまった。新型コロナウイルスの新規感染者数の急拡大で、第6波のときと似た状態になっている。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・猛暑日が続き、季節商材の動きは良いものの、他の商材の動きは今一つである。相次ぐ商材価格の値上げで、売る側も戸惑いはあるが、家電製品に限っては買い急ぎはみられず、必要に応じて必要な物を購入するパターンが定着している。消費は慎重である。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・天候はおおむね良好で、来客数は微増となっている。新型コロナウイルスの感染拡大第7波の影響で、買上点数も前年並みで、値上げも一定程度は受け入れられているようである。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・7月上旬は天候も良く暑い日が続き、売上の的にも良かったが、後半は降雨が多く非常に厳しい状態である。新型コロナウイルスの新規感染者数が非常に増え始めたことも加味して、やや厳しい状態である。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大第7波の影響もあり、変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症は終息に向かうどころか感染者が増えてきており、気温も暑くなり過ぎて、スーツ等の需要もない。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・季節商材の販売状況が不振となっている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・上向きになりかけたが、新型コロナウイルスの感染拡大第7波の影響で停滞している。極端な下降ではないものの、大きな伸びは期待できそうもない。
		スナック（経営者）	お客様の様子	・変わらないと回答したが、3か月前の悪いときと変わらないということである。また、客の様子や来客の動きをみても、現状の世界情勢のなかでは、本当に困っている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・数か月前からわずかではあるが、前年比105%や107%という状況が何か月か続いているので、段々良くなってはきている。しかし、ここ1週間ほどで、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、また若干下火になりつつあるという感じはしている。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・よくも悪くも変わらない。当県内でも新型コロナウイルスの新規感染者数が増えてきているものの、在宅勤務が増えているわけでもないで、特別な影響はなく、需要は変わらない。
		ゴルフ場（経営者）	お客様の様子	・戻り梅雨から一挙に猛暑が続き、シニアゴルファーの熱中症など体調管理に留意しているという会話が気になっている。また、原材料費の値上げにより、食事メニューは値上げを実施したところである。
		ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・引き続き、ゴルフ場は来場客に恵まれている。新型コロナウイルスの感染急拡大でイベントが中止になりゴルフに来たという客が複数いる。
		その他サービス〔クリーニング〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大がひどい。当地は観光地なので大変な状況である。
		百貨店（総務担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大第7波の影響で、来店客がめっきり減少傾向にある。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・前年比で売上は4%減、来客数は15%減となっている。7月になり、新型コロナウイルスの感染拡大第7波の影響で、イベントの中止も相次いでおり、6月までの3か月ほどは上向いていたので残念である。何とかこうした状況に慣れながら、売上を確保していきたい。当社は不動産業も営業しており、売買2件、賃貸住宅1件の契約を成約させている。店が暇なときに、もう少し不動産業の仕事もしたい。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ(店長)	単価の動き	・客単価は上がっているものの、乗客数は圧倒的に少なくなってきた。客単価も値上げ分だけ上がっているだけで、買上点数はそこまで増えていない。余り良い傾向ではないので、少し厳しい。
		乗用車販売店(経営者)	販売量の動き	・車検、一般整備は目標をクリアしているが、車両販売は、新車納期の遅れに伴う中古車価格の高騰により低迷している。7月に入り、新型コロナウイルスの新規感染者数が急増し、あらゆるところに影響を及ぼしている。社会経済活動の再開という話はよく耳にするが、それにはしっかりと環境整備が先だと思う。
		自動車備品販売店(従業員)	来客数の動き	・新車の納車遅れや物価上昇等により、来客数が大幅に落ちている。カーエレクトロニクス関係の落ち込みが大きく、全体の客単価も前年割れの状況となってきた。
		その他専門店[酒](店長)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が東京で4万人を超え、当県でも過去最高を記録している状況なので、予断を許さない。これから、本物のウィズコロナの時代に入ったといってもよいだろうが、飲食店の話では、大きい予約はキャンセルが入っているが、3~4人の親しい人での飲食はするという事である。新型コロナウイルスの感染拡大第6波の直前のような状況になるのではないかと予断を許さない状況だと思いが、前回とは違った形になるのかもしれない。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・大勢での会合などを控える傾向にある。
		その他サービス[貸切バス](経営者)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大第7波によるキャンセルが増えている。
	x	衣料品専門店(経営者)	来客数の動き	・生活必需品の物価高騰により、買い回りで客が全く来ない。
	x	その他レジャー施設[ボウリング場](経営者)	来客数の動き	・今月上旬から3連休までは、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いており、団体予約等も入り始めていた。それが月後半から、新規感染者数が爆発的に増え、予約がキャンセルになってしまっている。夏休みに入ったものの、にぎわいは余り感じられない。
企業 動向 関連 (甲信越)	-	-	-	-
		食料品製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・前月より若干受注は減少したが、おおむね計画の範囲内である。
		建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・受注は順調に推移しているが、資材価格の値上がりや納期の不安定化で、景気回復はもう少し先になると思われる。
		電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・止まっていた電子部品が一部で動き出し、生産量は増えている。ただし、動き出したのは一部だけなので、1か月先のことは分からない。
		その他製造業[宝石・貴金属](経営者)	受注量や販売量の動き	・今月前半の催事は集客、売上共に、前年を4割近く上回り、回復基調を感じていた。中旬以降、新型コロナウイルスオミクロン株の別系統の影響で、新規感染者数が急増したことから、催事はいずれも来場客の落ち込みが激しくなり、売上は後退した。卸、小売店舗へのルートセールスは低調だが、前半の余得があったお陰で、最終的な売上は前年同期並みである。
		金融業(経営企画担当)	取引先の様子	・取引先の状況等を勘案しても、景気回復状況は業種ごとにばらつきがある。観光業等では、夏休み等の人の往来により、3か月前と比較して、かなり良くなっている。
		窯業・土石製品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・夏休みには入ったものの、新型コロナウイルスの感染拡大第7波の影響か、ワークショップ予約が低迷している。
		金融業(調査担当)	取引先の様子	・非製造業では地元名刹の祭礼等のイベント効果から景況感が改善したもの、製造業では原材料価格高騰による収益の押し下げから景況感が低下し、全体では弱さがみられる。
		新聞販売店[広告](総務担当)	取引先の様子	・様々な物価が上昇し、取引先も売手、買手の両面で苦慮している。燃料価格に加えて消耗品単価がいずれのメーカーでも上がってきており、経営を圧迫しているという話が多い。当社も同様である。
		x	食料品製造業(製造担当)	取引先の様子
雇用 関連	-	-	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
(甲信越)		人材派遣会社 (営業担当)	採用者数の動き	・採用側が数か月も否否を出さず、応募者側の動きが取れない状況は相変わらずである。
		求人情報製作会社 (総務担当)	求人数の動き	・当社は求人誌を発行しているため、求人数の動きが重要で、直接売上にも関係する。
		職業安定所(職員)	雇用形態の様子	・宿泊、飲食、サービス業や卸、小売業では前年同月を上回る求人が出てきているものの、先行き不安からか、パート求人の割合が多い。求職者の希望職種や雇用形態とのミスマッチも大きい。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・6月の有効求人数は、前年同月比では増加はしているが、3か月前とほぼ同水準であることから、変わらないと判断している。
		民間職業紹介機関(経営者)	求人数の動き	・円安や新型コロナウイルスの感染拡大が影響して、将来不安から慎重な企業が多い。
	x	-	-	-

6. 東海(地域別調査機関:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)

(-:回答が存在しない、*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東海)		百貨店(経理担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大が進んでいるが、個人、企業共に控え感は見受けられず、移動関連消費や飲食レジャー消費は依然堅調である。
		スーパー(販売担当)	来客数の動き	・夏休みに入り子供が家にいて、新型コロナウイルスの新規感染者数も増えているので、なるべく自宅で食事を済ませるために買物が多くなる。
		コンビニ(商品企画担当)	来客数の動き	・3か月前と比較して来客数が伸長し、特に気温上昇に伴い飲料を中心に好調である。一方で、新型コロナウイルス感染症の急拡大により、中旬以降は来客数が頭打ち状態である。
		一般小売店[土産](経営者)	来客数の動き	・コロナ禍に見舞われる以前に比して観光客は80%くらいの回復状況である。マイカー移動はほぼ以前の状態まで戻っている。人々の顔つきも明るい。ただし、新型コロナウイルス変異株の相次ぐ発生による第7波で介護施設の高齢者クラスターや若年層の感染者が飛躍的に増加し、観光客の回復に歯止めが掛かった。観光客団体はバスの姿がほとんど見えずほぼゼロである。
		百貨店(総務担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスが猛威を振っているが、行動制限のない状況でもあり、来客数は微減にとどまっている。高額品の需要が引き続き好調であり、店全体の売上増加に大きく貢献している。
		コンビニ(店長)	来客数の動き	・来客数は3か月前と比べると増加傾向にあるが、新型コロナウイルス新規感染者数の急増によりテレワークが増えて、来客数の減少が懸念される。従業員の家族にも感染者や濃厚接触者が増えており、また、政府が駅等で無料のPCR検査等を進めているので、再流行が非常に懸念される。
		コンビニ(店長)	来客数の動き	・ここ2~3か月は僅かであるが来客数、売上共に少し前年を上回り、新型コロナウイルス感染症発生前の水準ではまだ9割程度であるが、徐々に良くなっている。
		コンビニ(本部管理担当)	来客数の動き	・直近月の来客数は前年比102.4%で、前月に続き好調を維持している。新型コロナウイルス感染症が再び流行するなか、行動制限がないことが幸いし来客数の鈍りはない。また、地域のイベント等でも行動を控えるような状況は見受けられなかった。結果的に3か月前と比較して景気の鈍りはない。
		コンビニ(店員)	来客数の動き	・暑くなり、来客数が増えている。新商品のスイーツや人気商品の増量セールもあり、好調に売上を伸ばしている。
		乗用車販売店(経営者)	販売量の動き	・数か月前は生産予定が全くみえない状況だったが、最近はおおよその納期を伝えられるようになり、大きな変化である。
	乗用車販売店(従業員)	単価の動き	・全体的な相場は安い。客の様子も含め少し足踏みしている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店 (営業担当)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数は急激に増え、社内など身近なところでも感染者が出て新型コロナウイルスの感染が間近に迫ってきているが、販売量は少しずつ上がってきた。生産調整、部品不足による納期の遅れが世の中で許容されてきており、客の方が早めに注文しておこうという雰囲気になってきている。
		住関連専門店 (営業担当)	販売量の動き	・商業施設や住宅等のリフォームなど、見積りや引き合いが多くなっている。
		高級レストラン (経営企画)	来客数の動き	・年度初めより行動制限の緩和から客の動きが活発になり、来客数が前年、更に前々年を上回る日が出てきた。特に週末の来客数は多いが、7月後半から新型コロナウイルス新規感染者数の急激な増加により平日が落ちてきていることが気掛かりである。
		その他飲食[仕出し] (経営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症、ウクライナ情勢や物価高などを経験していくなかで、それぞれに耐性が付いてきている。その時点での状況に対応している。
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・3か月前はまん延防止等重点措置が解除され少し動き始めた程度であった。この3か月は感染症対策の措置がなく、7月に入ってから新型コロナウイルス感染拡大の影響で足踏み状態であるが、4月頃と比べればやや良くなっている。
		観光型ホテル (支配人)	来客数の動き	・前年比では大きく改善するものの、新型コロナウイルス感染症発生前の2019年比では、いまだマイナスが続いている。
		都市型ホテル (経営者)	販売量の動き	・ホテルの一棟貸しに対する支援を受けており、助かっている。
		旅行代理店(営業担当)	お客様の様子	・主に社員旅行などの会社行事で、団体旅行のキャンセルは新型コロナウイルスの感染拡大に比例して発生しているが、個人旅行の客は以前ほど敏感な反応ではない。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・毎度のことであるが、新型コロナウイルス感染症が拡大してきたせいか、商店街に来る客が減ってきている。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・急激に新型コロナウイルスオミクロン株の別系統が拡大しているため、せっかく戻りかけていたホテル宿泊や宴会が中止や縮小になっている。
		商店街(代表者)	それ以外	・コロナ禍が続くなかで、事業の縮小や廃業・閉店が後を絶たない。厳しい状況が続いている。
		一般小売店[生花] (経営者)	来客数の動き	・猛暑と雨天のなかではなかなか買物に来てくれない。新型コロナウイルスの新規感染者数は増え続け、高齢者は特に怖がって外に出る回数を減らしている様子である。花の仕入価格もじわじわと上がってきて厳しい状況である。
		百貨店(売場主任)	単価の動き	・クリアランスの時期は、例年ならば前半は高額商品がよく売れていたが、今年は高額商品の売上が厳しくカジュアルシューズを購入する客が多い。年配の客が多いため、ウォーキングシューズ、履きやすい靴や柔らかい靴の問合せが多い。高額商品が売れないため、関連商品であるシューケアセットなどの売上も厳しかった。
		百貨店(営業担当)	お客様の様子	・せっかく来客数も増え上向きになってきたところに、また新型コロナウイルスの感染拡大により来客数が減っている。
		百貨店(販売担当)	来客数の動き	・良い兆しが見えてきた矢先に新型コロナウイルス感染拡大の第7波が来てしまい、日に日に来店客は減少した。テナントビルの施策も影響を受けてしまい、販促につながらなかった。
		スーパー(店長)	お客様の様子	・商品の値上げで1品単価は上がったが、悪天候が続く来客数が減少し、買い控えで買上点数も減ったことで売上は減っている。
		スーパー(店員)	販売量の動き	・売上は前年並みでも売上点数は90%前半が続く。相変わらず値上げに支えられているに過ぎず、予断を許さない状況が続いている。
		スーパー(販売担当)	それ以外	・安い商品が売れて、余分には買わないという状況は以前と変わらない。商品の値上げで単価は上がったが、点数が増えない。
		スーパー(販売担当)	販売量の動き	・商品値上げの影響は、日用品などでは余り購買の減少にはなっていない。嗜好品やレジャー関連では購入の回復がみられる。天候が少し不順で、季節品が伸び悩んでいる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天候は良いが、来客数がなかなか前年以上になってこない。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・7月上旬は梅雨明けが早く天候が良いことで売上が上がったが、中旬以降は梅雨の戻りで天候不順が多く、来客数の伸び悩みがあった。下旬には新型コロナウイルスの感染再拡大で客の出控えが少しずつ顕著になり、おにぎりやサンドイッチなど主要商品の販売数が減少する傾向にあった。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・客単価で結果的に助けられたが、来客数の減少が顕著で、今後の動向が不透明である。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・客の仕事量が安定している様子は、備品の購入量からうかがえる。ただし、財布のひもは固く、必要な物は購入するが衝動的な買物は減っている。
		衣料品専門店（売場担当）	お客様の様子	・行動規制が緩和されて数か月が経過しているが、いまだ買い控えが続いているように感じる。また、報道等では時計等の高額商品の売行きが伸びているとのことだが、自分の周りではそのような雰囲気は感じられない。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・自動車の生産遅延により売上が停滞しているものの、中古車価格の高止まりにより収益的には横ばいが続く。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・原油価格の高騰によるガソリン代やオイル代などの値上げを受けて、客からは出費がかさむという声が多い。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・今までできていなかったイベント、行事やいろいろなことが動いていて、景気は上向いている様子である。ただし、問題はやはり新型コロナウイルスである。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルス第7波の感染拡大により、先週辺りから来客数が伸びず苦戦している。
		バー（経営者）	来客数の動き	・食事中心の飲食店ではかなり客が戻ってきていると聞くが、夜9時くらいまでの早い時間帯だけで終わる。その後の2件目はほとんどない。2件目利用のバーなどは、まだまだ厳しい。その上、また新型コロナウイルス感染が拡大してキャンセルが出て、来客が目に見えて落ちている。
		その他飲食【ワイン輸入】（経営企画担当）	来客数の動き	・県民割により飲食店や宿泊施設などの取引先が新型コロナウイルス感染拡大前の水準まで売上を戻しており、当社も同様に売上は堅調であった。新型コロナウイルスの感染再拡大によりその勢いがそがれるかと懸念しているが、7月下旬時点では、その兆候はみられない。
		都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・4月以降は新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていたため宿泊やランチが持ち直しつつあったが、新型コロナウイルスの第7波の感染拡大とともに、宴会・レストランが打撃を受けつつある。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・旅行では県民割が4月より実施されていて、実施期間においては販売も好調であるが、実施期間が8月末までと限定的である。
		旅行代理店（経営者）	それ以外	・自動車関連製造業に関しては、半導体不足や新型コロナウイルスの感染拡大による製造休止による生産の落ち込みも、円安効果のためか特に消費には影響がないと考えられ、街中の雰囲気には暗さはみえない。人出も多く、ランチタイムのレストランも多くの女性客でにぎわいも戻っているが、店によって大きく差が出ている。
		旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症発生前よりも円安になり、コストも増え、航空運賃だけでなく燃油料もどんどん値上がりし、一方で、帰国前PCR検査の撤廃はない。旅行費用の上昇よりも帰りのPCR検査が不安という声もある。もし、新型コロナウイルスに感染していると現地で足止めとなり、その後の仕事に支障が出るので今年は断念するという客が多かった。国内旅行にシフトではなく来年以降になった。県民割の影響で、例年近隣県に行く客が取り込めなかった。当社からの予約では割引が利かないため直接ホテルに予約する人が多い。大手だけ得をしている仕組みはおかしい。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		タクシー運転手	お客様の様子	・当地でも7月中旬頃から新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向になり、相撲部屋で感染者が出た影響で少し客が少なかった。プロ野球でも選手やコーチが感染して3試合がなくなった。夜の街でも、高級店では予約数を減らし、一般客も以前のように大人数では行動しない。したがって、夜の街の売上が少し減少している。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・折込チラシや店頭でのPR営業に対する反応が薄くなってきており、解約件数も高止まりしている。入居するショッピングセンター自体の来客数も、低レベルで推移している。
		通信会社（サービス担当）	お客様の様子	・転居に伴う光回線の新規申込みが増えているようにもみえる反面、移転に伴う他社回線への乗換えも多い。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・機器の単価も上がり、購入を控える状況は変わらない。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・機器不足が現状も続いている。
		テーマパーク職員（総務担当）	お客様の様子	・来客数、販売状況の変動が少ない。団体客が伸び悩んでいることも要因の1つである。
		観光名所（案内係）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響だと思うが、予約のキャンセルがやはり増加している。
		その他レジャー施設〔鉄道会社〕（職員）	来客数の動き	・3か月前と比べて観光目的で列車を利用する客を見掛けるようになったものの、数字としての定期外収入は余り上向いていない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数の急激な増加で、営業活動に支障が出ている。建築材料の価格高騰で価格変更を余儀なくされている。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	販売量の動き	・6月に動きが前倒しになったこともあり、7月は増加しなかった。
		一般小売店〔高級精肉〕（常勤監査役）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加している。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の第7波の影響が顕著に出ている。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	お客様の様子	・結婚式、葬式、イベント等は、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えると人との付き合いを避けるため、客の様子として集まりが少なくなっている。売上、販売数、結婚式や葬式の数の全てが少なくなっている。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・飲食店でのアルコール販売量は、1週目、2週目と比べて3週目は半分、4週目は更に半分と、新型コロナウイルス新規感染者数の増加とともに減っている。当県で1日の新型コロナウイルス新規感染者数が1万人を超えた頃から、飲食店ではキャンセルが相次ぎ新規予約が控えられている。
		一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	単価の動き	・外出制限が解除されて人出が戻ってきているかのように見えたが、売上がなかなか上向いてこない。
		一般小売店〔書店〕（営業担当）	販売量の動き	・円安の影響で買い控えが発生している。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況は、中旬から新型コロナウイルスオミクロン株BA.2よりも更に感染力が強いとされるBA.5に置き換わりが進み、連日過去最多の新規感染者数を確認するなど感染が再拡大している。それに伴い再び来客数が前年を下回る日が増えている。
		百貨店（業績管理担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大により、来客数、売上共に直近数か月前と比較して大きくマイナスとなっている。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大で客が激減している。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が92%台で推移している。
		スーパー（店員）	お客様の様子	・春の値上がりから、円安やウクライナ情勢、石油価格の急激な上昇による短期間での再値上げの影響で、買い控えがおきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（営業企画）	お客様の様子	・来客数、買上点数の減少がみられる。原料費の値上げによる商品価格の値上げが続いている影響である。
		衣料品専門店（売場担当）	来客数の動き	・来客数が非常に少なくなった。店内が土日でも非常に静かに感じる日が多い。3連休も少なかった。当店だけでなく他の店舗でも同様であった。
		家電量販店（店員）	単価の動き	・買換え需要がほとんどだが、価格の一番安い物を選ぶ客が多い。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・7月は増販期であるが、新規で商談に来店する客はほとんどなく、商談にならない。新車の納期が掛かるため、自社の点検の客に納期を伝えて新車を勧めるしか方法がない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前年と比べれば販売量は少し上向いてきているが、半導体等の供給不安定により車両の生産が進まず、計画に対して7割ほどの実績しか出ていない。半年待ちだった納期が1年を超える車種も出始めており、納車のめどが立たず非常に厳しい状況になっている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・元首相襲撃事件や、新型コロナウイルスの感染状況が一気に拡大してきた状況で物は作れず、客の様子も暗く景気は悪くなってきている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染急拡大のため、客が来店をちゅうちょしているように感じる。新型車が発表されたが、高級車であるため来客数の拡大にはつながらずそれほど店舗に活気は出ていない。さらに、新型コロナウイルスの感染状況や、部品の調達難のため、工場の生産が遅れているとの情報も客の購買意欲を削いでいる。
		その他専門店〔貴金属〕（経営者）	来客数の動き	・7月に入って新型コロナウイルス新規感染者数急増の影響から、明らかに店前通行客量が減少している。多種多品目での値上げの影響もあり、セール時期にもかかわらず消費意欲が冷え込んでおり、売上が低迷している。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・余り商品が動いていない。したがって、仕入れも少ない。特にビール系の商品が出ていない。
		一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の第7波の影響である。
		一般レストラン（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の第7波の影響により、キャンセルが相次いでいる。
		一般レストラン（従業員）	お客様の様子	・居酒屋を経営しているが、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えてきて、またばたりと客足が止まった。
		都市型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、4名以上の予約が激減した。今月のレストランの予約は、20%がキャンセルとなった。
		旅行代理店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症のまん延による需要の低下が顕著に表れている。
		旅行代理店（営業担当）	お客様の様子	・以前の波に比べると少ないが、新型コロナウイルスの第7波の感染急拡大に伴い旅行取消しが発生している。県民割で個人旅行は順調に伸びていた矢先の急拡大のため、旅行の取消しや見合せが8月一杯は続く予想され、厳しい状況へ逆戻りとなった。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・円安の影響によるスマートフォンの値上げが、売行き低迷のきっかけになっている。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の第7波の影響が学生団体のキャンセルがあり、一般来客数の動きが弱くなっている。
		レジャーランド（職員）	来客数の動き	・例年より早い梅雨明けだったが梅雨と変わらないような天候が続いた。さらに、第7波となる新型コロナウイルスの感染拡大が夏休みと重なり、行動制限がないとはいえ出控えの影響を受けた。
		テーマパーク（職員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えてきているため、キャンセルが多い。
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・7月は戻り梅雨の影響が大きく、入場者は5か月ぶりにやや低迷している。天候不順によるものが大きいですが、3か月前と比べ、やや景気が悪い。
		理美容室（経営者）	来客数の動き	・暑くなって忙しくなる時期だが、客が来てくれない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		美顔美容室（経営者）	来客数の動き	・ホワイトニング商品はますますだが、直前での来店キャンセルが多少出てきている。新型コロナウイルスの感染状況は、客本人ではなく家族や職場での濃厚接触が目立ってきている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・客からは、電気代や食料品などが値上がりして結構厳しいという話と、新型コロナウイルスの感染が拡大しているため外出を控えているという話をよく聞く。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスオミクロン株B A . 5の影響で、やはり厳しい。
		設計事務所（職員）	お客様の様子	・客からは景気の良くなる話は全く聞かない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・前年同月と比べて販売量が30%ダウンした。前年が良すぎた点はあるが、販売棟数は来場者とともに落ちた。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	それ以外	・医療関係、物流倉庫の仕事が増えてきたため、人員確保を進めても若い人は集まらず、求人にも苦戦している。景気回復の見通しがまだまだ立たない状態である。
	×	一般小売店〔結納品〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の第7波を受けて、来客がない。
	×	百貨店（計画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大が急激に進み、ここ1週間で来客数が急減している。一方、高額品の販売には今のところ影響は出ていない。
	×	コンビニ（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数の急増により飲食店の来客数も大幅に減ってきていると聞く。当店の来客数も5%強減少した。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染が急拡大している上に猛暑や諸物価の上昇で、なじみ客どころか一見客の来店も少ない。
	×	衣料品専門店（販売企画担当）	競争相手の様子	・同業者も新型コロナウイルス感染収束のリベンジ消費がないまま、また新型コロナウイルスの感染拡大で来客数は激減したと話している。
	×	一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・5月の連休明けから、急激に売上が前年比25%落ち込んだ。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の第7波の影響である。
	×	パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・来客数の動きから、悪くなっている。
	×	その他レジャー〔スポーツレジャー紙〕（広告担当）	来客数の動き	・ウクライナ紛争がそろそろ目に見える形で影響し始めたと同時に、円安や失われた30年問題など閉塞感しかないニュースがまん延し出した頃から、身の回りの景気が悪くなった。
	×	美容室（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大とこの暑さ、そして高齢化のため来客数がとても減った。
	×	設計事務所（経営者）	来客数の動き	・ここ数か月設計依頼がほとんどない。このような状況は初めてである。
	×	住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・分譲する土地が少ないため、土地単価が上がっている。
	×	住宅販売会社（従業員）	競争相手の様子	・廃業する下請業者が増えてきた。
企業 動向 関連 (東海)		-	-	-
		一般機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・北米の自動車向け設備投資は、引き合いが増えてきて活況である。
		通信業（総務担当）	それ以外	・材料調達が困難になり、それに伴う原材料コストも上昇しているなか、人流が活発になることでサービスの需要が高まり、かつ、モノの需要も拡大している。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えているものの、まだ営業時間短縮等は行われておらず、皆好きに外に出て金を使っている状況が多いため、景気としては比較的良い。
		会計事務所（職員）	それ以外	・家族が日帰りバスツアーに出掛けたが、車中は客で一杯だと言っていた。旅行会社が定員一杯募集するようになり、参加希望者もそれくらいいるということである。新型コロナウイルスの新規感染者数が増えても、行動制限が掛からなければ、消費行動にでるようである。
		食料品製造業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注量、販売数量共に新型コロナウイルス感染症発生前の数字に戻らない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		食料品製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・景気が良くなっている感覚はない。食品を始め多様な値上げのニュースに触れて元気がない。新型コロナウイルスの感染再拡大も不安な要素ばかり先行する。
		化学工業（総務秘書）	それ以外	・これまででない新型コロナウイルスの感染の波が発生しており、人々に警戒感が戻ってきている。この時期の厳しい暑さもあり、元気に外出する人は少なくなっている。
		金属製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・原材料価格や電気料金が上昇している。価格の改定を行う予定であるが、納入予定の製品に対しては従来価格での納入の要望が多い。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響は限定的で、かといって良化する要素も余りない。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・原料の値上がり分では売上は増加しているが、受注量、販売量は、共に横ばいが続いている。
		電気機械器具製造業（総務担当）	それ以外	・放送、通信関係の取引先での設備投資意欲は変わらず強いが、電子部品の需給不足により計画どおりの機器生産となるか不安な状況が続いている。原材料の価格高騰による利益圧迫もあり、前年比で減益は避けられないと見込んでいる。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・8月の大手自動車メーカーの生産計画は年初計画に比べて15万台減少という新聞記事があり、来月の話ではあるが良い状況ではない。
		建設業（営業担当）	取引先の様子	・作業依頼や受注はあるが、公共関係の工事等では半導体不足の影響で部品が入らないこともある。仕事のボリュームは、前年頃から時期がずれた状態で発注となっているため、余り影響はない。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染が拡大するなかでも外出機会は増えているというが、生活必需品の物量は減少傾向である。その一方で燃料価格の高止まりや人手不足によるコストアップは続いている。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・1日当たりの荷物量が3か月前と同水準で全く増えていない。新型コロナウイルス感染症発生前と比較すると破格に荷物量が落ちており、日々全国で2000トンほど減少している。悪い状況がずっと変わらない。
		通信業（法人営業担当）	それ以外	・ロシアのウクライナ侵攻による諸物価の上昇、8月以降も更に電気、ガス等、計りしれない値上げ等の動きがある。庶民への影響は今後ますます大きくなる。
		金融業（企画担当）	取引先の様子	・原材料を中心に価格高騰、品不足があり、コスト増加が続いている。円安がプラスに影響しない業種では、業績が芳しくない企業が多い。株価もボックス圏で推移しており、個人の投資家も様子見が多い。
		不動産業（経営者）	それ以外	・例年よりも雨の日が多い上に、下旬には徐々に新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向にあり、外出や遠出をする人が徐々に減少傾向になっている。厳しい状況ではあるが、売上は前年同月を上回る状況が継続している。
		広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が地元でも最多になったこともあり、各企業も広告発注を少し足止め状態にしている。
		行政書士	受注量や販売量の動き	・トレーラーを扱っている業者は、鋼材の稼働はほぼ落ちたが住宅メーカー分の稼働は落ちているという。
		その他非製造業【ソフト開発】（経営者）	取引先の様子	・全体的に停滞している。良い要素がなかなかなく、多くは慎重な動きをしている。各企業では手持ちの仕事を、今ある装置、機械などで何とか切り盛りしようと考えている。そのため、当社の新製品もなかなか成約にはならない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の第7波で新規感染者数が日々増加している。このような状況のなかで大きな打撃を受けており、受注量、販売量が減少し、景気はやや悪い。
		化学工業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・プラスチック原料の国産ナフサが大幅な値上げとなっているが、客先への値上げ交渉が難航している。
		窯業・土石製品製造業（社員）	受注量や販売量の動き	・半導体関係の供給不安は続いているが、原料の入手難への不安は少し落ち着いたため、客からの先行注文は少なくなってきた。ある程度の在庫を確保されたので、通常の発注量に戻っている。
		鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が回復しない。前年比でも2割強程度の現状である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金属製品製造業（従業員）	取引先の様子	・ステンレス材を始めとする主材の高騰はまだ止まらず、価格転嫁の道筋もみえないため、収益的にかなり苦しい。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・急激な円安により輸入品が高騰し、材料単価やエネルギー単価が上がり製造コストが大幅に上がっている。しかし、業界全体としては不況でメーカー間の競争もあるため、製品単価に部品単価の値上がり分を転嫁できず難しい状況である。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	取引先の様子	・取引先企業では、構内請負の作業が今まであったが全部カットになり、社員ラインに変更になりつつある。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・客先で週3日休みが増えている。ICチップが足りないため製造ラインが動かせないという話をそこかしこで聞く。予定が下方修正されており、その状況は年内は変わらないだろうという話である。
		建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・分譲住宅を検討する客が極端に減っている。来場件数が少なく契約が伸びず厳しい。新型コロナウイルスの急激な感染拡大の影響か、あるいは、夏休みに入ってレジャーへの動きが活発化しているせいだろうか。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・荷主の業種によっても異なるが、3月頃まではコロナ禍で減った荷動きは回復しつつあったが、4月以降は、落ちたというよりは一旦落ち着いたという感じであった。しかし、7月に入って荷動きは悪くなったと実感する。
		金融業（従業員）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染再拡大や円安の影響により、景気が悪くなっている。
		不動産業（開発担当）	受注価格や販売価格の動き	・当地域の新築住宅取引は、前年より明らかに悪くなっている。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・折込広告の受注が減少している。
		公認会計士	取引先の様子	・売上が減少している客が増えている。特に来店や対面を中心とするサービス業では、新型コロナウイルス感染症のまん延に伴い来客数が減少している。また、円安の影響により輸出を中心とする企業は、売上は増加しているが販売先の増加につながっておらず、実質的な販売増加にはなっていない。また、物価上昇により仕入コストが増加しても、販売価格に転嫁できていない企業が多い。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	それ以外	・注文したバイクが、部品供給未定のため発売時期が未定となってしまった。
	x	*	*	*
雇用関連 (東海)	-	-	-	-
		人材派遣会社（営業担当）	採用者数の動き	・主要客では引き続き外部活用を抑制している状態であるが、その他の自動車部品メーカーでは、新しい開発テーマに向けて外部活用のハードルを下げる方針を示す客もある。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求職者数は2か月ぶりに減少したものの、離職票発行枚数は2か月連続で増加した。離職票発行の内訳をみると、会社都合によるものが大幅に減少し、本人都合によるものが増加したことから、積極的に転職を希望する人の増加と考えられ、雇用環境の改善がうかがえる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人数が若干増加し、有効求職者数が若干減少した結果、有効求人倍率が若干改善した。
		人材派遣会社（経営企画）	周辺企業の様子	・開発需要は堅調である。
		人材派遣業（営業担当）	周辺企業の様子	・製造業を中心に受注等は回復傾向にあるが、原材料費や燃料費の高騰により、利益確保には程遠い状況である。
		人材派遣会社（企画統括）	求職者数の動き	・新規求職者数が人材派遣、人材紹介のいずれも減少に転じており、前年同期比でも微減している。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・求人数は、3か月前比では減少しているが、前年同月比では増加している。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の第7波の影響や物価上昇の影響がある。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	周辺企業の様子	・半導体不足による自動車関連の生産停止が続き、下請企業も追随して生産停止を余儀なくされている。半導体供給の先行きが見えない状況で、収益面も厳しい状況が続く。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	周辺企業の様子	・長引くコロナ禍、ウクライナでの戦争や円安の影響で、地方の景気は悪いまま変わらない。街中の目抜き通りにも空き店舗が更に目立つようになっている。企業の採用に関しては難しい状況が続いており、来春入社を目指すも目標に届かない企業が多い。高校生採用も例年から様変わりしており、苦戦している企業が目立ってきている。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	それ以外	・人の動きは回復している。物価高、円安などが絡み消費の動きは鈍い。
		職業安定所（所長）	求人数の動き	・新規求人数が増加した業種の方が多いが、全体として大きな増加はみられない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は3か月前比、前年同月比共に上回ってきているが、飲食サービス業等一部の産業で前年同月を下回っている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	採用者数の動き	・引き続き企業の採用意欲は旺盛であり、事業成長や事業発展に向けてキャリア採用に積極的な状況である。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・新型コロナウイルス感染が拡大している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率が3か月前と比べて低下した。
	x	-	-	-

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北陸)		都市型ホテル（役員）	来客数の動き	・個人客が順調に回復しており、稼働率は3か月連続で新型コロナウイルス感染症発生前の8割の水準となっている。団体客はスポーツ関連での予約が増えており、新型コロナウイルス発生前の5割の水準まで回復している。本格的な夏休みシーズンに期待している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症による影響が一段落し、梅雨明けもしたことから、夏物商材の需要に勢いが出てきたが、月末頃から天候が不順となり、更に新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が一気に増加している状況である。今回は新型コロナウイルス感染症対策のための行動制限がないため今までは状況が違うようだが、不安定さは残っている。
		一般小売店〔鮮魚〕（役員）	販売量の動き	・直近は行動制限などがなく、販売量は徐々に回復している。
		コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響が顕著で、夕方以降の来客数が激減している。しかし、日中の来客数は3か月前と比べても落ち込みはみられない。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・売上は前年同月比では405%であるが、新型コロナウイルス感染症発生前との比較では64%の水準で、まだ苦しい状況が続いている。また、新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大前は先行きに期待していたが、全国旅行支援などが延期となり先行きが不安である。
		タクシー運転手	来客数の動き	・7月に入り、新型コロナウイルスの新規感染者数が急増したことで更に警戒感が強まっている。これまで以上に不要な外出をしなくなり、売上が減少している。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・値上がりした商品が非常に多く、来客数、販売量共に大きく落ち込んでいる。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・7月中旬以降の新型コロナウイルス新規感染者数の急増に伴い、外出を抑える傾向が強まって店内は閑散としている。また、前月まで店全体の売上がけん引していたラグジュアリーブランドも円安による値上げを実施したため、これまでの勢いが止まっている状況である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・今月初めにかけてのクリアランスセールで夏物商材が好調に推移し、徐々にアパレルに動きが出たようにみえたが、中盤以降は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い高齢者を中心とした来客数が減少し、月末に近づくにつれて売上にも影響が出始めている。一方で、輸入化粧品やブランド品のジュエリーで、値上がり前の駆け込み消費のような動きが見られる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・買上点数、来店頻度共に若干の減少傾向が続いているが、値上げによる単価アップで、何とか前年の売上をキープしている。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・夏休みに入りパーベキューなどの季節になったが、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加し始め、イベント需要などが増えていない。
		スーパー（仕入担当）	単価の動き	・買上点数はダウンしているが、メーカーからの相次ぐ価格改定で単価が大幅にアップしていることから、売上は横ばいの状況である。
		スーパー（統括）	それ以外	・エネルギー価格の高騰や個人消費の回復の鈍さによって、ウイズコロナによる経済正常化の動きが相殺されており、結果として変化はないとみている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・3か月前から新型コロナウイルス感染症による影響が薄れ、ここ数年で一番の回復傾向にある。売上は新型コロナウイルス感染症発生前までは回復していないが、7月も引き続き黒字の状況が続いている。しかし、最近は新型コロナウイルスの感染再拡大により週末の売上が激減しており、7月の最終週の状況をみると、8月はかなり売上が減少するのではないかと懸念している。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で客足は半減しており、売上は極端に減少している。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・引き続き新車の入荷状況が悪く、納期が不安定な状態が続いている。新型車の発表はあったが、納期遅れが続いており、販売量の確保が困難になっている。
		乗用車販売店（役員）	お客様の様子	・減産の影響による納車遅れが続いていることで、客の購買意欲に陰りを感じる。また、新型コロナウイルスの感染拡大による警戒感により、消費活動にもブレーキが掛かりつつあることが気掛かりである。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数の増加に伴い、予約のキャンセルが増えているが、行動制限がないため新規予約も入ってきている。
		通信会社（職員）	お客様の様子	・景気の話は客から特に出ていない印象を受ける。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響はほぼ感じられず、来店客はいる。ただし、販売につながらない。オンラインでの購入に流れている客が多いのではないかと考える。
		通信会社（役員）	単価の動き	・電子機器等の価格上昇を料金に転嫁できない状況である。客のサービス加入意欲が減少する懸念が出ている。
		その他レジャー施設 [スポーツクラブ]（総支配人）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の第7波による新規感染者数の増加でコロナ禍の困難さがぶり返しており、客からは諦めのような雰囲気が伝わってくる。夏休みに入っの特別教室への参加は前年と比べれば少し良くなっているが、例年の7割程度である。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・物価上昇や、入手できない部品が増えている等の状況が多くの人に認識されており、駆け込みでリフォームしたり設備機器を交換したりする客が増えている。
		住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・物価や建築資材の高騰で、住宅価格が落ち着かない状況である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の急増を受け、商店街の通行量が減少している。夏休みということで小さな子供がいる家族連れが多く、以前のように全く誰も歩いていない状況ではないのが多少の救いである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（販売担当）	来客数の動き	・7月前半はセール開始により比較的順調に来客数が増加したが、7月中旬以降は異常な高温と新型コロナウイルスの感染拡大で来客数が減少した。後半は特に高齢者と10代の来客数が減少しており、必需品を購入するための来店は継続しているが、全体として来客数は減少傾向にある。また、旅行や帰省をする人向けの企画をして商材を確保したが、全く動きがなく大きくマイナスとなっている。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が急増しており、回復傾向にあった販売業に水を差した状態になっている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が客の動向に影響している。
		家電量販店（本部）	販売量の動き	・7月に入ってから、エアコンなどの季節関連商材の売上が非常に厳しくなっている。
		自動車備品販売店（役員）	お客様の様子	・景気が回復してきたようにみえたが、各種値上げや新型コロナウイルス感染症の第7波による感染拡大の影響で、購買客の様子をみると景気は後退しているようにみえる。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・何もかも値段が上がり大変な状況になっていたところに、新型コロナウイルス感染拡大の影響で10日間商売ができなくなった。日本中で新規感染者数が増加しており、どこで感染するか分からず、本当に大変な時代である。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響は従業員にも及び、スタッフが安定的に出勤できない店舗が発生するなど、運営に支障が出るケースが発生している。消費に関しては晴れの場が少なくなり、日常生活中心の身近な消費行動が続いている。その一方で、夏休みを屋外で過ごすケースが増えているためか、レジャー系商材や外出時の便利グッズなどが堅調に推移している。
		一般レストラン（統括）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染が再拡大している。国は行動制限をしない方針で進んでいるが、マスクが報道で騒ぎ立てるため、感染状況が落ち着いていた6月と比べて消費者の外食利用や夜の外出が減っていると感じる。また、観光地である当市は、7月の3連休を境に観光客が激減している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波による感染の急拡大で、人出が減少している。
		通信会社（役員）	来客数の動き	・3か月前の契約者数は、放送、通信共に前年同月と比べて増加していたが、7月は前年同月と同数程度になっている。
		テーマパーク（役員）	来客数の動き	・行動制限はされていないが、新型コロナウイルスの感染拡大によって客の動きがやや鈍くなっており、やや悪くなっている状況である。
		パチンコ店（経理）	販売量の動き	・売上が減少傾向にある。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染者になったとか、子供が通っている小学校が休校になったなどで、予約客のキャンセルが増加している。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今後、更に住宅価格が高騰するとの思わくから、今のうちに購入した方が良いとの駆け込み受注の印象を受けていたが、さすがにその力も弱まっており、今後の受注額は減少するとみている。
		住宅販売会社（営業）	お客様の様子	・4月以降受注の低迷が続いている。価格高騰の影響が、商談客の動きが鈍化しており、ますます落ち込みが進んでいる。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・夏休みにもかかわらず、人出が激減している。買物客は散歩することもなく、用事を済ませるとすぐに帰途についており、全くお手上げの状態である。
	×	スーパー（店舗管理）	来客数の動き	・人口が減少していない地域でも来客数の減少が続いている。キャンペーン等を行っても、その後の売上が非常に大きく減少するため、費用対効果が現れていない。
	×	家電量販店（店長）	販売量の動き	・気温が上昇しないため、エアコンなどの夏物商材が苦戦している。
	×	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・景気が悪くなっている最大要因は、来客数とともに買上客が減少していることである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加するとともに来客数が減少するため、感染が拡大し始めた7月中旬から集客にブレーキが掛かり出し、新型コロナウイルス感染症発生前と比べて約80%の集客となっている。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・悪い状態に逆戻りしている。新型コロナウイルス新規感染者数の増加や、プレミアム付食事券が使用できる居酒屋や小料理屋などで飲食し、使用できない当店への来店はなくなっている。
	×	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が爆発的に増加しており、7月19日以降、夏の団体旅行や企業における出張のキャンセルが相次いで発生している。
企業 動向 関連 (北陸)		精密機械器具製造業（財務担当）	受注量や販売量の動き	・特に大型の受注が増加している。
		一般機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・特に半導体関連を中心に好調なことから、他の製造業でもほとんどのメーカーが繁忙状態になっているようである。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共工事の受注が順調である。
		税理士（所長）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染や、米国金利の利上げなどによる円安の影響がある状況下で、設備投資や消費において徐々に価格転嫁が進んでいるようである。新型コロナウイルス感染症の影響で需要がかなり止まっていたことから、潜在的な需要は十分あるというのが実感であり、実際に受注状況も改善に向かっている。
		食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・直近の売上は若干ではあるが前年割れの傾向である。第7波が到来しても人の動きは活発なままで、巣籠り需要による家庭用の消費が好調だった頃とは様子が異なる。市販用の商材は苦戦続きである。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・現在の受注量は、前年と比べて低くなっている。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症対策の行動制限の緩和が進む一方で、半導体不足やウクライナ情勢の長期化に伴う供給制限、物流費や原材料費高騰の影響は大きく、引き続き厳しい状況が続いている。
		通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・受注量に変化はないが半導体起因する商品不足が続く、売上に影響を与えている。景気は悪くはないが、活気があるようにはみえない。
		司法書士	取引先の様子	・3月末が事業年度の企業における定時総会が終了したが、おおむね前年度と同様、若しくはやや良い内容のところが多い。
		繊維工業（総括）	受注価格や販売価格の動き	・受注は引き続き堅調であるが、原材料価格の高騰に拍車がかかっており、収益環境が一層厳しくなっている。
		輸送業（管理会計担当）	受注価格や販売価格の動き	・燃料費が高騰しているため運賃を引き上げたいが、競合の大手企業が物量確保を優先しており、消耗戦の様相を呈している。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・原材料など経費の値上がりを価格転嫁できない状態である。また、1度は価格転嫁しても再度値上がりし、利益率が改善できない。一方では人手不足の問題も継続しており、会社運営は引き続き厳しい状況である。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・一般消費者は家を建てることを控えており、不景気がかなり影響していると考える。
	×	-	-	-
雇用 関連 (北陸)		-	-	-
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は、前年度と比較して増加が続いている。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・3か月前とほとんど違いがない状況である。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・とにかく人が来ないということに尽きる。
	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人数は増加傾向にあるが、応募者が少ないためマッチングが困難を極めている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大が第7波に入り、若干ではあるが会合やイベント等に延期の動きが見られる。ワクチン接種が進んでいるため、これまでのような混乱は起きていないが、2～3か月前と比較するとイベントの開催や広告出稿について慎重な姿勢が強くなっているようである。
	x	-	-	-

8. 近畿(地域別調査機関:りそな総合研究所株式会社)

(-:回答が存在しない、*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (近畿)		百貨店(外商担当)	単価の動き	・絵画や高級輸入時計、特選ブランドなどは、相次ぐ値上げにもかかわらず好調である。
		一般小売店〔時計〕(経営者)	販売量の動き	・今月は時計、バンド共に動きが見られ、売上は良かった。当店の商品ではなく取り寄せが多かったため、粗利はそれほど良くなかったが、近隣の大型商業施設ではなく当店を選んでくれたことが有難い。
		百貨店(マネージャー)	お客様の様子	・企業活動の活発化や行楽などで人流が増えている。衣料や雑貨といった季節のファッション商材が中間層を中心に好調となり、売上が前年比で約20%増えているほか、富裕層による美術品や特選雑貨の購入も好調が続いている。また、暑さのせいで自炊が敬遠され、レストランや総菜、ベーカリーの売上も良い。唯一、生鮮3品の販売が苦戦している。
		百貨店(特選品担当)	来客数の動き	・7月に入り、新型コロナウイルスの新規感染者数が急増したが、客の購買意欲や来客数にはそれほど影響がないと感じる。高額品の動きも相変わらず順調である。
		百貨店(服飾品担当)	単価の動き	・7月に入り、例年はセールが中心の時期であるが、コロナ禍で変化が生じている。安くなったから買うという動きが徐々に減り、良い物であれば定価でも買い、セールにならない商品が欲しいという行動が顕著になっている。その結果、ラグジュアリー関連のバッグや宝飾品、時計などの購買意欲は高く、円安による値上げもあって、単価アップにつながっている。いずれの商品も2019年の実績を超えており、国内客の消費がインバウンドの実績を上回って好調となっている。さらに、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えるなかでも、以前ほど客足に影響は出しておらず、今後にも期待が持てる。
		スーパー(経営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染第7波により、家庭での内食や家飲み傾向が復活してきた。結果として、直近は軟調であった酒類やおつまみなどの売上が急回復している。また、猛暑も追い風となり、飲料やアイスクリームなどの売上も急伸している。
		スーパー(店員)	単価の動き	・目標には届かなかったものの、ここ数か月はマイナスであった、売上の前年比はプラスとなっている。
		スーパー(企画担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染第7波により、家庭での内食需要が増加している。原料や製品のコスト上昇に伴う価格転嫁を最小限に抑え、薄利でも競合店に負けない価格設定を行った。その結果、販売数が伸び、売上、利益を最大限に獲得できている。
		コンビニ(店員)	お客様の様子	・休日などは、レジヤンに出掛ける前に来店する客が増えたほか、新型コロナウイルスに感染したときの準備か、カップ麺や冷凍食品などの大量購入も多い。
		その他専門店〔ドラッグストア〕(店員)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染第7波の発生で外出やレジヤンが減る一方、当店で買物が増えている。病院で受診できない人が薬を買いに来ており、1人当たりの客単価も上がっている。
		その他専門店〔医薬品〕(管理担当)	販売量の動き	・若干であるが、買上点数、客単価共に上向きつつある。健康食品や化粧品の販売は堅調で、来客数も微増となっている。
		その他小売〔インターネット通販〕(オペレーター)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に伴い、マスクのほか、しばらく注文のなかったパルスオキシメーターの注文が増えている。
		一般レストラン(経理担当)	来客数の動き	・季節要因による影響も大きい。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・少し良くなってきているが、新型コロナウイルスの新規感染者数が日々増えており、自分自身が感染したり、濃厚接触者になるなど、キャンセルが相次いでいる。先週からかなり影響が目立ってきている。
		観光型旅館（団体役員）	来客数の動き	・夏休みに入り、海水浴に来る客が増えているが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響でキャンセルが出ている。感染が収束しなければ、更なるキャンセルの増加が懸念される。
		都市型ホテル（管理担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えているが、行動が制限されていないため、キャンセルがほとんど出ていない。
		都市型ホテル（客室担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が拡大しているが、観光需要は増えている。感染症対策を行いながらの旅行にも免疫が付き、人流が増えている。
		タクシー運転手 タクシー運転手	お客様の様子 来客数の動き	・暑さの影響もあるが、手を挙げる客が増えている。・最近暑い日が続いているため、客がいろいろな場所で手を挙げたり、乗り場では近距離で利用する客も多く、順番待ちが発生している。新型コロナウイルスの感染は拡大しているが、外出する人も増えている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染再拡大にもかかわらず、人流は特に減っていない。配車アプリの利用もあって客の乗車機会は増え、営業収入は前月比で1～2割増加している。
		観光名所（企画担当）	来客数の動き	・この7月前半までは来場者も増えるなど、良い状況に戻ってきている。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	それ以外	・物価上昇の影響で、買い控えの動きが見られる。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	それ以外	・ここ数か月は売上が横ばいである。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	販売量の動き	・物価の上昇と新型コロナウイルスの感染拡大の影響がみられる。飲食関連の取引先にも客が戻ってきていたが、また厳しくなっている。
		一般小売店〔菓子〕（営業担当）	販売量の動き	・前年比では好調であるが、新型コロナウイルスの新規感染者数が爆発的に増えているため、再び悪化することを考えると不安である。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・今月の売上は前年を上回る見通しであるが、目標には僅かに届かない見込みである。富裕層向けの海外特選ブランドは好調であるが、円安による値上げ前の駆け込み需要の影響も一部にある。また、猛暑の影響で、パラソルや帽子などの動きも好調であるが、好調な商品は一部に限られ、60歳以上の主力客層の購買も戻っていない。
		百貨店（企画担当）	販売量の動き	・現時点で売上は目標比、前年比共にプラスで推移している。その一方、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加し、来客数や店の前の通行量には影響が出ている。また、富裕層が中心の外商売上は好調であるが、外商を除く国内客の売上は、目標を下回る状況となっている。
		百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・今月も円安傾向が続き、来月からは海外の特選洋品ブランドの値上げが実施される。それに伴い、値上げ前の購入のほか、海外からの観光客の入国再開による来店増加で販売が好調に推移し、売上を下支えしている。
		百貨店（マネージャー）	お客様の様子	・明らかに3か月前と比べて良くなっていたが、直近の新型コロナウイルスの感染第7波により、急激に状況が変わってきた。来街者の激減に伴い、来客数が減少しているほか、店内や店外での販促やイベントの来場にも急なキャンセルが相次ぐなど、外出自体を控えるといった行動変容がみられる。
		百貨店（販売推進担当）	販売量の動き	・バーゲンセール商戦が始まったが、特に衣料品はメーカーの在庫圧縮や海外での生産遅延、製造中止などが重なり、商材不足で思うような売上が確保できていない。一方、今月中旬以降は新型コロナウイルスの感染第7波が拡大するにつれて、やや動きが鈍くなっているが、第6波までの自粛状況に比べると影響は少ない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店長）	お客様の様子	・商品の値上げと、新型コロナウイルスの感染再拡大の同時進行という複雑な状況が続いているが、大きな変化はないと感じる。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が再び増えたほか、夏休みに入ったことも重なり、徐々に家庭での利用商品に需要がシフトしている。総菜や素材関連の商品の販売量が増えつつあるが、値上げ商品も多いことから、節約志向が強まる恐れもある。
		スーパー（販売促進担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染第7波が発生したが、多少は外食から内食へのシフトはみられるものの、前年の行動制限に比べると影響は小さい。客の様子にも、買いためのようなパニックはみられず、比較的落ち着いている。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が、大都市で増加している。来客数は変わらないが、平均単価が5%下がり、売上が減少している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・ようやくコロナ禍が落ち着くとみられたが、まさかの感染第7波が始まった。今後の経済への影響が心配である。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・客の動きは良くなっているようにみえるが、来客数はそれほど増えていない。値上げ分の金額が、売上に上乗せされただけのように感じる。
		コンビニ（店員）	お客様の様子	・特に大きな変化のない1か月であった。新型コロナウイルスの感染拡大によって来客数が減ることもなく、旅行者らしい客の来店も続いている。猛暑のなかでも、コンビニは利用してもらえている。
		コンビニ（店員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に増えたが、感染が落ち着いていた時期とさほど変わらず、客は来店している。
		コンビニ（店員）	販売量の動き	・猛暑続きでアイス類やドリンクの売行きは良いが、揚げ物や焼き立てパンの廃棄が目立つ。
		家電量販店（経営者）	それ以外	・コロナ禍の影響による物流の停滞は続いており、販売量が増えない。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・半導体不足の影響で、まだまだ日本への入荷台数が確保できていない。供給できる車がなければ販売が滞るため、非常に困っているのが現状である。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・生産の遅延が常態化しており、ここ数か月は低位で安定している。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染者や濃厚接触者が増え、出勤者が減っているため、稼働率が下がっている。
		都市型ホテル（総務担当）	来客数の動き	・府民割が終了となったため、レストランの客が減少した。さらに、新型コロナウイルスの急激な感染拡大で宴会のキャンセルが増加し、新規受注も伸び悩んでいる。
		都市型ホテル（販売促進担当）	来客数の動き	・大きくは変わっていないが、宿泊稼働率が久しぶりに50%台から60%台に上昇した。新型コロナウイルスの新規感染者数が増えても、最近のビジネス客の動きに大きな変化はない。ただし、夏休みに入り、土曜日などに増加を見込んでいた観光客はそれほど増えず、全体では微増にとどまっている。
		旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・今年は3年ぶりに行動制限のない夏休みである。県民割や全国旅行支援への期待もあり、客の夏休みの旅行マインドは好調で、受注にもつながっていた。ただし、ここへきて新型コロナウイルスの感染第7波が発生し、申込みのキャンセルは少ないものの、新規の受注が一気に止まっている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・梅雨も明けて、最も暑い時期は昼間の気温が30度を超えるため、タクシーの利用率は上がっている。ただし、新型コロナウイルスの感染が拡大し、夜の会食ムードが大きく低下したため、乗客数は減っている。
		通信会社（店長）	それ以外	・携帯電話の販売は、キャリア手数料の減額改定の影響で、運営が厳しくなっている。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・スマートフォンの値上げで、転売目的の購入が減っている。契約獲得の費用を投下することもないため、利益は確保できるが、販売台数が減少している。
		美容室（店員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、キャンセルが増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	来客数の動き	・住宅展示場の来場者数は、新型コロナウイルス発生前の3割減少となっているが、イベント目当ての客が減っただけで、各社の成約数は好調に推移している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・7月に入って、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えたことで、商店街の通行量が減少している。
		一般小売店〔珈琲〕（経営者）	販売量の動き	・業務用の卸売先では、1店当たりの受注量が減少している。
		一般小売店〔花〕（経営者）	販売量の動き	・猛暑の影響が仕入価格に出始めているほか、販売量が減っているため、利益が減少している。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・春以降、来客数、店頭売上共に、徐々に回復しつつあった。ただし、新型コロナウイルスの感染第7波の発生が報じられた7月下旬以降、来客数は急激に減少している。街の人出はそう変わらないが、当店の主要客層の外出は減ったように感じる。
		百貨店（外商担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染がまた拡大してきたため、来客数が減少し始めている。食料品の売上は好調であるが、紳士服や婦人服の売上は低調となっている。
		百貨店（売場マネージャー）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染第7波の影響で、来客数が大きく減少している。その一方、ラグジュアリーブランドの価格改定前の駆け込み購入により、高額品は好調を維持している。
		百貨店（販促担当）	来客数の動き	・コロナ禍の感染の波が繰り返され、特に今回は過去最大規模となっているため、来客数が減少している。また、店での滞留時間も前年を大きく下回っている。年配者を中心に不要不急の買物を控え、目的買い以外は店に立ち寄らない傾向が顕著である。せっかくの各種制限のない夏休みが、ここへきて暗転し、集客策も打ち出しにくくなっている。
		百貨店（営業推進担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大で、特に高齢者の来店が減少している。さらに、リベンジ消費も落ち着いており、来街者が減少している。
		百貨店（店長）	来客数の動き	・7月初旬は来客数も好調であったが、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に伴い、減少が進んでいる。70歳以上の高齢者に対する、不要不急の外出自粛要請が出されると、近隣の府県でも動きが鈍化している。前年もこの時期から感染者が増えたが、今回の方が多くだけに警戒感が強い。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・政府による行動制限はないものの、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加で、衣料品売場などは以前と比べて来客数が減少傾向にある。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・物価の上昇、新型コロナウイルスの感染第7波の影響で、来客数の減少や客単価の下落などが、直近の数字に表れ始めている。今後の動向は不透明であるが、客の購入意欲が低下し、実際の消費にも影響が出ると予想される。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数は横ばいであるが、1人当たりの買上点数が落ちている。商品価格の値上げによる影響が出ている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・1人当たりの買上点数が減っている。
		スーパー（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えて以降、年配の客が減ったように感じる。原油価格の上昇や気候要因で、野菜、果物共に価格が上がっているため、ますます客も少なくなっている。
		スーパー（企画担当）	それ以外	・来客数や売上、客単価が徐々に悪化しており、売上は前年比で90%となっている。
		スーパー（社員）	単価の動き	・生鮮食品の相場の上昇や、メーカーの値上げによる商品単価の上昇がみられるものの、1人当たりの買上点数が減少している。結果的に、買上単価は前年よりも低下する動きが続いている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の急増に伴い、中旬以降は来客数がかなり落ち込んでいる。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・物価上昇の影響が、食料関連や生活全般に広がる状況を実感し、消費行動も慎重になってきたと感じる。コロナ禍による行動制限はなくても、各個人で行動の範囲を抑えることが予想される。賃金上昇の動きも現時点では一部にとどまるなど、景気が良くなる材料が少な過ぎる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ(店長)	お客様の様子	・商業施設への来客数が減少している。
		衣料品専門店(経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えるとともに、来客数が減少し、営業時間を短縮せざるを得なくなっている。選挙のたびにコロナ禍がひどくなると感じる。雇用調整助成金の特例措置は9月末までとなっているが、延長が必要と考える。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・客の動きは、4～5月よりも少し鈍化している。暑さもあってスーツが売れず、単価も下がったため、厳しい月となっている。
		家電量販店(店員)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染第7波により、来客数の動きに影響が出ている。生活に必要な食品スーパーなどは来店が増えるとしても、特に必要ではない商品への影響は大きい。
		家電量販店(企画担当)	来客数の動き	・エアコン商戦が期待外れで、予想したほど伸びていない。また、在庫不足の影響でかなりの打撃を受けている。
		乗用車販売店(営業担当)	販売量の動き	・半導体不足で新車の生産や入荷が遅延しており、中古車の価格が高騰している。販売する車がなくなりつつあるため、客足も遠のいている。
		その他専門店[宝石](経営者)	お客様の様子	・ウクライナ危機の影響もあり、物価の上昇が進んでいる。それに加えて、最近では新型コロナウイルスの感染第7波の影響も出ている。
		その他専門店[食品](経営者)	販売量の動き	・飲食業はコロナ禍の状況に左右されるため、今月は悪化傾向にある。
		その他専門店[ガソリンスタンド](経理担当)	販売量の動き	・物価の上昇や新型コロナウイルスの感染第7波の発生など、明るい材料に乏しく、景気回復の足取りは鈍い。一時的にリベンジ消費はみられたが、新規感染者数が過去最多となるなど、先行きの不安感が強まっている。
		その他専門店[スポーツ用品](経理担当)	単価の動き	・一般消費財の値上げが止まらない。円安にまず歯止めが掛かってほしい。
		その他小売[インターネット通販](企画担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染第7波の影響で、来客数が減少しているほか、競合他社のリニューアルの影響も続いている。
		一般レストラン(企画)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に伴い、売上が減少傾向となっている。ただし、2019年の水準は維持できている。
		観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増え、高齢者に対する移動制限の要請が出たことで、徐々にキャンセルが増えている。
		都市型ホテル(管理担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の別系統の新規感染者数が急激に増加し、宿泊客、レストラン客共に、動きが停滞気味である。
		都市型ホテル(フロント)	来客数の動き	・夏休みに入り、新型コロナウイルスの感染が一気に拡大した。従業員に感染者や濃厚接触者が増え、現場が回らなくなっている。客室単価を下げても、予約数は何とか横ばいの状態である。
		旅行代理店(役員)	来客数の動き	・県民割やブロック割の延長に伴い、需要は伸びていたものの、新型コロナウイルスの感染拡大によるキャンセルが続いている。年間で最大の繁忙期である夏に感染が拡大し、大打撃となっている。
		通信会社(経営者)	お客様の様子	・円安の進行に伴う、原価や材料費の上昇により、やや悪くなっている。
		通信会社(経営者)	来客数の動き	・スマートフォンの卸売価格の値上げなどもあり、機種変更の需要が低下している。
		通信会社(社員)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染第7波の影響もあり、消費が大きく減少している。大企業のボーナス支給額は増えたようであるが、地方の企業業績は大幅にダウンしたままであり、ボーナスの支給にも期待できない状況である。
		テーマパーク(職員)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染第7波の影響か、来場者の客足が鈍っている。
		その他レジャー施設[複合商業施設](職員)	お客様の様子	・6月下旬以降、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加とともに、来客数が徐々に減少している。特に、年齢の高い客が反応している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染第7波によって団体客のキャンセルが出るなど、来客数に影響が出ている。
		美容室（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染が拡大し、スタッフの勤務状況や来客数の予約状況に影響が出ている。
		住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・建築資材価格の値上げの動きは緩やかになってきたが、いまだに価格の上昇自体は続いている。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・広告などの反響が極端に悪くなっている。
		住宅販売会社（総務担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染第7波の拡大に伴い、人の動きが鈍くなってきている。
		その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染第7波による影響が大きく、客への訪問予定が延期になっている。客が感染して当日にキャンセルとなる例や、社員の家族に感染者が出て、業務が停滞するといった例が、7月中旬頃から目立ち始めている。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	お客様の様子	・マンション、戸建て住宅共に価格の上昇が続き、市場に停滞感が出てきている。また、コロナ禍が始まってからの2年間は住宅需要が旺盛であったため、その反動もみられる。
	×	一般小売店〔呉服〕（店員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えているため、来客数が減少している。
	×	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・今月は土用の丑の日の23日までは、来客数、売上共に順調に推移していたが、23日～月末にかけて、新型コロナウイルスの感染第7波の拡大に伴い、極端に来客数が減少している。また、各種商材の値上げも影響し、買上点数の減少も顕著である。
	×	百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染第7波の発生や、猛暑といった来店モチベーションを押し下げる要素が多い。祭りなどでぎわった3連休以降、来客数、販売量共に大きく落ち込んでいる。
	×	百貨店（宣伝担当）	来客数の動き	・3年ぶりに行動制限のない夏となり、7月上旬まではファッション関連アイテムを中心に好調な推移となったが、新型コロナウイルスの感染第7波の拡大で来客数が激減している。主要客である中高年層が外出を控えるようになれば、売上の減少に直結する。
	×	百貨店（売場マネージャー）	来客数の動き	・7月中旬から、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向にあり、来客数が急減している。来客数の前年比は5月がプラス6.1%、6月がプラス1.5%、7月がマイナス0.1%と、前年を下回っている。また、60～80代のシニア客が更に減ったのに伴い、婦人服のミセス商品の売上が減少している。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・7月の前半は良かったが、20日を境に急激に客が減少している。
	×	家電量販店（店員）	販売量の動き	・海外からの資材の未入荷が長期化し、作業の停滞が続いているため、販売スケジュールの調整が困難となり、余分な人手も必要となっている。
	×	家電量販店（人事担当）	販売量の動き	・前月は早期に梅雨が明けたほか、気温が上昇したことで、季節商材が例年よりもよく売れた。ただし、7月は戻り梅雨となり、気温も予想したほど上がらず、エアコンの売行きは芳しくない。
	×	住関連専門店（店長）	それ以外	・円安の進行で、仕入原価の高騰に歯止めが掛からない。
	×	住関連専門店（店員）	それ以外	・全ての商品で価格が上がっているが、収入は変わっていないため、生活に直接必要のない物は、買わない客が増えている。
	×	その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	販売量の動き	・街の人の流れは前月と変わらないが、円安の進行に加え、新型コロナウイルスの新規感染者数が一気に増えるなか、消費の対象から宝飾品などは外れている。
	×	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染第7波の影響で、予約数が激減しているほか、キャンセルも増えている。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に増え、予約のキャンセルや来客数の減少につながっている。客の声では、感染第7波の到来がいわれ始めてから、政府からの要請というよりも、会社からの要請で会食や外食が禁止されているという人が多い。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・参議院選挙後に、新型コロナウイルスの新規感染者数が爆発的に増え、来客数が激減している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・3か月前の4月と比較すると、第1週のレストラン利用者数は327人の増加で、単価は274円の低下、第2週は960人の増加と69円の低下、第3週は1116人の増加と78円の低下、第4週は1295名の増加と87円の低下となっている。景気は下向いている感覚であるが、実際には利用人数は増えており、単価が少し低下する形となっている。一方、7月には新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に伴い、席の間隔を気にしたり、店内の換気状況を気にする客が増えている。
	×	旅行代理店（店長）	販売量の動き	・全国旅行支援の延期に加え、新型コロナウイルスの新規感染者数の急激な増加により、新規の申込みは減り、キャンセルが増えている。
	×	競輪場（職員）	単価の動き	・今月の客単価は8861円で、3か月前の1万2272円よりも下がっている。
企業 動向 関連 (近畿)		*	*	*
		食料品製造業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数は増えているが、客は行動を控えていないため、飲食店などへの飲料水の販売はやや増えている。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3～4月が悪過ぎたため、今は良い評価となっているが、雰囲気は悪くない。前年末からの注文の延期分が、発注となる動きもある。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ほんの少しであるが、景気は改善している気配を感じる。基本的にはまだ超低空飛行であるが、上昇の気配はある。凍結されていた案件も動き出している。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・商品の入荷の遅れが続いているが、ある程度は届き始めた。遅れていた工事も、それなりに順調に進み始めている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・Web媒体、紙媒体共に、広告売上が前年の水準を上回っている。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・月末に近づくと、多くの取引先が在庫調整を行っている。
		化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・どの業界も一進一退で、良くなってきた業界もあれば、逆に悪くなってきた業界もある。全体的には大きく変わっていない。
		化学工業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・自動車やオートバイ用の電装関連の生産減少により、出荷量が減少している。また、建築関連の出荷量も少ないほか、化学品の原材料や鉄製容器の値上がりが激しく、利益が大きく減っている。
		電気機械器具製造業（経理担当）	それ以外	・電子部品やハーネス、コネクタといった部品の供給が改善されておらず、市場が少し動き出したものの、受注できない状況となっている。いまだに受注状況は芳しくなく、かなりのダメージを受けている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・売上が増えないほか、部品の納期が延びているため、製品を完成させることができない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・コロナ禍やウクライナ危機など、良い話がない。
		輸送用機械器具製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・新規設備の引き合いがあっても、年度内の売上とするには、制御部品などの仕入れが間に合わない。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・もう少し受注が伸びると予想していたが、余り変わらない。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・契約後に仕入コストが徐々に上昇してきたが、価格への転嫁は困難な状況である。急激な値上がりでもないため、客に理解してもらえても、納得はしてもらえない。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染第7波の拡大が進んでいるものの、特に行動を制限することもなく、これまでと変わらない生活を過ごしている。これで感染症法上の新型コロナウイルスの位置づけが2類相当から5類相当に見直されれば、少しでも経済活動は活発化すると感じる。
		金融業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・商品によっては仕入れが相当遅れており、建設関連では工事の完了にも遅れが生じている。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・客を訪問して受注状況を確認すると、3か月前と比べて変化はないとの回答が多い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・取引先はコロナ禍に慣れ、今の状況を前提に営業している。どの業種も国や自治体の支援に慣れてしまい、支援を前提に新規投資や事業継続を決めている。これらがなくなった場合を考えるよりも、今を生き残ることを優先に考えている。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・今年は梅雨明けが早く、観光需要の拡大を期待したが、新型コロナウイルスの新規感染者数が急増した影響もあり、予想したほど動きはない。特に、夕方以降の客足の引きが早くなっている。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量や見積量には余り変化がなく、良くない状況で進んでいる。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・製品が生産できず、納期遅れで失注につながるケースが増えている。
		食料品製造業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・原材料や資材の価格が高騰するなか、家庭用商品は値上げが進まず苦戦しているが、業務用商品の販売は少しずつ回復している。利益率は悪いが、製造量の増加で多少はカバーできている。
		繊維工業（団体職員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に増加し、受注が減少している。
		繊維工業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・新型コロナウイルスの感染第7波の影響で、催事での集客が悪化しており、他社との価格競争につながっている。経費が増えるなか、販売単価は上がらず、利益が減少している。売上は前年比で80%、利益は60%と、出張に行く経費が回収しにくくなっている。
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	それ以外	・あらゆる品目の価格が上昇している。当社でも燃料代が上昇し、経費が増えている。現下の状況を踏まえて、製品の値上げ交渉では比較的受け入れてもらっているが、それ以上に燃料代の上昇が進んでいるため、利益が減少している。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・部品不足により、自動車の組立工場の稼働率が低下し、自動車関連企業の荷動きが非常に悪化している。
		金属製品製造業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・一部の自動車メーカーが、コスト上昇分の値上げを認めようとしめない。
		一般機械器具製造業（設計担当）	それ以外	・物価の上昇率が上がっている。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	受注量や販売量の動き	・例年は7月の家電市場をけん引するエアコンが、気温の低下によって実売が鈍化したため、全体的に低調な推移となっている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ホームページなどでの問合せが減少している。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の再拡大により、交通広告の申込みがまた落ちている。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・回復傾向がみられた売上も、ここへきて悪化している。新型コロナウイルスの新規感染者数の増加で客足が遠のくなど、あらゆる面で消極的な動きが見られる。
	×	電気機械器具製造業（経営者）	それ以外	・景気の悪化要因がこれほど重なる事態は、余り経験したことがない。
	×	不動産業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増え、人出が減少している。それに伴い、店舗の解約が出て空室率が上がり、賃料も下がっている。
	×	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・ウクライナ危機と新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、ダメージが大きい。
雇用 関連 (近畿)		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・案件数が増え、決定率も上がってきている。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・派遣依頼の件数も、前年の実績を上回っている。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・正社員の求人が増え、派遣社員として働きたい人が減っているように感じる。
		人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・求人数は、新型コロナウイルス発生前の水準に戻っている。
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・人の流れはかなり戻ってきており、街には活気が感じられる。飲食や観光を中心に、求人数も新型コロナウイルス発生前の水準に回復している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・新規求人数は、業種や職種にもよるが、緩やかな増加傾向にある。その影響で売手市場の傾向が強まっており、採用が長期化する企業も多い。売手市場であることを見越して、早くから採用活動を始める企業も増えている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・各企業へのヒアリングでは、ほぼ新型コロナウイルス発生前の状況に戻りつつあるという意見が多い。ただし、今後は円安や原油価格の上昇の影響で、どうなるかは分からない。
		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況の悪化に伴い、企業心理が少し悪くなっている。米国や欧州などの金利上昇で景気の見通しが悪化し、今月に入って企業はますます慎重になり、派遣オーダーは1か月や3か月といった短期スパンになっている。今まではマッチングに苦労しなかったが、ここへきてピンポイントで良い人材だけを採用するようになり、即決するケースは減っている。
		人材派遣会社（管理担当）	求人数の動き	・上向き傾向にあったが、新型コロナウイルスの感染拡大によって鈍化している。行動制限こそ出ていないが、日に日に感染が拡大し、求人数にも影響が出ているほか、求職者の辞退も発生している。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加が続いているが、消費者は制限を受けずに行動しているようにみられる。これまで大きな影響を受けてきた、飲食や旅行、観光、旅客運送などの求人数も戻りつつある。ただし、各企業ともまだ警戒心を解いておらず、状況を見ながら慎重に対応していると感じる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新聞広告の出稿については、今年度の第1四半期と比べても、特に良くない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数全体は、前年比、前月比共に増加した。6月はコロナ禍が落ち着いていたこともあり、特に飲食業での伸びが目立った。一方、製造業も堅調に伸びているものの、以前ほどの勢いはみられない。労働者派遣業の求人も減少しているが、いずれも原材料価格の上昇などによる、人件費の抑制が響いている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	それ以外	・様々な要因で上向きと下向きの動きが見られる。新卒採用市場では例年以上に選考の早期化が進み、企業の採用活動は活発化している一方、求職者の間では内定辞退者も多く、就職先を決めかねているように感じる。追加の求人も出ているため、求人広告や新卒紹介の動きはよいが、マッチングは難しい。また、新型コロナウイルスの感染再拡大により、対面イベントのキャンセルや、オンラインでの代替開催の動きが見られる。
		学校〔大学〕（就職担当）	求職者数の動き	・現在、就職活動中の学生は定期試験中であるほか、企業は新型コロナウイルスの感染第7波の拡大で動きが鈍くなっている。医療職は人手不足であるが、今の状況が続く限り厳しい。
		その他雇用の動向を把握できる者	求職者数の動き	・求人への堅調な動きにけん引され、有効求人倍率等の雇用指標は改善傾向が続いている。一方、求職者の動向は、依然として就職活動に慎重な姿勢から、就職活動が長期化する傾向が強いほか、足元では鈍化の動きがみられる。この要因が、直近の3か月は前年比で増えていた反動が、新型コロナウイルスの感染第7波の影響かは、今後の状況で判断する必要がある。いずれにせよ、現在の雇用情勢は活発とは言い難い。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	周辺企業の様子	・原材料価格の高騰や円安の影響で、多くの企業が厳しい状況にある。また、新型コロナウイルスの新規感染者数もこの1か月で急に増えており、景気は確実に悪くなってきている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年5月～今年6月まで、新規求人数は前年比で増加が続いていた。7月は新規求人の件数は微増であるが、人数ベースでは僅かに減少している。それぞれの会社が採用数を絞ってきている。
		民間職業紹介機関（支社長）	それ以外	・採用面では、景気の悪化による影響はまだみられない。その一方、取引先の事業環境としては、新型コロナウイルスの感染状況の推移や海外情勢を含めて不確定要素が多く、プラスの材料に乏しい。
		学校〔大学〕（就職担当）	求職者数の動き	・発表されている内定率の高さに影響され、企業が採用活動を終了する動きが見られる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	-	-	-

9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連		タクシー運転手	来客数の動き	・7月初めまでは景気が良くなっていたが、今後は新型コロナウイルスの感染が拡大しているため、不安である。
(中国)		商店街（代表者）	来客数の動き	・コロナ禍で停滞していた消費が動き始めている。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の影響が弱まり、通常の消費に戻りつつある。商品が値上がり傾向にあり、一部に駆け込み需要がみられる。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	単価の動き	・単価の高い商品を提案することで、受注成約率が高まっている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・今月に入り、来客数が少しずつ回復している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・3か月前と比べ、客単価が低下しているが、来客数や売上は増加している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・人の動きも活発になってきており、売上は回復傾向にある。
		家電量販店（販売担当）	販売量の動き	・来客数は減少しているが、客が良い物を求めているため、単価が上昇している。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・前年は新型コロナウイルス感染症の影響で、販売が大幅に落ち込んでいたが、今月は新型車の効果もあり、多少回復している。
		その他専門店〔土産物〕（経営者）	お客様の様子	・多くの観光客が来店し、土産品などを購入しており、以前より活気がある。観光マップなどの冊子が早くなっている。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	単価の動き	・来客数は微増、売上単価は上昇している。ただし、当地も新型コロナウイルスの感染が拡大しており、来月の来客数がどうなるかは分からない。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきてから徐々に来客数が回復していたが、ここ最近の感染拡大で、回復が若干鈍ってきている。ただし、以前ほど極端に来客数が減少したわけではないので、月全体では微増となっている。
		都市型ホテル（企画担当）	お客様の様子	・人流が良くなってきている。また、客の消費意欲が高く、活発に行動し始めている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月中旬から新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に増加し始め、後半から少しずつ人流が悪くなってきている。しかし、行動規制などの飲食店の営業時間規制等がないので、以前のような停滞や落ち込みはない。観光予約も多少あるが、キャンセルになっていない。
		タクシー運転手	販売量の動き	・夜の売上が確実に増加している。
		通信会社（経理担当）	お客様の様子	・光回線を待っていた客も多く、エリア拡張で加入者が増加している。
		放送通信サービス（総務経理担当）	お客様の様子	・利用料の延滞総額は低下傾向、回収率は上昇傾向にあるため、新型コロナウイルス感染症が家計に及ぼす影響も短期的には小さくなっている。
		住宅販売会社（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているが、現状は客に以前ほどの外出自粛の意識はない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・最近、夏のイベントを実施すると、人の流れがあるが、普段は暑さのためか人が余り歩いていない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・今月に入り、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しており、このままだと来客数の減少が続く。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	お客様の様子	・今期に入っても、業績は前年を下回っていて、不安である。雇用調整助成金を受給しているが、9月で終了と聞いている。しかし、その頃はまだ経済の回復は見込めない。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	来客数の動き	・来客数の状況は4月より改善しているが、客単価の状況は更に悪化している。
		百貨店（経理担当）	販売量の動き	・県内での新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、ほとんどの部門で売上が伸びず、前年を下回っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・来客数や売上が前年比プラスで推移していたが、月の中旬から新型コロナウイルスの新規感染者数が増加し、来客数や売上が激減している。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・数百万円の美術品やぜいたくな宝石類が売れている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・コロナ禍から脱した感じはあるが、値上げ基調により、販売点数や売上は横ばいである。週末を中心に外出や行楽はあるものの、逆に外食に流れている傾向もある。また、客が割引日に集中し、平日等との格差が大きくなっている。販売点数は平日の落ち込みがあり、全体では減少傾向にある。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来客数は極端に減少していないが、客単価がやや低下している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・商品の値上げが続き、販売点数の前年割れが続いている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数は前年比95.4%で推移している。まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が出されていないため、週末などは客が飲食へ若干流れている。商品の値上げで1品単価が上昇しているが、客が無駄な買物はしない傾向にあるため、買上点数が伸びていない。
		スーパー（販売担当）	販売量の動き	・人口が減少しているため、必然的に売上が右肩下がりとなっている。高齢化もあり、客の消費が減少傾向にある。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・8月に歌舞伎を観劇する旅行を計画しているが、参加者が夏物を購入したので、今月は景気が良くなっている。
		衣料品専門店（代表）	来客数の動き	・客が新型コロナウイルス感染症の第7波を警戒しているのか、来客数の減少が続いている。
		家電量販店（店長）	お客様の様子	・物価の上昇や先行きに対する不安の影響で、客の需要がAV機器等の嗜好品から生活必需品に流れている。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・新型車の発表告知があっても実車がないので、来客数に変化はない。
		その他小売 [ショッピングセンター]（管理担当）	お客様の様子	・7月初旬は景気が回復に向かっていく感じがあったが、後半は来客数や売上が鈍化している。3か月前と比べ、来客数は若干増加しているが、来店しても多くの買物はせず、目的買いがほとんどである。イベントへの参加人数ももくろみより少ない状態である。
		観光型ホテル（副支配人）	お客様の様子	・県民割が延長になり、宿泊の予約は3か月前と同様に順調である。
		都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・円安を背景とした物価上昇もあり、客が外食やレジャーにかかる費用を節約する傾向にある。新型コロナウイルスの新規感染者数の急増で、来客数が落ち込むと予想したが、政府の行動制限がなく、足元の人出などは変化がない。また、宿泊やレストランの個人客利用も安定している。
		旅行代理店（支店長）	販売量の動き	・7月に入り、夏休み需要を中心に売上は増加していたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で失速している。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・物価上昇が直接消費動向に響いている様子はなく、当社サービスにおいても、解約数は前年同期を下回って推移している。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・ボーナス時期で引き合いは新型コロナウイルス感染症の発生前に近い感触となっている。
		通信会社（工事担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大のため、景気は良くなっていない。
		テーマパーク（管理担当）	お客様の様子	・政府の景気対策が国民の求めるものではないため、景気は良くなっていない。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に増加しているため、予約が減少している。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の第7波が到来したことで、引き合いの低調な状況が続いている。
		設計事務所（経営者）	販売量の動き	・以前と比べて最近の仕事量が少なくなっており、今後も急激に増加する様子はなく、量についてはやや少ない状況で今後も変わらない。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・客の年収が伸びず、住宅等への投入金額が抑制され、需要が中価格帯の物件に集まっており、リノベーションも含めた動きとなっているため、動きが遅くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・3年ぶりに再開されるイベントなどを見ても、感染対策をしっかりとすれば、参加する客が増加している。
		商店街（理事）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加、物価の上昇、梅雨明け後の長雨などの影響で、客の購買意欲が低下している。
		商店街（代表者）	単価の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響で、来客数が減少し、客の購買意欲も低下している。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	来客数の動き	・暑さで来客数が減少したことや仕入価格が上昇したことで、景気は悪化している。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・月の前半はセールが開始したということもあり、来客数は前年を上回っていたが、中旬以降は新型コロナウイルス感染症の影響で、日々客が少なくなっている。また、衣料品などの売上が前年を下回っている。
		百貨店（営業企画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染再拡大の影響で、来客数や売上が急激に悪化している。回復傾向にあった土産品等の売上也急激に悪化している。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で、7月中旬より来客数が大幅な減少に転じ、売上也非常に厳しい日々が続いており、6月までと比べると1割近い減少となっている。
		百貨店（外商担当）	お客様の様子	・7月に入り、新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に増加し、1日の新規感染者数が最高を更新したことで、来客数が減少し、6月と比べて明らかに厳しい状況になっている。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・客単価は横ばいだが、来客数や買上数量が減少している。
		スーパー（業務開発担当）	来客数の動き	・食品は、相次ぐ商品の値上げで、買い控えや必要最小限の買物になっている。
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・来客数は前年比98%、新型コロナウイルス感染症の急激な感染拡大、商品の値上がりによる節約傾向、天候不順もあり、厳しい状況が続く。
		スーパー（財務担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向にあるにもかかわらず、内食需要の減少と価格の上昇により、買上点数が減少し、売上が前年を下回っている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加してきているため、景気はやや悪くなっている。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響なのか来客数が減少している。また、テレビやエアコンなど大物商材の売行きが悪くなっている。
		家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・猛暑になったり、雨が降ったりと天候が不順なことで、来客数がかかり減少し、売上也減少している。
		乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症が再拡大し始め、来客数が減少している。客の購買意欲等は変わっていないが、外出する機会が減っている。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・3か月前と比べ、週末の来客数が激減している。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・値上げ等により、販売額は増加しているが、来客数は増加しておらず、単価は上昇したが、件数は微減となっている。販売額が増加しても、値上げによる販売コスト増もあるので、利益が増加したとはいえない。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、景気はやや悪くなっている。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の影響で、街に出る人がますます少なくなっており、地方の街は厳しい状況である。
		高級レストラン（事業戦略担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加するにつれて、先の予約のキャンセルも増加し始めている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が過去最高となつてから、来客数は平日だけでなく、前年を上回っていた休前日や休日も減少している。特に今月の第3週に入って、休前日の来客数の落ち込みが激しくなっている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・1組当たりの来店人数が減少している。また、ディナータイムの客単価も低下しつつある。
		バー（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加で、景気はやや悪くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・レストランの来客数は、ここ最近でも特に変化はなく、5～6月などは回復傾向にあった。ただし、客室利用については、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加の報道が過熱化するたびに、落ち込んでおり、回復の兆しが全くみえない。
		旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・景気は回復に向かっていたが、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加し、客が旅行に行けなくなってきている。また全国旅行支援も延期になっている。
		ゴルフ場（営業担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加したことによるキャンセル、特に団体のキャンセルが増加してきている。
		競艇場（企画営業担当）	販売量の動き	・3か月前はG1競走が開催されたが、今月は同規模の売上が見込まれるレースが開催されなかったため、景気はやや悪くなっている。
		住宅販売会社（営業所長）	来客数の動き	・高層層の動きが悪い。コスト重視の客の動きはあるが、将来不安に陥るケースも多発している。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・市民レベルではそうでもないが、自治体からの意味のない人数規制等が経済活動をひっ迫させている。今は個々人の新型コロナウイルスへの感染予防にとどめる段階である。
	×	一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大で、外出する人がかなり減少している。
	×	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・4月から多数の国産製品が値上がりし、消費者が国産製品より安いアジアの諸外国の輸入製品を求めている。販売価格も利益も低く、前年と比べ業績が悪化している。
	×	住関連専門店（営業担当）	来客数の動き	・来客数の減少が止まらない。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が1000人を超えた頃から、来客数が一気に減少している。
	×	観光型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響もあり、既存予約がキャンセルとなり、先行予約が激減している。
	×	都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・4月以降、景気は徐々に回復してきたが、7月に入り、新型コロナウイルスオミクロン株BA.5が全国的に拡大したため、既存予約がキャンセルとなり、新規予約の動きも鈍化している。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で、景気は悪くなっている。
	×	通信会社（広報担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の再拡大や物価上昇の影響で、客が買い控え傾向にある。
	×	美容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いておらず、客が外出に敏感になっている。また、物価の上昇で、客が節約傾向にある。
企業 動向 関連 (中国)		*	*	*
		化学工業（総務担当）	取引先の様子	・物価の上昇もあり、先行き不透明感はあるが、現状では景気は良くなっている。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・5G市場や半導体向けのパッケージ基板の需要が拡大しているため、機械装置の受注は堅調に推移している。また、電子部品等の調達難により納期長期化を見越した客からの先行発注もあり、売上は増加傾向にある。
		輸送業	受注価格や販売価格の動き	・注文が増加している。
		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しつつあり、厳しい状況である。
		繊維工業（財務担当）	受注価格や販売価格の動き	・購入する商品が値上がりしている。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・鉄鋼業向け大型案件の生産の末期であり、納期対応のため非常に多忙な状況である。一般の注文品も鉄鋼業向けを中心に高水準の状況が続いている。
		鉄鋼業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・春先から大きな変化はなく、景気は横ばい状態が続いている。
		金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・生産能力以上の受注があるため、超過勤務で対応しているが、納期に間に合わないこともある。そのため、当社が受注できず、受注が他社へ流れることもあり、機会損失となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般機械器具製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・生産計画や販売等に大きな動きはなく、現状維持となっている。
		建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・資機材の値上げの情報が入ってくるが、民間工事において工期中の値上げは厳しい。
		輸送業（業務推進担当）	取引先の様子	・不安定な世界情勢、新型コロナウイルス感染症の第7波の影響、仕入価格の高騰等の景気が上向く要素が乏しい状況が続いている。
		輸送業（総務・人事担当）	受注量や販売量の動き	・中国でのロックダウンの影響を大きく受け、回復の兆しがみられたが、新型コロナウイルスの感染拡大もあり、油断できない状況である。
		通信業（営業企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・データセンターやICT関連に対する企業の投資は計画的に進められており、引き合い量に変化はない。電気を安く購入したい中国系企業からの引き合いなども増加しているが、なかなか成約には至らない。
		金融業（貸付担当）	取引先の様子	・移動制限は緩和されており、消費は回復傾向にあるが、原料高、原油価格高止まり、円安の影響を受け、コスト高となっており、企業の収益力は総じて伸びていない。
		金融業（融資企画担当）	取引先の様子	・半導体不足等の影響もあり、地元完成車メーカーの国内生産が通常時の6割程度にとどまっている。このため、系列の地元部品メーカーの受注も車種によるばらつきはあるものの、おおむね通常の5～7割の低水準となっている。
		不動産業（総務担当）	それ以外	・前月と比べると、来客数や成約件数は、10%近く増加しているが、2か月前と比べると、1%の減少となっている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているため、受注量や販売量が上向かない。
		会計事務所（経営者）	受注量や販売量の動き	・コロナ禍で停滞した臨時取引が回復している。一方で、車両リースの新規取引が半導体不足から低迷、再リースや減車の動きも増加しつつある。
		農林水産業（従業員）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症の再拡大で、飲食店に影響が出ている。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・春の1回目の値上げ以降、受注量や売上が減少している。
		木材木製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・円安等の影響で、輸入材、特に合板材の価格が高騰し、コストを圧迫しているため、収益にも影響が出ている。コストの上昇を販売価格に転嫁するには限界があるため、景気はやや悪くなっている。
		鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・最近の受注に陰りが出ている。
		非鉄金属製造業（業務担当）	それ以外	・原材料やエネルギー価格の上昇が収益にマイナスの影響を与えている。コストの上昇を価格に転嫁できる製品が少ないため、厳しい状況である。
	x	-	-	-
雇用 関連 (中国)		-	-	-
		求人情報誌製作会社（HR担当）	周辺企業の様子	・先々を見据えて、新卒採用を強化したい企業が増加している。
		職業安定所（事業所担当）	求人数の動き	・新規求人数は、前年比で19.8%の増加、前々年比では26.8%の増加と、明らかに回復傾向にある。産業別では、製造業、情報通信業、宿泊・飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業、医療・福祉・介護業など多くの産業が前年と比べ、10%以上増加している。
		民間職業紹介機関（人材紹介・派遣担当）	求職者数の動き	・転職相談の数が前月比140%となり、企業の採用も進んでいる。
		人材派遣会社（経営戦略担当）	求職者数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたウィズコロナの状況から一転して急激な感染拡大の状況となったことから、求職者の動向は再び不透明な状況になっている。
		人材派遣会社（副支店長）	求人数の動き	・派遣依頼数が新型コロナウイルス感染症の発生前に戻ってきている。求人数、求職者数共に増加傾向にある。
		人材派遣会社（支社長）	周辺企業の様子	・半導体不足により、製造業全般で、受注できても供給ができない状況が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		求人情報誌製作会社（広告担当）	採用者数の動き	・次年度の採用計画を立案する時期だが、企業の採用者数は新卒はほぼ変わらないが微増、中途採用はここに来て、活発になってきている。新卒は量ではなく、質を重視し、自社に合う学生を採用する動きとなっている。一方、中途は就職氷河期に採用を控えた年齢層の獲得や自社に足りない技術や能力を補う採用に変わってきており、新型コロナウイルス感染症の発生前より採用者数が増加している。しばらくはこの状況が続く見込みである。
		職業安定所（所長）	求人数の動き	・新規求人数は、宿泊業・飲食サービス業が新型コロナウイルスの新規感染者数の減少により増加する需要への対応のため、大幅に増加したのが目立っており、求人全体でも前年同月と比べ2割の増加となっている。
		職業安定所（雇用関連担当）	求職者数の動き	・求職者数は前年同月と比べ2.2%減少、紹介件数も前年同月を下回る状況が継続し、応募の抑制がみられる。
		民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・企業の採用意欲は依然として高めに推移しているが、給与水準は伸び悩んでいる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・7月以降、原価高騰や半導体不足等の影響で、車や住宅等の販売状況が著しく悪化している。小売業も6月までは好調だったが、お中元商戦等は苦戦している。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	求人数の動き	・前年と比べ、求人数が若干減少している。
	x	-	-	-

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)		*	*	*
		商店街（事務局長）	来客数の動き	・コロナ禍でも、当商店街は観光客も含め来街者は比較的多く、にぎわいが感じられる。酒類を伴う夜の飲食店はダメージが大きいですが、それ以外の業態は比較的悲壮感はない。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭、外商共に売上は前年を若干上回っている。
		スーパー（財務担当）	単価の動き	・土用の丑の日のウナギは高価でも好調である。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・7月に入って来客数、売上が堅調に推移している。新型コロナウイルスの感染再拡大の影響から夜9時以降は悪いものの、それ以外の時間帯は至って堅調である。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・季節商材は思ったほど伸びていないが、他部門の商品が売れている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・コロナ禍のなか警戒意識は薄れていっているようで、客足が少しずつ戻ってきている。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症対策の行動規制が掛かっているため、夏休み期間中の来客数は2019年の9割程度まで戻っている。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・来客数及びWeb予約は順調に増加していたが、新型コロナウイルス感染症の第7波により取消しが発生している。それでも3か月前より販売量は増加している。
		競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響は軽微で、遊興の気持ちに水を差すまでにはなっていない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響が多少なりとも出てきており、客の動向が不規則になってきている。久しぶりに入った予約もキャンセルとなるなど、厳しい状況が続いている。また、電気代等の値上げに加えて仕入商品価格が上昇傾向にあり、難しい経営状況が続いている。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・暑さで飲料品の販売量は伸びるはずだが、個人商店では量販店に価格面で対抗できず、ギフトや家庭用販売量には結び付かなかった。
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・商品の値上げが止まらず、値上げ前の買い回りで売上、売上数量共に上昇傾向にある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（入事）	来客数の動き	・来店客が減り、商品単価は上昇しているが、販売点数は横ばいとなっている。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・この3か月は売上、来客数共に変化はない。新型コロナウイルスの新規感染者数急増の影響はみられない。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・梅雨明けが早く、新型コロナウイルス感染症も落ち着いていたが来客数はまだ回復していない。しかし、商品の値上げや買上点数増加などにより客単価は大きく上昇している。売上は新型コロナウイルス感染症発生前の水準に戻っている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大の影響で、来客数が少なくなってきた。新型コロナウイルスの感染状況次第ではあるが、夏休みに入れば人の動きも出て、足踏み状態にある景気も良くなり、販売量も増えると思う。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が増えた影響で売上は低迷していたが、最近は持ち直し始めている。
		衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・前年比120%程度で推移していたが、新規感染者数が増えてからは来客数に大きく影響し、売上減少につながっている。最終的には前年比110%程度になると思われる。
		家電量販店（副店長）	来客数の動き	・前半は季節商材を中心に売上は好調に推移していたが、中盤以降は新型コロナウイルス新規感染者数が増加したことにより来客数が減少している。
		乗用車販売業（営業担当）	来客数の動き	・半導体不足などの影響で受注停止や納期が長期化し、厳しい状態が続いている。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・物価上昇や新型コロナウイルスの感染再拡大の影響が出始めている。
		通信会社（営業部長）	販売量の動き	・販売数は堅調に推移している。新型コロナウイルスの新規感染者数が増えているが、来店客はこちらからの声掛けを避ける様子もない。
		設計事務所（所長）	単価の動き	・建築単価の上昇が止まらないため、建てるのを途中でやめる人や、逆に今から建てることを決断する人もいる。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の爆発的な増加により、消費者マインドがかなり落ちているように思える。来街者数は大きく落ち込んでいないものの、購買力は下がっている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・3年ぶりに開催されるイベントが中止又は縮小される可能性が高くなっている。消費者の警戒感に対し、受け入れる側の準備対応が難しい。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	それ以外	・夏休みに向けて飲食店等の開店が増え街ににぎわいが戻ってきたところだったが、新型コロナウイルスの感染急拡大でまた人通りがまばらな状態になった。昼間はまだ買物客がいるが、夜の繁華街には人がいないため商品が売れない。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症が急拡大し始めた中旬以降、売上は落ちている。しかし、以前と比べたら落ち方は小さい。
		百貨店（営業統括担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の急拡大の影響が大きい。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の急増による買い置き需要は増えたが、それ以上に来客数減少による影響が大きい。
		コンビニ（商品担当）	それ以外	・売上や来客数は増えつつあるが、猛暑に加え電気やガソリン価格の高騰で販管費がそれを上回っている。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・物価上昇と新型コロナウイルス感染症の急拡大に伴い、乗用車など高額商品の購入は慎重になっている。
		乗用車販売店（役員）	それ以外	・国内メーカーの生産状況が改善しないため、売上が読めない。生産遅延が頻発して受注に悪影響が出ている。転売目的等の受注も見受けられ、生産状況が回復しても多くのキャンセルが予想される。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（総務部担当部長）	販売量の動き	・近隣のイベント開催によって売上は堅調に推移しているが、それを除くと前年割れの水準にある。物価上昇や新型コロナウイルスの感染再拡大の影響を懸念している。
		観光遊園地（職員）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で、外出を控える人が増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		美容室（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の急拡大に、戸惑いながら来店している客は多い。来客数は余り変わっていない。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の急拡大の影響が出ている。
	x	タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が急増している影響で、昼も夜も乗車率が悪い。飲食店も夜は営業していない店が多数あり、医療崩壊の懸念もある。
	x	タクシー運転手	来客数の動き	・暑くなると遍路の仕事はほぼなくなる。新型コロナウイルスの感染再拡大により、夜の街の状況が再び悪くなっている。
	x	通信会社（社員）	それ以外	・販売量に大きな変化はないが、新型コロナウイルスの感染再拡大で、会社の方針として出張や会食が原則不可となるなど対外的な動きを控えることになった。
企業 動向 関連		-	-	-
(四国)		木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量は増加傾向にある。円安の影響を受けた原材料価格の第1弾の変更が完了しつつあり、利益は改善傾向にある。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・再生可能エネルギー事業は現在、盛んに引き合いがあって整備する場合もある。特にバイオマス関係の問合せや引き合いが成立するような状況である。
		建設業（経営者）	取引先の様子	・公共事業は順調に発注されており、本業は堅調に推移している。同業他社から悪い話は聞かないし、協力会社や取引先も回復傾向にあると聞く。光熱費やガソリン代、材料の価格高騰や人件費増など課題はあるものの、公共事業の堅調を主因として、景気はやや良くなってきている。
		輸送業（経理）	受注量や販売量の動き	・国内向け出荷数量に大きな変化はないが、海外は東南アジアや中国向け輸出入数量が増加してきた。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・価格転嫁がしやすい環境下であること、中心商店街の人通り、宿泊施設の予約状況も新型コロナウイルス感染症発生前に近い水準まで回復していること等から景気は良くなっていると考えられる。ただし、新型コロナウイルスの新規感染者数の急増により行動規制が再度発出される事態となれば、景気減速の懸念となる。
		化学工業（所長）	それ以外	・原油やナフサの価格の乱高下が激しい。受注量は多いものの、実需が増えているわけではない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・世界的な半導体不足による調達環境の悪化、原材料価格の高騰、円安の進行、ウクライナ問題など、足元では先行き不透明な状況が深まっている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ここに来て民間、公共事業共に受注状況が非常に悪い。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加したことで少し見通しが悪いが、以前ほどではない。
		輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・事業者向け物流を取り扱っているが、コロナ禍で減少した取扱物量に回復の兆しはみえず、依然として景気の低迷を強く感じる。取扱物量の低迷の要因は、新型コロナウイルスの感染再拡大による行動自粛に加え、物流や原材料、エネルギーのコスト上昇分の転嫁が進み主要貨物の非耐久消費財や半耐久消費財の販売価格が上昇したことであると推察する。
		通信業（総務担当）	それ以外	・まん延防止等重点措置の解除後に社外でのイベントなど順次再開されつつあったが、新規感染者数が急増しているため一時的に自粛の動きが出ると想定される。
		鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・受注量は回復傾向にあるものの、人手不足により生産や販売量が追い付いていない状況が続いている。
		税理士事務所	取引先の様子	・物価上昇により消費の幅が狭くなってきていると感じる。
	x	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・卸売価格は、果実や花きは比較的堅調だが、取扱量の多い野菜が低迷している。受給バランス以上に荷物が動かない状況である。
雇用 関連		-	-	-
	*	*	*	*
(四国)		人材派遣会社（営業）	周辺企業の様子	・第7波のピークアウトがみえない状況だが、夏休み期間中の公共施設の集客状況は新型コロナウイルス感染症発生前と同じ水準まで戻っている。しかし、マスクを外すサービス等で理美容や飲食業界では日常生活への制限がなくても自粛する人が増加傾向にあり、いまだ景気回復には至らない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・製造業の求人数は増加しつつあるが、サービス業からの派遣依頼は低迷している。総じて景気は横ばいである。
		求人情報誌（営業）	求人数の動き	・周辺企業では中途採用の求人数が増加しつつあるが、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けていない業種に限られる。観光やサービス、飲食とその周辺の業界は不景気が続いており、全体としては横ばいである。
		職業安定所（求人開発）	採用者数の動き	・新規求人数や新規求職者数は前年比増加しており、新規求人倍率と有効求人倍率も前年を上回っている。しかし、求職者数が滞留しているようで就職率は下がっている。
		民間職業紹介機関（所長）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの感染再拡大の影響もあって、企業活動はやや停滞している印象を受ける。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルス感染症の影響と物価上昇により、民間企業が広告を抑えている。
	x	-	-	-

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症による行動制限がないことで、イベントや仕事での人の動きは活発化しており、行楽型の飲物や軽食類の販売が新型コロナウイルス感染症の発生前に戻ってきた。自粛中での生活用品需要等も動いており、売上は上昇している。
		住関連専門店（従業員）	単価の動き	・新型コロナウイルス感染症や猛暑等で集客は苦戦しているものの、催事では高価格帯商材が売れており、例年と比較して好調に推移している。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスが感染再拡大をしているが、多くの客が来町している。前月と比較すると宿や遊覧貸しポート等の問合せ件数も多くなっている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・3月から来客数や販売量共に、回復基調である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・サマーセールを開催しているが、新型コロナウイルス新規感染者数の急激な増加で来客数の減少を覚悟していたが、ほとんどの客は3～4回ワクチン接種をしており、この状況下でも来客数が増加している。
		百貨店（経理担当）	競争相手の様子	・市内大型店3店の7月売上の見通しは、前年比100.6%、2019年比89.5%である。3か月前の売上は、前年比107.3%、2019年比87.9%とやや改善がみられる。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・猛暑ではあるが、夏の贈答や在庫一掃セール、旅行で戻りつつあったにぎわいが、新型コロナウイルス新規感染者数の急増で、中旬以降入出が大きく落ち込んでいる。周辺商店街では夏休みの旅行者は目立つが、新型コロナウイルスの感染対策のため、外出自粛の声が多くなり、お中元商品の持ち帰りが減少している。一方、通信販売利用や県下のサテライトショップ、ギフトショップ利用は堅調である。しかし、新型コロナウイルスの感染警戒の外出自粛がより強まっている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前年に比べ雨天が少なかったため来客数は増加し、また客単価も増加したため、前年を上回る状況が続いている。しかし、いまだに新型コロナウイルス感染症発生前の状況には達していないため、経営的には厳しい状況が続いている。また、新型コロナウイルス新規感染者数が最高を記録するなかで、再び行動制限等の規制が始まることを危惧している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株BA.5に置き換わり、新型コロナウイルス感染症に対する認識が甘くなり、日常生活が以前に戻りつつある。人流が増えることで景気も若干良くなっている。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大の勢いがすさまじい状況であるが、企業や個人も今までのような危機感や、身の安全の意識が経済を回すことより優先になっており、客自体の変化がまだみられていない。
	コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・来客数は、前年及び前月共に変わらないが、販売価格の値上げが影響して客単価は若干上がっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・商品供給が厳しいが、季節要因も追い風となり、販売量は前年より上昇している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症による行動制限も解除され、少しずつではあるが来客数も増えている。しかし、再び感染が拡大し、慣れてきているとはいえ外出自粛が増加しないか不安である。
		観光型ホテル（総務）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が拡大しているが、抑え込むことなく経済優先の姿勢が見て取れるため、客の消費意欲は減少していない。しかし、法人の宴会控えが目立つため、個人消費に依存せざるを得ないが、会社からの行動制限が個人消費を抑制する動きもあるため、宿泊飲食観光業界にとってまだまだ厳しい。
		旅行代理店（職員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加により、7月中旬以降は販売量が鈍化しているが、3か月前と比べればまだ良い状況である。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月に入って、新型コロナウイルスの新規感染者数が急増しているものの、行動規制が行われていないため、20日頃までは利用者数の減少が余りなかった。しかし、月末にかけては爆発的な新型コロナウイルスの感染拡大で、週末の観光客や繁華街等、入出が目に見えて減少している。
		競馬場（職員）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症による規制の反動から、入出の回復が続いている。
		その他サービスの動向を把握できる者（所長）	お客様の様子	・客先の受注や製品検査等の状況が良くなっている。新型コロナウイルスの感染状況が5月頃に落ち着いたこともあり、来客数が増えている。
		住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・住宅支援事業の拡大や延長に伴い、対象であるネット・ゼロ・エネルギー・ハウス仕様等の比率増に伴い単価も上昇傾向にある。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街の火災からまだ一部が閉鎖され、来客数が戻っていない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・例年ゴールデンウィーク明けから閑散期が始まる。加えて、新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、自粛心理が追い打ちになっている。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・相次ぐ値上げで客の買上点数が減少し、そのことが客単価減少にもつながっている。全体的にディスカウントショップに客足が向いている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・梅雨明けが早く、天候が良いことから、水物商材の需要が増え、売上が増加した。一方、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、病院内の店では来客数が激減しており、7月は厳しい状況である。対策を採っていかなければ、今後も悪い影響を避けられず危惧している。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波になっているが、行動規制がまだないため、客の動向がどのようになっているのか判断が難しい。
		衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・7月はセールのシーズンとなり、前半は人や物の動きが多少出てきて、月末まで順調であれば景気が若干良くなる見込みがあった。新型コロナウイルスの感染拡大で、活気にプレーキが掛かり、高価な衣料品を購入をしなくなり、今月は厳しい状況である。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新型車は投入され受注は順調に推移しているが、新車の生産が回復しないため、長納期の状態が続いている。客に迷惑を掛けているが、当社も売上が立たず経常利益が赤字になるなど大変厳しい経営を強いられている。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新型車投入効果はあるものの供給が進まず、上向きとはいえない状況である。
		住関連専門店（経営者）	それ以外	・下見をしていた客の購入があり、店での売上が上向いている。一方、都市部でのキャンペーンは、振るわない状態である。
		その他専門店【コーヒー豆】（経営者）	販売量の動き	・お中元シーズンになり客の出入りはあるが、コーヒーの販売量は前年と余り変わらず横ばいである。
		その他小売の動向を把握できる者【ショッピングセンター】（統括者）	来客数の動き	・来場者数は多少回復基調にあるが、インバウンドや国内観光客共にまだ新型コロナウイルス感染症の発生以前に戻っていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・現在は景気が良いが、緊急事態宣言が発出されるとキャンセルが増え悪い状態になる。先が見えず資金繰りの予定が立てづらい状況で懸念される。
		通信会社（営業担当）	それ以外	・自社において、好材料が見つかっていない。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・前年から来場者が順調に推移しており、しばらくこの傾向は続く。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・夏になり忙しい時期になってきたが、また、新型コロナウイルスの感染が拡大している。自粛規制も気になり始め、暑さも加わり、動きが悪くなっている。さらに、店の販売商品も動きが悪くなっており、景気対策が必要になっている。
		美容室（店長）	お客様の様子	・新型コロナウイルス新規感染者数が増加しているが、コロナ禍の対応に慣れ、人の行動が広がっている。しかし、景気は良くなっていない。
		学習塾（従業員）	お客様の様子	・受講者数が学年によって差があるが、全体的には受講者数が前年と変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・旅行や買物、商店街への入出は多くなっている。特に若年層が多くなっており、使用する金額を考えると変わっていない。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・客の購買意欲がなくなっており、来客数が減少している。その要因として、新型コロナウイルスの感染再拡大で、外出が少なくなり、外出用の衣料品の需要が減少していることが考えられる。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・月初めには、新型コロナウイルスの感染状況も落ち着き、梅雨明けも例年より早く夏物商材の動きも好転しそうであったが、生活必需品の物価高や新型コロナウイルス新規感染者数の急増に加えて、行政や報道からの熱中症アラートによる外出自粛の呼び掛けで、商店街では買い回り客が少なくなっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症第7波の拡大で、商店街への来街来客数が大幅に減少している。特に高齢者の来客数の減少が著しい。
		一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・猛暑のために客足の伸びが悪く、客単価も下がっており、加えて、県外商品が中心になり、野菜の単価がかなり高くなっている。客足が少ない上に、商品の価格が高くなり悪循環に陥っている。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増していることもあり、飲食店向けの販売量が落ちている。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・魚の値段が高く需要が少ないため、仲買として売上が上がっていない。漁獲量減少が影響しており、加えて、客が減少している上に魚の値段が高いため、廃棄する店も出ると予想される。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向で、事務所や飲食店へのお茶の卸等外交販売による売上は再度減少している。加えて、暑さも影響し売上は伸びない。ここ数年の売上は減少しており、仕入原価の高騰もあり利益率は厳しい。
		百貨店（企画担当）	来客数の動き	・7月前半は好調に推移したものの、中旬以降の新規感染者数の急増で売上が減少している。
		百貨店（経営企画担当）	単価の動き	・前月まで落ちていた新型コロナウイルス感染症が、7月中旬以降に感染拡大し、来客数減少と客単価の低下が見受けられる。
		百貨店（業務担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症による行動制限はないものの、新規感染者数が最多になっている報道で、外出や不要不急の行動を控える客が増えている。夏休みやお盆の動きはあるものの、買物を控える人が増加している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスが感染拡大しているが、行動制限がないため消費支出の比率が変化している。特に販売点数減少が深刻で、加えて、食品値上げも大きな要因の1つである。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の爆発的な増加が、来客数の減少に大きく影響している。加えて、物価上昇に歯止めが掛からず、買上点数も減少しており、売上の伸長は望めない状況にある。
		スーパー（経理担当）	単価の動き	・行動制限が解除され、大型商業施設の店では売上が戻っている。全体的に売上は前年を超えているが、買上点数の減少や1品単価の増加等値上げの状況が顕著に表れている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・梅雨が例年より短く、盛夏商材の動きに期待したいが、商品の値上げで非常に厳しい状況である。
		衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・来客数は新型コロナウイルス感染症の発生前に戻りつつあったが、新型コロナウイルス感染症第7波の影響でメインターゲットであるシニア層の来店が激減した。
		家電量販店（店長）	お客様の様子	・在庫がない商品が多く、買換えが必要な客以外は買い控えをしている。
		乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・自動車にも値上げの波が広がっている。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	お客様の様子	・4月は、新型コロナウイルス感染症について新規感染者数の推移も落ち着き、春休みやゴールデンウィークに向けて経済活動が活性化し、特に衣料品やコスメ用品等、外出を目的とした商品の稼働が目立っていた。それに対し現在、新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で、当県でも新型コロナウイルスの新規感染者数が1000人を超える日もあり、消費者動向に陰りがみえている。
		その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が急増しているが、まん延防止等重点措置等は適用されないため、売上水準が急激に下がってはいない。外出自粛も増え飲食店への売上は減少し、景況感は悪化している。
		タクシー運転手	それ以外	・新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大が発生し、人の動きにかなり影響が出ているため、先行き不透明であるため懸念される。
		タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染対策のため、外出自粛が増加しており、人の動きが悪くなっている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・光回線契約の販売件数が減少している。
		通信会社（統括者）	販売量の動き	・携帯電話及び関連商品等の販売は、計画比や前年比共に下回っており、店以外でのイベントを増強し販売促進を強化している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症第7波の感染再拡大で、サービスキャンセルが増加傾向で、今後の売上減少が懸念される。
		設計事務所（代表）	単価の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響により、建材の高騰が続いている。
	×	一般小売店〔生花〕（経営者）	それ以外	・当店は花の贈物がメインであるため、卒業式シーズンや母の日が終わり、加えて、猛暑で花が持たないため買い控える人が多い。しかし、当店では就任祝いや開店祝いなどの仕事が入るため、最悪な状態は免れている。新型コロナウイルス感染症への対策次第で、店により来客数に差が出ている。
	×	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症第7波の影響で感染が拡大し来客数が大幅に減少傾向に転じたため、大幅に悪化し、来客数の前年比は下回って推移している。夏休みに入っているが、家族での来店が少ない。
	×	スーパー（店長）	販売量の動き	・衣料品や食品、住余カテゴリーのなかで、食品関連の苦戦が前月と同様に続いている。特に今月ではお中元などの動きが鈍く、景気停滞による影響が顕著に出ている。
	×	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いたかにも見えたが、急に新規感染者数が増加し、来客数に水を差した状況である。
	×	家電量販店（店員）	販売量の動き	・7月は、季節商材であるエアコンの売上が非常に悪く、また、テレビの需要も最低であるため、極端な落ち込みである。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・7月前半は、大人数の宴会が入っていたが、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加するにつれ、キャンセルも増え、宴会も減少している。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が爆発的に増加したため、飲食業では客の動きが止まり、街は閑散としている。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で、来客数が激減している。
	×	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・繁忙期であるが、新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、稼働が全く伸びない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	設計事務所（所長）	単価の動き	・建物を建築するに当たり、材料費や製品代の価格上昇や入手困難が続き、生活必需品の価格上昇も重なっており、建築を再検討する建築主も増えている。
企業 動向 関連 (九州)		農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年の7月は、梅雨による消費減少がなかった。居酒屋などを中心に抑えられていた消費が、一気に戻り注文量が多くなっている。また、量販店向けも前年ほどではないが、新型コロナウイルス感染症の発生前と同じ注文量になっており、加工メーカー向けも冷凍肉を中心に順調な引き合いが続いている。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体製造装置関連の受注が、依然好調である。
		電気機械器具製造業（取締役）	受注量や販売量の動き	・半導体関連や自動車装置関連での引き合いが継続中である。課題は、部品調達の価格高騰や納期遅延である。また、パート人材の採用が特に厳しくなっている。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・今月上旬は飲食サービス業の景気はかなり良くなっている。しかし、下旬は新型コロナウイルスの新規感染者数が増加してきたため、人の流れが止まっている。以前よりは商況は回復しているが、今後再び厳しくなることを予想している。
		経営コンサルタント（代表取締役）	それ以外	・自社で採用活動をしているが、積極的に採用をしている企業が増加しており、以前よりも応募の量や質共に低下しているため、景気が上向いている。
		農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・今年は例年と比べ気温が高く、農作物は順調に供給が進んでいる反面、早くから水害などの被害も発生している。市況の推移も国内の東西で違いがあり、単価の価格変動率も高い。
		金属製品製造業（事業統括）	受注量や販売量の動き	・受注は好調なものの売上まで結び付かない。材料の入手に見通しが立たず、価格も上昇し、旧価格のままでの受注残では、景気上向きにはならない。
		一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・業界の流れは、半導体の動きによって左右されるが、半導体不足のため取引先は計画どおりに行っていないように見受けられる。しばらくこの状態が継続する。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注は引き続き好調であるが、原材料や副資材の高騰で利益を圧迫している。
		その他製造業 [産業廃棄物処理業]	取引先の様子	・生産ラインを増設し、今後の増産を進めていたが、新型コロナウイルスの感染拡大や原料調達がうまくいかず、休止状態になっている。
		建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・官公庁の発注も増え期待はできるが、競合であるため受注できるか定かではない。しかし、景気の風向きは良いため期待している。
		輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・倉庫への在庫量は多くなっているが、在庫量が少なく、結果在庫が膨れ上がっている。新型コロナウイルス感染症の終息後を見越しての生産過多なのか、需要がないのかは原因がはっきりしないが、両方の可能性もあるため、一概に景気が悪くなっているとはいえない。
		金融業（従業者）	取引先の様子	・供給面での制約から自動車の生産が抑制されているほか、家電販売も横ばいで推移している。一方、百貨店やスーパーマーケット及び旅行商品や飲食店の売上が回復傾向にあるが、新型コロナウイルスの新規感染者数が大幅に増えているため、このところ売上はやや伸び悩んでいる。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・人流の増加が落ち着き、小売業やサービス業が回復している。製造業では、資源価格の高騰や供給不足を背景とする生産抑制が続いている。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの県内新規感染者数が過去最多を更新し、旅行の取りやめや不要な外出を控える動きが再燃しており、飲食店の客足の戻りも鈍く、ボーナスの使い道では貯蓄志向がより強まっている。また、夏のイベントの開催状況は、主催者によって判断が割れている。
		新聞社 [広告]（担当者）	受注量や販売量の動き	・新聞広告における通販広告は、新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着き、家での滞在時間が減ることで反応が低下し出稿が低迷している。一方、旅行関係の広告は増えている。
	経営コンサルタント（社員）	競争相手の様子	・7月連絡会の状況から、新しい動きはない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・来客数が徐々に増え始めているが、新型コロナウイルス感染症第7波の影響で来客数は減少している。
		その他サービス業 [コンサルタント]（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村の調査や計画策定の委託業務で、指名競争入札が予定価格の約3割の応札が増えている。発注件数の少なさが要因として考えられるが、3割では利益が出ないことから、他の業者は対抗できず、受注機会が少なくなり景気が悪くなっている。
		繊維工業（営業担当）	それ以外	・新型コロナウイルス感染症の影響があり休む従業員が出始めている。そのため、仕事の流れが悪くなり、流通や資材も遅れており、新型コロナウイルス感染症の終息がみえず懸念される。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上は前年度と変わらない推移である。2～3か月前は量販店やふるさと納税など注文が入っていたが、現在は受注が減少している。値上げの申請をしており、計画どおりにはいかない状況である。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・中国でのロックダウン、国内の新型コロナウイルス新規感染者数の増加、円安、米国の景気低迷など様々な要因により輸入及び輸出が低迷している。国内では物価高による影響で買い控えも発生しており、商品の荷動きが悪い。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスオミクロン株BA.5の新規感染者数の急増や物価高により中小企業の収益に悪影響が出ている。
		金融業（営業）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で、夏休みの消費喚起が十分に発揮できていない。景気は、下降線をたどっている。
		不動産業（経営者）	取引先の様子	・事業者等との会話では、景気状況が余り良くない。
		広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波とロシアのウクライナ侵攻を受けて、今後の見通しが立たない。賃金も抑えられたままであり、悪いインフレになりつつある。
		その他サービス業 [物品リース]（職員）	取引先の様子	・円安の影響もあり、原材料の価格高騰で物価上昇を招いており、設備投資の抑制につながっている。
	x	-	-	-
雇用 関連 (九州)		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・派遣依頼では、増員をする企業が増えており、製造や物流関係の派遣先が特に多い。また、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているが、接客業からの問合せも多くなっている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているが、イベントは実施されている。しかし、売上に大きな影響はまだない。
		新聞社 [求人広告]（社員）	周辺企業の様子	・3年ぶりの行動制限のない夏休みを迎え、旅行や宿泊業を中心に、掲載を停止していた新聞広告が戻っている。近距離旅行の広告のみならず、関東、東北、北海道など、遠距離旅行の広告も掲載されている。件数は少ないが、海外旅行の新聞広告も掲載された。県民割を前面に押し出した旅行広告もあり、補助金頼みの一面もあるが、全体的に明るい兆しである。
		新聞社 [求人広告]（担当者）	周辺企業の様子	・コロナ禍ではあるが、経済活動の制限がなくなり、イベントや祭りなどが再開され、企業の活動や飲食店でも、感染対策も踏まえながら、景気に明るい兆しが見えている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が増加傾向で推移しており、コロナ禍ではあるが経済情勢は回復している。
		民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・求人案件数も毎月上昇傾向にあり、企業の採用意欲が高いまま推移している。また、採用人数の増加やスピード感により、今まで成果報酬型サービスのみ使用していた企業も求人媒体の活用に意欲的な企業が増えている。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人内容が直接雇用の案件など多くなり、長期の派遣に関しては横ばいが続いている。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・新卒学生の求人内定状況を前年と比較すると、理系では特に電気系と建築系の多く、逆に文系は前年よりやや減少傾向となっており、平均では増加している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		学校〔大学〕 (就職支援業務)	求人数の動き	・国内では、新型コロナウイルス感染症の第7波が猛烈な勢いで広がっているが、過去の感染拡大と比較し経済活動を制限する動きはない。しかし、この状況が長く続くようであれば、経済への影響も予測され、今後の求人数にも影響が出てくる。
		人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・求人数は増えているが、登録求職者数が伸びないため、成約に結び付いていない状況である。
		求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が増加している。経済活動は止めないという政府方針ではあるものの、人の動きは鈍く夏休み需要が低迷している。求人数も例年と比べ低迷しており、このまま緊急事態宣言が発出されるようであれば、経営に影響が出る。
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	それ以外	・新型コロナウイルス感染症の第7波が流行し、感染状況が県内の新規感染者数も過去最高を更新しており、人流が減少し、イベント中止など経済面でのマイナスが顕著に表れている。
		職業安定所(職員)	求職者数の動き	・有効求人数が、ほぼ全業種において15か月連続で前年比を上回っている。一方、有効求職者数は、前月まで8か月連続で前年比減少であったが、今月は増加に転じている。
	x	-	-	-

12. 沖縄(地域別調査機関:一般財団法人南西地域産業活性化センター)

(-:回答が存在しない、*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (沖縄)		コンビニ(副店長)	販売量の動き	・来客数、販売量共に前月末より増えてきており、夏休みに突入し期待大ではあるが、直近の新型コロナウイルス新規感染者数の影響か、3連休後の動きが鈍化傾向である。
		観光型ホテル(企画担当)	販売量の動き	・ホテルの4月の販売室数が前年比1%増加なのに対し、9月の販売室数は前年比344%増加と、プラス幅が大きくなっている。
		百貨店(店舗企画)	来客数の動き	・前年よりお中元ギフトの動きが良い。新型コロナウイルスの感染状況は月末に掛け過去最高を更新し続けているが、国から緊急事態宣言などの発出がないことから、日常と客の動きは変わっていない。
		コンビニ(経営者)	お客様の様子	・家族で来店する客が目立って増えており、販売量は増えている。
		乗用車販売店(経理担当)	お客様の様子	・広告への反応も良く、そこまで暗い感じはしない。
		観光型ホテル(代表取締役)	来客数の動き	・宿泊に関しては、客室稼働率が50%まで増えてきている。3か月前は30%であった。飲食は昼食などが少しずつ増えている。ただし、宴会に関しては新型コロナウイルスの感染拡大の影響でほぼゼロに近い。
		一般小売店〔酒〕(店長)	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染者数が増えているため、イベントや県による行動制限が出ていて景気は変わらなくなっている。
		スーパー(企画担当)	来客数の動き	・来客数の減少が顕著で、ここ2~3か月は同じ状況が続いている。県内の新型コロナウイルスの新規感染者数が、月後半から大幅に増加したことで、来客数や店舗運営に影響を及ぼしている。客の動向としては、来店頻度を抑え、極力外出を控える動きがみられる。店舗運営では、従業員の新型コロナウイルス新規感染者数の増加に伴い、チェックアウト業務や品出し業務に支障を来しており、営業時間の時短営業等で対応している。
		スーパー(販売企画)	販売量の動き	・商品の値上がりが進んでいて、それに伴い販売量が落ちてきている。単価は少し上がってきているが売上のカバーはできていない、また来客数も減少したままである。
		その他専門店〔陶器〕(製造)	来客数の動き	・数週間前までは良い予感がしていたが、新型コロナウイルスの感染状況がまたまん延していることにより観光客が減っているようである。
		旅行代理店(マネージャー)	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の陽性や濃厚接触者になる人が増え、急なキャンセルが増えている。販売量も回復傾向ではあるが、売上也伸びそうではないのが実情である。
		住宅販売会社(代表取締役)	来客数の動き	・個人住宅の完成見学会を行っても、新型コロナウイルス感染症の影響か、来場者数が以前と比べ少ない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住宅販売会社 (役員)	販売量の動き	・住宅見学者は一定数いるが、住宅金利の先高感もあり契約には慎重姿勢がうかがえる。
		衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大による第7波と同時期に連休も終わり、また物価上昇、エネルギー価格高騰などが要因で一般市民は節約志向へと向かっているとみられる。
		家電量販店(営業担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響がある。感染拡大による来客数の減少や、ロックダウンなどによる製造元の生産量の減少などである。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大により予約のキャンセルが相次いでいる。また一部商品の値上げがあり、買い控えが発生している状況にある。
	x	その他飲食[居酒屋](経営者)	来客数の動き	・7月第1週までは例年の75%ぐらいまで入客が戻り、期待が持てたが、また、新型コロナウイルスの感染拡大でどんどん入客数が落ち、今は、例年の10%台までに落ちている。地元のサラリーマンは全く動かず、観光客がちらほらという状況である。
企業 動向 関連 (沖縄)		-	-	-
		*	*	*
		食料品製造業 (役員)	受注量や販売量の動き	・夏休みに入り観光客数が増加し観光関連への売上増加が続いている。全国的に新型コロナウイルス新規感染者数が急激に増加しているが、今回は移動の自粛といったような影響はみられない。一方で生産者価格の上昇分の価格転嫁がまだ十分とはいえず中身は厳しい。
		会計事務所(所長)	それ以外	・円安で物価高となり、生活、消費行動の消極性が見受けられる。
		窯業土石業(取締役)	受注量や販売量の動き	・民間工事、公共工事とも見積依頼は横ばいの状況だが受注件数は減少しており、工場稼働率も低下している。
		建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・新規の契約が止まり、全くない。
		輸送業(経営企画室)	それ以外	・新型コロナウイルス感染症第7波の影響で各社の発注数量が減少している。
x	-	-	-	-
雇用 関連 (沖縄)		-	-	-
		学校[専門学校] (就職担当)	求人数の動き	・前年同時期と比較すると、求人数及び学内説明会依頼数も増えている状況である。前月と比較すると少ないものの、減少幅が小さいこともあり良くなっていると判断している。
		人材派遣会社 (総務担当)	求職者数の動き	・求人広告を掲載しているが、応募が少ない。
		求人情報誌製作 会社(営業)	求人数の動き	・3か月前の4月は求人数が多かったため、その時期と比較すると5%程度減少している。7月上旬は求人数が増加傾向にあったが、中旬、下旬にかけて減少している。沖縄県医療非常事態宣言の影響もあるかと推測している。
x	-	-	-	-